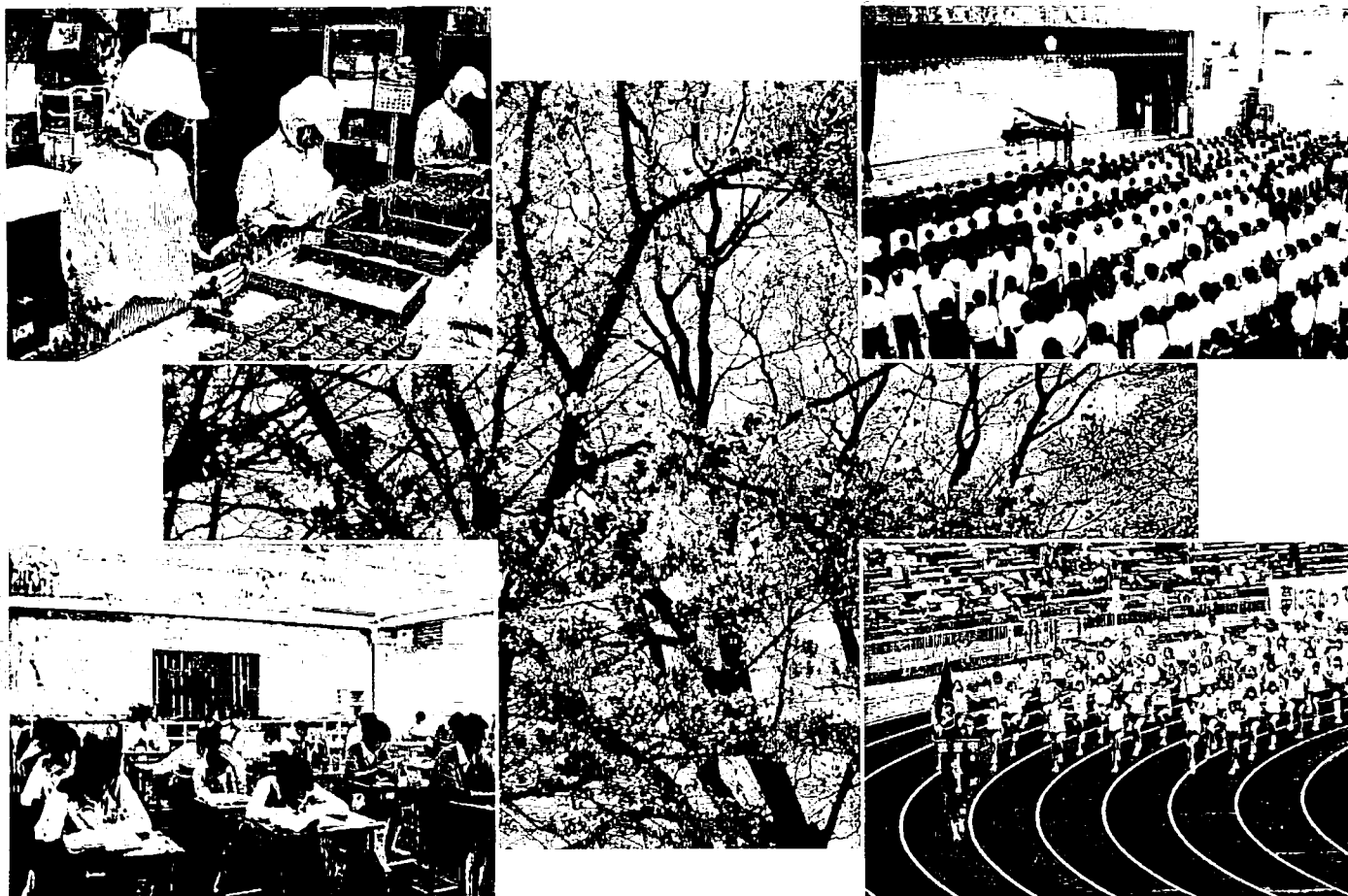


- 平成17年度・18年度・19年度 文部科学省指定「学力向上拠点形成事業」
- 平成16年度・17年度・18年度 京都市教育委員会指定
みやこ 学校創生事業“みやこステップアップ・スクール”
『指導と評価の一体化』

研究主題

教育評価を活かしたカリキュラム・マネジメント

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析 事例集（第2集）



平成18年11月21日（火）

京都市立衣笠中学校

目 次

序 論	校長	1
国 語 科	1年	11
国 語 科	1年	17
国 語 科	2年	21
国 語 科	3年	27
社 会 科	1年	31
社 会 科	2年	36
社 会 科	3年	40
数 学 科	1年	46
数 学 科	2年	52
数 学 科	3年	56
数 学 科	3年	60
理 科	1年	64
理 科	1年	68
理 科	2年	72
理 科	3年	76
音 楽 科	1年	80
音 楽 科	2年	83
美 術 科	3年	87
保 健 体 育 科	2年	93
保 健 体 育 科	3年	95
保 健 体 育 科	3年	98
技 術・家 庭 科	2年	102
技 術・家 庭 科	3年	106
英 語 科	1年	110
英 語 科	1年	114
英 語 科	2年	118
英 語 科	3年	123
英 語 科	3年	127
育 成 学 級	(音楽)	130

序 論

はじめに

地方分権化，規制緩和の到来の中，子どもの抱えている課題が多様化，深刻化し，地域の教育課題の重みが増しつつある。このような状況から考察すると，今後，ますます「特色ある学校づくり」が重視されてくると考えられる。そのために，学校は，今の現状を振り返り，次への方策をしっかりと把握することが重要になってきている。

平成10年改訂の学習指導要領が完全実施され，評定が観点別学習状況の評価とともに「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」（以下，「目標に準拠した評価」）に改められてから，早いもので5年の歳月が経とうとしている。その間，学習指導要領の一部改正（平成15年12月26日）により，学習指導要領が教育課程の「最低基準」と規定され，その「基準性」を踏まえ，教育課程や指導方法・指導体制の一層の工夫改善を図り，生徒の学力を保障することが求められている。そして，次期改訂の学習指導要領において，到達目標の明確化が推し進められている。つまり，今後，「目標に準拠した評価」がより重視されるということである。

衣笠中学校は，4年間，単元指導計画や評価活動の研究・実践を進め，授業改革をめざした実践研究を行ってきたが，そこで，いくつかの新たな課題が浮き彫りにされてきた。それは，以下の3点である。

第1の課題は，各教科等の年間カリキュラム，単元等において，「本質的な学力」とは何かをさらに明確にしていく必要がある。「本質的な学力」とは，「思考力」「判断力」「応用力」「総合力」といわれる高次な学力であり，それに加えて，各教科等の必要な「関心・意欲・態度」の側面であると考えている。つまり，教師は各教科等の学習内容において，例えば，「学習内容と深くかかわり，吟味しようとする力」「新たな学習内容と既習の知識や理解（経験）を総合化・応用化する力」「情報・資料を証拠として，結論を導いたり，検証したりする力」などの育成に着目し，「本質的な学力」として明確にすることである。

第2の課題は，各観点の「評価規準」を数量的な側面から判断するための境界値である分割点をもって「判断基準」A，B，Cとしていることである。「知識・理解」「技能・表現」の観点の一部をペーパーテストなどで判断する際に，分割点をもって「判断基準」とするのは妥当だといえる。だが，すべての「思考・判断」「技能・表現」，ましてや「関心・意欲・態度」までを数量的な側面から判断する分割点のみで「判断基準」とすることは妥当性に欠けるという課題が大きくクローズアップされてきた。

そこで本校は，「本質的な学力」における評価方法の開発をさらに進めることが喫緊の課題であると考えている。「本質的な学力」は，どれがいくつ正解であったとか，量的に測定することができない学力である。これら进行评估するためには，生徒が学習内容やその課題，問題に対してどのように取り組んだのかを観取る「評価規準」「判断基準」でなくてはならない。こ

のような課題克服のために、評価指標であるルーブリックを早急に開発していかなければならないと考えている。

第3の課題は、授業改革、いわゆる授業の変容・工夫改善が見えてこないことである。「目標に準拠した評価」の評価活動は、いわゆる「評価規準表づくりに始まり、評価規準表づくりに終わる」のではなく、授業改革をいかに進めるのかに結び付けることが重要である。特に「本質的な学力」は、ただ覚え込むだけでなく、学習内容についての思考や判断、応用や総合を求めたり、考えようとする態度を求める学習活動を通して育成されなくてはならない学力である。つまり、「本質的な学力」を生徒に身に付けさせるためには、どのような授業改革をしていけばよいのかが課題となってくる。

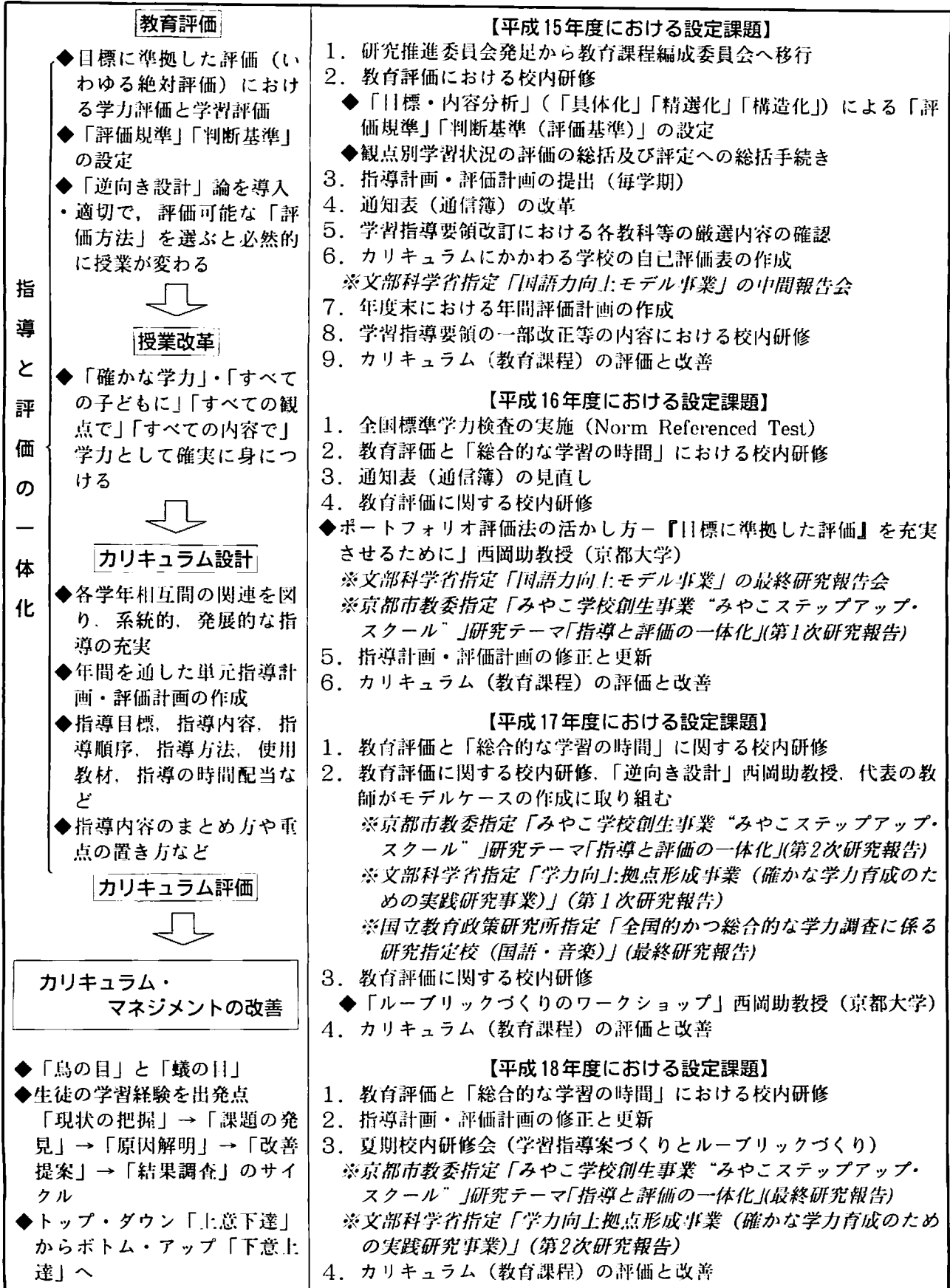
昨年（平成17年11月4日）、西岡助教授（京都大学大学院教育研究科）の指導・助言を受け、本校研究報告会の公開授業における学習指導案作成に「逆向き設計」論を取り入れた。このことにより、単元の指導目標に対応した「本質的な問い」「永続的な理解」「パフォーマンス課題」を設定し、その対応に適切な評価方法を組み入れることができた。その結果、教育実践をした教師の多くは、今までとは違うカリキュラム設計、単元指導計画や評価活動、そして授業づくりに大きな衝撃を受けることになった。

今年度、本校の実践研究は、教育評価の実践研究としての「評価規準」づくりから授業改革へ、そして、カリキュラム設計・カリキュラム評価へ、最終的には、授業における教育課題（子どもの学習経験）から出発し、その解決の道筋をカリキュラム（教育課程）として開発、編成、展開、評価、改善というカリキュラム・マネジメントの機能を十分に生かす取組の一端を示したものである。これらの教育課題に真摯に受け止め、アプローチしていくため、個々の教師の研究と実践、そして、学校組織というチームとしての研究と実践を地道に進めた取組でもある（表1を参照）。

平成15年度からの4年間、本校で実践研究してきた「特色ある教育活動」「特色ある学校」づくりにおける、教育評価を生かしたカリキュラム・マネジメント改善の取組の一端であり、いずれも、稚拙なものであるが、ご高覧いただき、ご忌憚のないご助言、ご教示、ご叱正を賜れば幸甚である。

なお、筆者が執筆、編集、自費出版した書籍である「特色ある学校づくりとカリキュラム・マネジメントー京都市立衣笠中学校の教育改革ー」をも一読し、参考にさせていただければと願っている。

(表1) 教育評価を生かしたカリキュラム・マネジメント



1 「評価規準」づくりにおける階層的段階の理解

教師は「目標分析」というと、とかく学習指導要領の目標のみを分析して、抽象的・概括的な「評価規準」を作成しがちである。

学習指導要領の「目標」は、各教科で生徒に「身に付けるべき学力」を抽象的・概括的・全体的に示したものである。一方、「内容」は、生徒に「身に付けるべき学力」をどのような指導内容で身に付けるかを示している。そこで、指導内容をもって「評価規準」を作成することを教師間で確認し合うことが重要である。

このように、「目標分析」について教師がもつイメージを克服するため、名称を「目標・内容分析」に変更した。

次に、「評価規準」の作成には、学習指導要領（国）レベルから、教材である教科書（地方）レベル、そして、授業（学校）レベルという3つの階層がある。これらの階層を十分に踏まえ、整合性を図ること、すなわち「目標・内容分析」により「具体化」「精選化」することにより、教師の主観をできる限り克服した「評価規準」を作成することができると考えている。

具体的には、国レベルとして、国立教育政策研究所教育課程研究センターは、学習指導要領と各教科等の解説、指導要録の改善通知に示された評価の観点とその趣旨等を踏まえて、学習指導要領の「目標」「内容」の分析を通して、各観点ごとに構造的に洗い出された「内容のまとめりごとの『評価規準』とその具体例」を参考資料として示している。

しかし、この参考資料は、教材（教科書等）を使用した「評価規準」ではないので、教科書等（教材）レベルの「評価規準」を作成する必要がある。

本来、各地方自治体の教育委員会は、教科書を基に、それぞれの単元における共通かつ本質的な内容、いわゆる単元の学習活動の結晶となるものをもって「評価規準」を作成し、その地域レベルでの共通化を図ることが重要である。そうでないと、生徒に身につけるべき学力を示した目安である「評価規準」が、質的な内容はもちろんのこと、評価すべき内容までもが、各学校それぞれ恣意的な判断で決定されてしまうことになる。しかし、その課題は、今なお残されているといっても過言ではない。

そして、各学校は、共通かつ本質的な内容の「評価規準」（各地方自治体レベル）から、教師が実際の授業を思い浮かべた生徒の学習活動の姿で、実際に活用することができる実用的な「評価規準」を作成することが重要である。

（表2）は、国・地方自治体・学校レベルにおける「評価規準」の階層性を表にまとめたものである。なお、詳しくは、筆者（北原琢也編著）「特色ある学校づくりとカリキュラム・マネジメントー京都市立衣笠中学校の教育改革ー」を参考にしていきたい。

2 「目標・内容分析」の要点

〈具体化〉

具体化とは、学習指導要領（国）レベルから教科書（地方）レベルへ、そして、授業（学校）レベルへ落とし込むことである。

〈精選化〉

精選化とは、一つの単元（題材・教材）の最も大切な学力（授業の結晶）を身につけるためのものを焦点化して選ぶことである。

〈構造化〉

構造化とは、どのような順序で授業を行えばよいのかをシミュレーションするとともに、その単元（題材・教材）で最終的にどのような学力を付けるのかを明らかにすることである。

（表2） 国・地方自治体・学校レベルにおける「評価規準」の階層的段階

階層レベル	指導目標・指導内容	評価目標及び「評価規準」	留意すべき事項
1 国レベル	文科省 <学習指導要領> ・各教科の目標と内容 ・各学年や分野の目標と内容	<観点及びその趣旨> ・指導要録の改善通知 「文部省（当時）」	・「何を身につけるか」を示している。 （全体的・概括的・抽象的）
	国 教 研 所 <学習指導要領> ・内容のまとめ ・各単元の目標 （国立教育政策研究所参考資料）	<観点及びその趣旨> ・具体的な「評価規準①」とその具体例 （国立教育政策研究所参考資料）	・「何を身につけるか」を学習指導要領の指導すべき「内容」を「評価規準①」で示している。しかし、 <u>教材(題材)で作られていない。</u>
2 地方 教育 委員 会 レ ベル	<教科書採択> ・指導計画の作成 ・教科書を使用 ・各単元ごと	<教科書(教材)を通して> ・各単元の中で、それぞれの学校が、共通で <u>総括的な</u> 評価をするための、簡潔でより具体的な「評価規準②」を作成する。	・「どのように身につけるか」を示さなければならないので、 <u>教材(題材)を活用した</u> 、具体的な「評価規準②」を作成する必要がある。
3 各 学 校 レ ベル	<単元づくり> ・指導計画（各学校が作成） ・各単元の実際の授業レベル ・生徒の学習活動の実態に即したもの	<評価方法を決定> ・「評価規準②」にふさわしい <u>評価方法</u> を決定した「評価規準③」を各学校が授業の中で、生徒の実際の学習活動の姿（評価事例）で表された、実用的な「評価規準」を作成する。	・「期待する実際の子どもの状態(姿)」で示さなければならない。そのためには <u>評価方法</u> を決定し、その証拠となる「評価規準③」を作成しなければ活用できないことになる。

3 教育評価（評価活動の本来の役割）

教育評価に関する本校の課題について検討を進めていくなか、常に念頭においてきたことは、以下の評価活動の本当の役割を再認識することである。

- (1) 評価活動は、教師にとって指導計画、指導方法や指導形態、教材、学習活動などを振り返り、今後のよりよい授業に役立てることである。
- (2) 生徒にとっては、自分の学習状況を知り、その後の学習の改善を促し、学習の意欲を向上させることである。

これらの評価活動によって、本校は、カリキュラムをナショナル・スタンダードである学習指導要領をはじめ、教育委員会の示す指針などの趣旨を生かしながら、地域や学校の実態や生徒の心身の発達段階と特性を考慮したものに改善していくことを目指してきた。

4 「逆向き設計」論（backward design）の導入

これら、上述していきたく課題克服の一つの方途としたのが、西岡助教授の研究である。その研究は、カリキュラムや単元を計画する際の考え方として発表された、G. ウィギンズとJ. マクタイによる「逆向き設計」論（backward design）に関するものである。「逆向き設計」の考え方は、教育実践を中心に評価活動を考える教師にとって、逆向きでも何でもなく、真正面から授業づくりや授業計画に取り組む教師の真の姿であり、カリキュラム・マネジメントの基本的進め方であると筆者は考えている。

西岡助教授は「逆向き設計」論をもって、カリキュラムや単元の改善と同時に評価活動の改善について、次のように述べている。

「指導計画を立てるにあたっては、まず目標が考えられるのが通常であるが、目標が理念的なものにとどまり、具体的に子どもにどのような姿が見られれば達成されたと考えられるのが明瞭でないことが多い。また、評価法については、指導が終わった後で考えられがちである。

それに対して『逆向き設計』では、まず子どものどのようなパフォーマンスを評価するかから考え始める（評価の構想と指導の構想の順序が逆転しているので「逆向き」といわれる）。これにより、目標もより明瞭かつ具体的に設定される。

『逆向き設計』の考えに則れば、日本における学力評価計画を作るにあたって、まず学年末に身に付けていなくてはならない学力と、その学力が身に付いたかどうかを示す証拠（評価のための問題や課題）を考える必要がある。そして、その到達点に向けて徐々に力を付けていくことになる」。

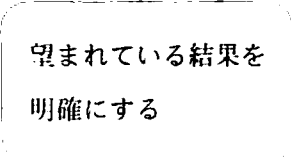
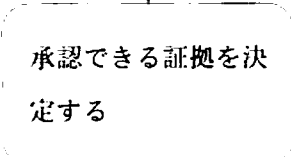
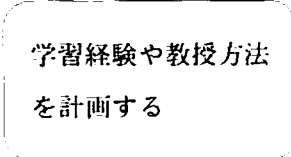
上記の西岡助教授の説明は、教師自身による「評価規準」の作成の意味（意義）と作成された「評価規準」に対応した適切な評価方法の選択と設定から、カリキュラム設計・単元づくりや授業づくり、そして、授業の工夫改善を示唆していると考えられている。筆者がこの説明を

はじめて読んだとき、「ルーブリックづくり」と「授業の工夫改善」の着眼点は、教師が実用的な「評価規準」と同時に適切な「評価方法」を決定し、設定することであると考えた。その後、西岡助教授の研究を踏まえ、「逆向き設計」のプロセスを下記のような評価活動としてとらえ直した。(表3参照)

その結果、衣笠中学校の教師から「生徒に身に付けなければならない力とその力が生徒に身に付いているかどうかを観取るための評価方法を同時に考えた『評価規準』を設定したら、自然に授業が変わってきた」という声が聞かれるようになってきた。

これらの教師の実感は、教師が設定した「評価規準」に対応した適切な「評価方法」を加えることにより、目標である生徒に身に付けなければならない力が、より現実的、より具体的な「評価規準」となり、実際の授業との整合性、系統性が生まれ、実用的な「評価規準」と実際の授業そのものが、一体化したということの表れであるにとらえている。

(表3)「逆向き設計」のプロセスを「単元づくり」にとらえ直した内容

「逆向き設計」のプロセス	「単元づくり」にとらえ直した内容
 <p>望まれている結果を 明確にする</p>	<p>[生徒が身に付けなければならない学力を具体的に示す]</p> <p>教師が「評価規準」を設定するということは、指導目標を指導内容に沿って、各観点ごとに生徒に身に付けるべき学力、すなわち実現してほしい学習状況を具体的に明らかにすることである。言い換えれば、授業（指導）の具体的な目標のために設定し、授業（指導）の成果を観取るために機能させることである。</p>
 <p>承認できる証拠を 決定する</p>	<p>[生徒がその学力を身に付けたかどうかを確かめる]</p> <p>教師が「評価規準」と同時に適切な評価方法を設定するということは、評価すべき学力の内容を具体的に示すことである。これにより、どのような評価方法でどの場面や時期に何を評価すればよいか明確になる。</p>
 <p>学習経験や教授方法を 計画する</p>	<p>[年間・期間・単元のカリキュラムを作成する]</p> <p>教師が作成した「評価規準」を出発点に、実際の授業の中で生徒の学習の実現状況の姿と照合し、「評価規準」の修正・更新を積み重ね、生徒にも「評価規準」を理解させる指導を行うことが大切である。さらに、指導計画や授業計画、評価計画を振り返り、見直していくことである。</p>

5 「逆向き設計」論を組み入れた学習指導案

ここでは、「単元目標」「評価目標と評価方法」について重点的に説明したいと思う。

「単元目標」については、教科書等（教材）を通して、何を教え、学び、どのような学力を身に付けるのかを明確にして記述する。

その際、「本質的・中心的」である重要な目標に対して、「逆向き設計」論による「本質的な問い」と「永続的な理解」を考えて組み込む。

筆者自身は、「本質的な問い」「永続的な理解」を基本的に、以下のようなものだと考えている。

まず、「本質的な問い」は、内容論を扱うものなら「～とは、何か」、そして、方法論を扱うものなら「どのようにすれば、～できるのか」という問いとして設定できる。また、「永続的な理解」は、内容論なら「～とは、～である」、そして方法論なら「そのためには、～することである」という文章として記述される。

「評価目標と評価方法」については、まず指導要録に示された各観点ごとに「単元目標」である指導目標から評価目標に置き換え、同時に評価が可能な評価方法を決定する。

そして、「本質的な問い」「永続的な理解」に対して、「パフォーマンス課題」を設定する。「パフォーマンス課題」は、「高次な学力について生徒の学習の実現状況を評価する課題」として内容を設定すべきである。

最後に、「予備的ルーブリック」の作成手順にしたがって、パフォーマンスを評価するためのルーブリックを作成する。

6 平成18年度における設定課題

平成18年度は、単元における指導過程を改善することをめざしている。

平成17年度は、公開授業を行う代表教員の全員が、パフォーマンス課題を一つの単元に位置づけるところまで達成した。しかし、単元で指導する要素を構造的に捉え、生徒にパフォーマンス課題に取り組むうだけの学力を身に付けさせていく指導過程を具体的に考えるという点で課題が残った教科も見られた。

そこで、生徒がパフォーマンス課題で十分な力を発揮できるよう、単元全体を通して生徒たちに学力を身に付けさせていくような指導過程のあり方をさぐる必要があると考えている。

また、本校の教師の中には、すでに単元の系統性を意識している教師もいる。今後さらに、単元間の系統性を意識したカリキュラム設計に着手する必要がある。つまり、各教科の単元づくりを共同で行う際に、学年を超えた「本質的な問い」の存在に気づくことが重要である。また、第3学年でこのパフォーマンス課題に取り組むために、第2学年ではここまでの指導をしておかなければならないといった学年間の連携も重要なことである。

西岡助教授は、「ルーブリックづくり」について、以下のように助言をしている。「予備的なルーブリック」では、教師が頭の中で考えた規準にとどまってしまうことになる。また、生徒

たちの作品を分析してループリックを作る手法では、作品ができあがらないとループリックづくりができない。そこで、このような問題点を克服するために、個々の教師が「模範作品づくり」をすることが有意義である。この手法は、生徒にどのような力を身につけさせる必要があるか、あらかじめ考える上でも有効な方策だと考えられる。

筆者の私見だが、さらに「逆向き設計」論には、教科と「総合的な学習の時間」の相互環流を活性化させる可能性もあると考えている。

こうして、今年度、本校は、以上の順序で教育課題を設定し、その達成に向けた取り組みを行っている。

平成18年11月21日

京都市立衣笠中学校
校長 北原琢也

**「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析
事例集（第2集）**

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

国語科

1年

1 教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 第1学年 学年目標

(1)「A話すこと・聞くこと」の目標

自分の考えを大切にし、目的や場面に応じた的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。

(2)「B書くこと」の目標

必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。

(3)「C読むこと」の目標

様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

3 単元名

単元名：「視野を広げる一文章のまとまりに着目し、構成をとらえる一」

題材名：第1教材「ちょっと立ち止まって」

第2教材「クジラたちの声」

(光村図書 1年)

4 単元(題材)目標

文章のまとまりに着目し、構成をとらえ、内容の理解に役立てる。

5 題材の評価目標

【第1教材：「ちょっと立ち止まって」】

(1)何について書かれた文章かを考え、文章を大きく三つのまとまりとしてとらえ、どのようなまとまりと考えたのかを説明しようとしている。

[国語への関心・意欲・態度]

【評価方法：「段落メモ」及び段落討議の発言による評価】

(2)文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てる。

[読むの能力：ウ「構成や展開」]

【評価方法：「事例作文」及びペーパーテストによる評価】

(3)接続語の働きに注意して、事例相互の関係など書き手の論の展開(論の述べ方)の理解に役立てている。

[言語事項：エ「話や文章、文」]

【評価方法：ペーパーテスト】

【第2教材：「クジラたちの声」】

(1)内容を他者に伝えるために、分かりやすい説明を意識して、1枚のプリントにまとめようとしている。

[国語への関心・意欲・態度]

【評価方法：課題レポートの参考資料記述】

(2)文章の展開に即して内容をとらえ、他者に伝えるために、表にしたり、図示したり、

文章に要約したりする。

[読むの能力：イ「内容把握や要約」]
【評価方法：課題レポートの記述内容】

(3) 主述の関係などの文節の係り受けの関係などに注意して、内容の把握に役立てている。

[言語事項：エ「話や文章、文」]
【評価方法：ペーパーテスト】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

ここに挙げるのは、本校の指導における単元(題材)の「具体化」「精選化」「構造化」であり、その前段には、本校国語科が年間を通してどのような教材を使い、どのような順序で指導していくのかという「年間指導計画」や中学校3年間を通してに当たる「指導計画」が必要なというまでもない。本校では、そうしたものとして、昨年度国立教育政策研究所指定の「全国かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定」を受けていた関係もあり、縦軸に「指導内容(事項)」、横軸に「教材名」を配した二次元マトリックスで確認をし、年間指導計画を作成している。そうして作成したものが別冊の年間指導計画である。

なぜ、こうした前書きを付けるのかというと、本来教材ごとに絞り込まれているはずの「指導事項」が総花的に挙げられている「年間指導計画」を見受けるからである。その典型が本市が採用している教科書(光村図書)の「年間指導計画資料」である。自社の教科書教材はどの指導事項を指導するのにも適していることを示すがためか、「その単元・教材が主たる学習場面であり、確実に身につけることが望まれる」として挙げる指導事項は、以下のような状態である(1年19教材・2年20教材・3年23教材の中での数値)。

	語句の意味や用法	内容把握や要約	構成や展開	表現の仕方	主題や要旨と意見	ものの見方や考え方	情報の活用
1年	7/19	4/19	4/19	/	8/19	14/19	7/19
2年	8/20	/	3/20	16/20	14/20	/	8/20
3年	6/23	/	3/23	19/23	16/23	/	11/23

PISA 型読解力のクリティカルリーディングではないが、「主たる学習場面」という表現が「読むことの指導教材」の半数以上に付けられている状況は、「適切な表現」と言えるのだろうか。それ以上にこうしたものをひな型にして各校の年間指導計画が作られているとしたら、ねらいや指導事項が絞られない、所謂“表づくりに始まり、表づくりに終わる”「年間指導計画」や「評価計画」になるのではないかと危惧する。また、「構成や展開」の指導教材が少ない点も論理性の育成の視点から気になる点でもある。それゆえ、このような前書きを述べた。

(1) 「具体化」

授業は「目標を達成すること」だといわれる。そして、授業は「生徒の学習状況を変容させること」ともいわれる。そして、この二つに異議を唱える者はない。

そうであるなら、学習指導要領が定める一般化されている「指導内容(指導目標・評価目標)」を教材を元に具体化し、授業を組み立てる必要がある。そして、生徒の学習状況やその変容させる姿を「具体的な姿」でとらえる中で、その手だて(授業)を組む必要がある。「具体化」とは、そうした二つの方向性をもつ作業である。

第1教材の指導事項は「ウ 構成や展開」であり、「文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。」という内容を具体化することになる。特にここでは、「文章の構成や展開を正確

にとらえ、内容の理解に役立てること」とはどういことかの視点で具体化する。また、第2教材の指導事項は「イ 内容の把握や要約」であり、「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。」の具体化である。ここでは、「目的や必要に応じて」に対して「他者に伝える」という目的を課題として課すことにした。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解・技能
【第1教材】「ちよつと立ち止まって」【読む能力：ウ「構成や展開」】	①「読めない漢字」にルビを振り、「わからないことば」をピックアップして国語辞典で調べようとしている。	②「事実(事例)」と「主張(意見)」とを区別して読むことができる。	③漢字の読み、ことばの辞書的な意味を理解している。
	④何について書かれた文章かを考え、文章を大きく三つのまとまりとしてとらえ、どのようなまとまりと考えたのかを説明しようとしている。	⑤三つのまとまりをどうとらえるのかの討議を通して、帰納的な論理の展開(複数の事例を基に一般化する中での結論・主張の導き)や書き手の事例提出の意図などを考え、内容の理解に役立っている。	⑥「さらに」「そのうえ」「また」などの累加・並立の接続語(「足し算型」の接続語)の働きを考えて、文章構成の理解に役立っている。
	⑦書き手の主張をとらえ、主旨に合致する他の事例を考えようとする。	⑧事例から一般化された「書き出し(第1段落)」と「主張(第10段落)」を残し、主旨に合致する他の事例を考えて文章化している。	⑨常用漢字を用いたり、文の主述の関係や修飾関係を明確にして、分かりやすく表現している。
【第2教材】「クジラたちの声」【読む能力：イ「内容把握や要約」】	⑩「読めない漢字」にルビを振り、「わからないことば」をピックアップして国語辞典で調べようとしている。	⑪二つの問題提起をつかみ、それぞれを説明している段落(部分)をつかんでいる。	⑫疑問の文や誘いの文の形をつかみ、「なぜ」が係っていく文節などをつかみ、問題提起の把握に活かしている。
	⑬文章中の関連する部分に印を付けたり、抜き書きしようとしていたりしている。	⑭問題提起に対する説明の部分を読み、他者へ説明するために、関連する内容を簡条書きにできる。	⑮言い換えや対比されている語句に注意して、事象や行為に対する多様な語句を理解している。
	⑯分かりやすい説明を意識して、1枚のプリントにまとめようとしている。	⑰簡条書きした内容・項目を関連付け、分かりやすく表や図にしたり、要約したりして再構成できる。	⑱ナンバリングや対比の接続語などに注意して、内容の理解に役立っている。

(2)「精選化」

「精選化」とは、基礎的・基本的な学習内容である評価規準の中から、本質的・中心的な学習内容を選び出すことである。

本単元は教科書単元では「視野を広げる」と題し、その教材の内容に主眼を置いた単元名を冠している。同時に「文章のまとまりに着目し、構成をとらえる」という副題を付け、生徒向けの「学習の目標・内容」では、①「段落に着目して文章を読む。（「文法①」→196ページ）（「ちょっと立ち止まって」）、②「新しく知ったことから文章の内容を読み深める。」（「クジラたちの声」）、③「問題提起と答の文章に着目し、構成をとらえる。」（「クジラたちの声」）を挙げる。本校が挙げる指導事項とは副題の単元名や生徒向けの「学習の目標・内容」が関連する。ただ、「構成をとらえる」という点については、教科書では目標としているが、本校では内容を理解するための手段と考えている。

それゆえ、「構成をとらえているか」については、第1教材ではペーパーテストで段落構成を問うと共に、事例作文によって「主旨に合致する他の事例」が挙げられるかどうかで看取ろうと考えた。また、第2教材では問題提起①②の要約や説明図をもって評価しようと考えている。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと的能力	言語についての知識・理解・技能
【第1教材：「ちょっと立ち止まって」】 「読む能力：ウ「構成や展開」」	④何について書かれた文章かを考え、文章を大きく三つのまとまりとしてとらえ、どのようなまとまりと考えたのかを説明しようとしている。	⑤三つのまとまりをどうとらえるのかの討議を通して、帰納的な論理の展開(複数の事例を基に一般化する中での結論・主張の導き)や書き手の事例提出の意図などを考え、内容の理解に役立っている。	⑥「さらに」「そのうえ」「また」などの累加・並立の接続語(「足し算型」の接続語)の働きを考えて、文章構成の理解に役立っている。
		⑤事例から一般化された「書き出し(第1段落)」と「主張(第10段落)」を残し、主旨に合致する他の事例を考えて文章化している。	
【第2教材「クジラたちの声」】 「読む能力：イ「内容把握や要約」」	⑭文章中の関連する部分に印を付けたり、抜き書きしようとしたりしている。	⑭問題提起に対する説明の部分を読み、他者へ説明するために、関連する内容を箇条書きにできる。	⑮言い換えや対比されている語句に注意して、事象や行為に対する多様な語句を理解している。
		⑰箇条書きした内容・項目を関連付け、分かりやすく表や図にしたり、要約したりして再構成できる。	

(3)「構造化」

「構造化」とは、精選化を通して絞り込み重点化した「目標・内容」を、どのような順序で指導すべきか、また生徒のつまずきに対してどのようなフィードバックすればよいかなどを明確にすることである。

本単元は二つの説明的文章で構成しており、その説明的文章を読むことを通して、説明的文章と言われる様式の特徴をとらえつつ、それを読む力を育成しようとするものである。それゆえ、ここの教材ごとに一つの読み方を身に付けることをねらいとしており、それぞれ教材ごとに完結する指導形態をとっている。

<p>単元名 (題材名)</p>	<p>単元名： 「視野を広げる—文章のまとまりに着目し、構成をとらえる—」 第1教材：「ちょっと立ち止まって」 第2教材：「クジラたちの声」</p>		
<p>各教材における主たる指導目標</p>	<p>(1)文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえさせ、内容の理解に役立てる力を培う。 【第1教材：読む能力 ウ】 (2)文章の展開に即して内容をとらえさせ、目的や必要に応じて要約する力を培う。 【第2教材：読む能力 イ】</p>		
<p>観点</p>	<p>国語への関心・意欲・態度</p>	<p>読むこと的能力</p>	<p>言語についての知識・理解・技能</p>
<p>第1教材</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④何について書かれた文章かを考え、文章を大きく三つのまとまりとしてとらえ、どのようなまとまりと考えたのかを説明しようとしている。</p> <p>⑤三つのまとまりをどうとらえるのかの討議を通して、帰納的な論理の展開(複数の事例を基に一般化する中での結論・主張の導き)や書き手の事例提出の意図などを考え、内容の理解に役立てる。</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑥「さらに」「そのうえ」「また」などの累加・並立の接続語(「足し算型」の接続語)の働きを考えて、文章構成の理解に役立てている。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px; margin-left: 150px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑧事例から一般化された「書き出し(第1段落)」と「主張(第10段落)」を残し、主旨に合致する他の事例を考えて文章化している。</p> </div> </div>		
<p>第2教材</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑬文章中の関連する部分に印を付けたり、抜き書きしようとしていたりしている。</p> </div> <div style="width: 40%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑭言い換えや対比されている語句に注意して、事象や行為に対する多様な語句を理解している。</p> <p>⑮問題提起に対する説明の部分を読み、他者へ説明するために、関連する内容を簡条書きにできる。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px; margin-left: 150px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑯簡条書きした内容・項目を関連付け、分かりやすく表や図にしたり、要約したりして再構成できる。</p> </div> </div>		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

国語科

1年

1 教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 第1学年 学年目標

(1) 「A話すこと・聞くこと」の目標

自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。

(2) 「B書くこと」の目標

必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。

(3) 「C読むこと」の目標

様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

3 単元名

「心の歩み」(光村図書 1年) 題材名:「大人になれなかった弟たちに……」

4 単元(題材)目標

- ・主題を考えて読むことができる。
- ・作品の主題をとらえて、相手や目的に応じて書くことができる。

5 単元(題材)の評価目標

(1) 必要な情報を集めるために進んで様々な文章を読もうとしている。

[国語への関心・意欲・態度]

【評価方法: 観察】

(2) 伝えたい事柄や自分の考えを明確にして書くことができる。

[書く能力: イ「事柄や意見」]

【評価方法: 課題作文】

(3) 文章の展開を確かめながら、作品の主題を考えることができる。

[読む能力: エ「主題や要旨と意見」]

【評価方法: ペーパーテスト・生徒発表】

(4) 多様な語句について理解を深め、書くことにおいて語彙に関心をもつことができる。

[言語事項: ウ「語彙」]

【評価方法: ペーパーテスト・課題作文】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この教材での指導内容を、文学的作品を対象とした「B書くこと」と「C読むこと」に置くこととした。指導事項で言えば「B書くこと」は「イ伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること」、 「C読むこと」は「エ文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすること」に重点を置いた。

最終的には、これまで自分が読んだ作品を、その題材として取り上げられたエピソードや出来事を通して筆者のメッセージをどのように考え、受け止められたかを記述する形で表現できることを目標とし、本教材だけでなく、他の文学的作品についても同様に「主題を考え」て読むことの大切さを理解させたい。そのため本教材を学習した後、他の作品についてもそのような読み方をしていたかどうかを振り返らせるための課題作文を書かせることを授業で用意し、授業で学習した結果、文章の展開に沿って主題を考えて書くことができるかどうかで総括的評価をしたいと考えた。以下はそこに到達させるために必要な指導目標(評価規準)を設定した。

学習内容	国語への 関心・意欲・態度	書くこと的能力	読むこと的能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・本文を読み、作品への興味・関心を高める。 ・初読のあと作品の解説文を書く。 ・漢字の練習 	<ul style="list-style-type: none"> ①主題を考えて読もうとしている。 ②解説文を書こうとしている。 ③漢字練習をしようとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ④主題を考え、登場人物について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤既習の漢字を適切に用いて書くことができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・言語事項（漢字・語句）の確認 ・作品の設定について理解する。 ・全体を「疎開前」「疎開中」「弟の死」の三つの場面に分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥作品の背景にある戦争についてイメージをふくらませ、作品の理解に役立てようとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ⑦時、場所、登場人物をとらえている。 ⑧時、舞台、人物の変化に注目し場面を考えて正しく分けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨漢字テストや語意のプリントを使って確認することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情に迫る。また、母に関する部分から母の心情に迫る。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ワークシートに記入しようとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ⑪人物の心情をとらえることができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・主題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫題名や表現の特徴をとらえ、主題について考えようとしている 		<ul style="list-style-type: none"> ⑬題名の表記から作者の意図を考えることができる。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ⑭作品を読む場合、描かれたエピソードを通して作者が意図したことを読むことが大切であることを理解できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・どのような作品解説文がよいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑮必要な情報を集めるために進んで他の作品を読もうとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ⑯書くことの目的に応じて、いくつかの作品から必要な情報を集めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑰既習の漢字を適切に用いて書くことができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・主題をとらえ、解説文を書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ⑯主題と事例との関係を理解して相手や目的に応じて書くことができる。 		

(2)「精選化」

実際に授業を行う場合は、上記の目標（評価規準）のうち、指導の核となるものを絞り込んで明確にしておく必要がある。以下はそれを精選化したものであるが、下の表に現れたもの以外の目標は適宜形成的評価として授業で取り上げたい。

この教材は文学的作品の主題を考えて読むことをねらいとした。主題は、作品の具体的なエピソードやできごとを描くことによって、読み手の感性に訴え共感的にメッセージとして発信されていると考えられる。従って、まずそこに描かれた内容が生徒にとって共感できると考えられる作品の背景や人物の普遍的な心情理解につながる目標に重点をおいて精選すると、④・⑩となる。また、主題を考える上で直接関わるであろう⑬・⑭については、作品の主題を考える読みのスキルの理解を支援する部分としても、やはり大切なことである。この作品の総合的な評価を行う⑯はこの教材での最終目標に関わるものである。その場合大切にしたいことは⑯で、書く内容に必要な要素は何かを理解し、語彙に関心をもつことによって、どのような紹介文がよいか評価し、それを自分の表現に役立てられるようにさせたい。

学習内容	国語への 関心・意欲・態度	書くこと の能力	読むこと の能力	言語について の知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・本文を読み、作品への興味・関心を高める。 ・初読のあと作品の解説文を書く。 ・漢字の練習 			④主題を考え、登場人物について理解することができる。	
<ul style="list-style-type: none"> ・言語事項（漢字・語句）の確認 ・作品の設定について理解する。 ・全体を「疎開前」「疎開中」「弟の死」の三つの場面に分ける。 			⑦時、場所、登場人物をとらえている。	
<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情に迫る。また、母に関する部分から母の心情に迫る。 			⑩人物の心情をとらえることができる。	
<ul style="list-style-type: none"> ・主題を考える。 			⑬題名の表記から作者の意図を考えることができる。	
			⑭作品を読む場合、描かれたエピソードを通して作者が意図したことを読むことが大切であることを理解できる。	
<ul style="list-style-type: none"> ・どのような作品解説文がよいか考える。 	⑮必要な情報を集めるために進んで他の作品を読もうとしている。		⑯書くことの目的に応じて、いくつかの作品から必要な情報を集めることができる。	
<ul style="list-style-type: none"> ・主題をとらえ、解説文を書く。 		⑯主題と事例との関係を理解して相手や目的に応じて書くことができる。		

(3)「構造化」

評価規準を精選化したあと、実際に各観点の学習状況をどのようにみとっていくかは授業計画の中に位置づけて考える必要がある。それは設定した評価規準がこれを達成するための指導を想起させるものであり、授業の中で具体的に実現されるものと思うからである。そこで、指導の順次性をもとに各評価規準に基づいて生徒の学習状況のみとりを行えるように、下記のように評価規準の構造化を行った。

この教材での最終目標である⑯はパフォーマンス課題を設定し、総括的評価を行いたい。

単元名 (題材名)		3心の歩み 「大人になれなかった弟たちに……」		
指導目標		<ul style="list-style-type: none"> ・主題を考えて読むことができる。 ・作品の主題をとらえて、相手や目的に応じて書くことができる。 		
観点	語への関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	語についての知識・理解・技能
第1時			④主題を考え、登場人物について理解することができる。	
第2時			⑦時、場所、登場人物をとらえている。 ⑩人物の心情をとらえることができる。 ⑬題名から作者の意図を考慮することができる。	
第4時			⑭作品を読む場合、描かれたエピソードを通して作者が意図したことを読むことが大切であることを理解できる。	
第5時	⑮必要な情報を集めるために進んで他の作品を読もうとしている。		⑯書くことの目的に応じて、いくつかの作品から必要な情報を集めることができる。	
第6時		⑰主題と事例との関係を理解して相手や目的に応じて書くことができる。		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

国語科

2年

1 教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 第2学年 学年目標

(1)「A話すこと・聞くこと」の目標

自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。

(2)「B書くこと」の目標

様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。

(3)「C読むこと」の目標

目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。

3 単元名

単元名：「“？(はてな)”を文章にしよう！」

※教科書単元名：本の世界を広げよう 題材名：「五重の塔はなぜ倒れないのか」

(光村図書2年)

4 単元(題材)目標

例示文章を分析的に読み、説得力のある文章の要件を考え、自分の表現に活かす。

5 単元(題材)の評価目標

(1)例示の文章を分析的に読み、書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、自分の表現に活かそうとする態度を育てる。

[国語への関心・意欲・態度]

【評価方法：ワークシート(表現の工夫点記述)】

(2)自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。

[書くの能力：エ「記述」]

【評価方法：作品による評価】

(3)書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。

[読むの能力：イ「構成や展開」]

【評価方法：ペーパーテストによる評価】

(4)相手や目的に応じて話や文章の形態や展開の違いがあることに気付くこと。

[言語事項：エ「話、文章や文」]

【評価方法：ペーパーテスト】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

「具体化」とは、学習指導要領が定める一般化されている「指導内容（指導目標・評価目標）」を教材を元に具体化し、授業を組み立てることである。本単元で取り上げる指導内容は、「読むこと」の学習での「エ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。」と「書くこと」の学習での「イ 書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。」である。

ここでは、「読むこと」の学習において例示文章を分析的に読む中で「効果的」「説得力ある文章」がどのようなものであるのかを具体化し、「書くこと」の学習「自分の表現に役立てる」ことを図っていこうと考えた。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと・書くこと的能力	言語についての知識・理解・技能
■ 「読むこと」 ※ 説明的文章を自分の表現に活かすために、「分かりやすい表現」「説得性のある表現」の観点をもって分析的に読む。	① 「読めない漢字」にルビを振り、「わからない言葉」をピックアップして国語辞典で調べようとしている。 ④ 「分かりやすい表現」の観点から、「題名」や「表題」の働きをとらえようとしている。	② 「題名」や「表題（小見出し）」をもとに、何について書かれた文章やまとまりであるかをつかむ。 ⑤ 「題名」や「表題」が読み手にこの後何について書かれているかを予告したり、観点をもって読み進めさせる働きのあることを指摘できる。	③ 漢字の読み、ことばの辞書的な意味を理解している。
	⑥ 文章を分析的に読む中で、書き手の根拠の複数化や例証実験の紹介を帰納的論理での説得性との関連からとらえよえとしている。 ⑨ 例示文章を「序論・本論・結論」や「起・承・転・結」の展開として構造的にとらえようとしている。	⑦ 論証にあたる第3のまとまりでの「論の展開」（2つの根拠と実験での例証）を説得性との関連からとらえている。	⑧ 累加、転換などの接続語の働きなどに着目し、段落構成と説得性のある表現（複数事例からの帰納的な論理での一般化）との関係について気付いている。
■ 「書くこと」 ※ 分析した説明文をひな型に、「小見出し」や「構成」、「問題提起」や「論	⑩ 総合的な学習の時間に考えた「はてな」をもとに、新聞や本など情報媒体に興味を持ち、新聞・雑誌に目を通したり、図書館やウェブ検索を利用したり、インタビューなどを通して、目的に応じた必要な情報を集め、情報を整理してまとめようとしている。	⑫ 書物の表題や目次を読んで必要である情報があるかを判断したり、必要な事項を書き写したり、切り抜いたりして、情報を様々な角度から情報を集めている。 ⑭ 書く内容を「はてなの形」（問題提起）で表現し、書くための材料をイメージマップなどを利用して、集めたり、関連	⑬ 文字を正確に速く書き写し、情報内容を要約するために、辞書などを活用して注釈をつけたり、解説を付けるなど、わかりやすい表現をしている。 ⑮ 主述の関係、修飾の関係などを意識してわかりやすい表現にいかしたり、接続語や副詞などを用いて、書

証」を考 えて、「分 かりやす く、説得 性のある 文章」を 書く。	⑩「分かりやすい表現」や 「説得性のある文章」に対 する工夫点を明確にして、 他者に伝える文章を書こう としている。	付けたりしている。 ⑪書く内容を付箋などを利用 して、「序論・本論・結論」や 「起・承・転・結」の構成を 考え、「小見出し」を付けたり して「分かりやすい表現」を したり、事例・根拠の複数化 や例証実験をして確かめるな ど説得性のある表現をして、 自分の考えを文章化している。	き手の論の展開を明確にす ることに役立てている。
--	--	---	-----------------------------

(2)「精選化」

「精選化」とは、基礎的・基本的な学習内容である評価規準の中から、本質的・中心的な学習内容を選び出すことである。本質的・中心的な学習内容は、指導内容が「語句の意味や用法」であるのか「内容把握や要約」であるのか等、年間指導(評価)計画で絞り込んだ指導内容(目標)によって異なることになる。

本単元での本校の指導内容は、「読むこと」に関わっては「イ 構成や展開」であり、「書くこと」に関わっては「エ 記述」である。それゆえに、「読むこと」に関わっての精選化では、後の「書くこと」との関連から「効果的(わかりやすさ)」と「説得性」の観点から文章の構成や展開(叙述内容を含む)を中心に精選化を行い、「書くこと」においては「表現に役立てる」観点から、先の分析内容を工夫点として活かすことを中心にした。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと・書くこと的能力	言語についての知識・理解・技能
■「読むこと」■ ※「分かりやすい表現」「説得性のある表現」の観点をもって分析的に読む。	⑥文章を分析的に読む中で、書き手の根拠の複数化や例証実験の紹介を帰納的論理での説得性との関連からとらえよえとしている。	⑩「分かりやすい表現」や「説得性のある表現」の観点から例示の文章を分析し、書き手の工夫点としてまとめている。	⑧累加、転換などの接続語の働きなどに着目し、段落構成と説得性のある表現(複数事例からの帰納的な論理での一般化)との関係について気付いている。
■「書くこと」■ ※「分かりやすく、説得性のある文章」を書く。	⑩「分かりやすい表現」や「説得性のある文章」に対する工夫点を明確にして、他者に伝える文章を書こうとしている。	⑪書く内容を付箋などを利用して、「序論・本論・結論」や「起・承・転・結」の構成を考え、「小見出し」を付けたりして「分かりやすい表現」を	⑮主述の関係、修飾の関係などを意識してわかりやすい表現にいかしたり、接続語や副詞などを用いて、書き手の論の展開を明確にすることに役立てている。

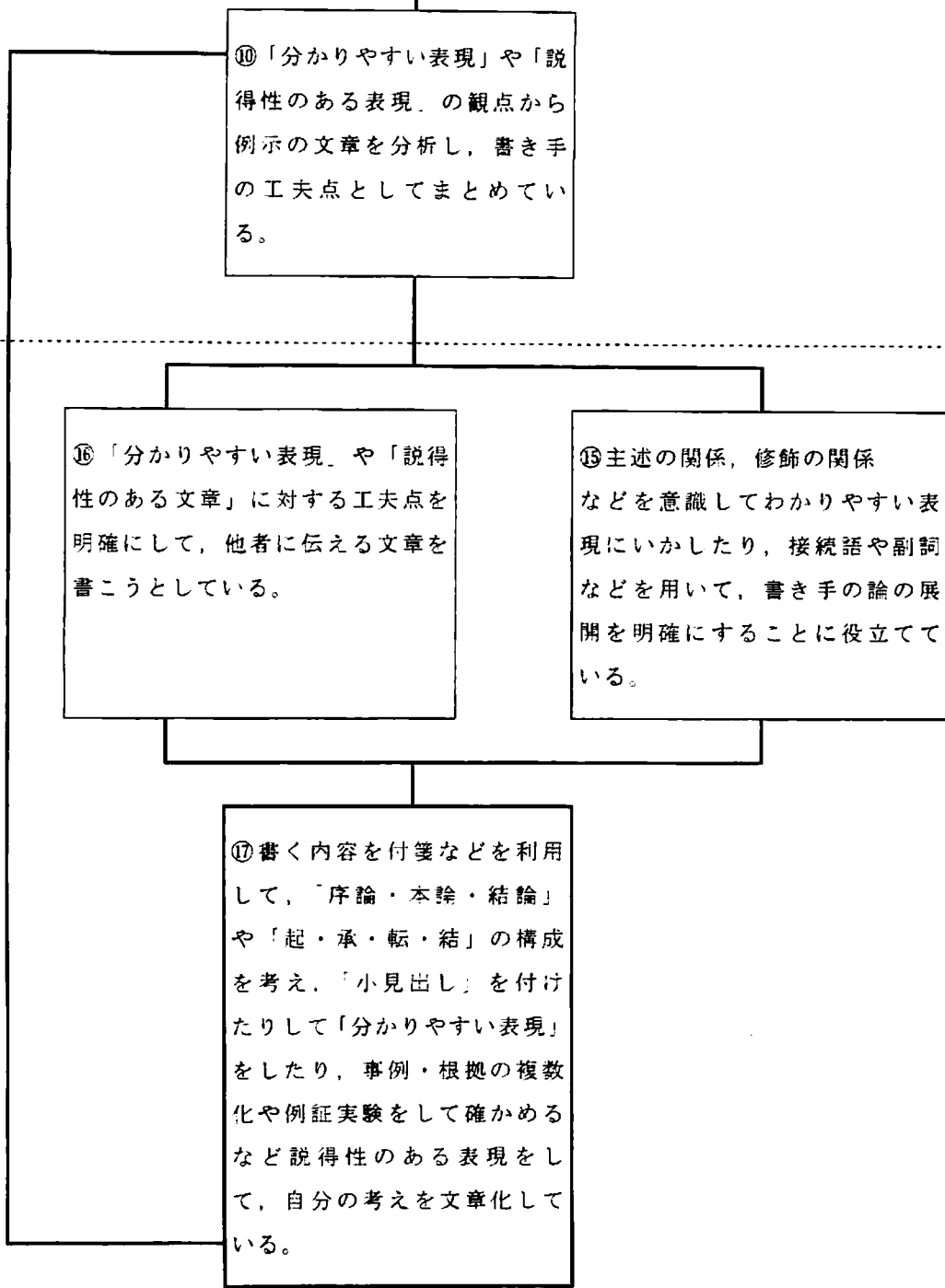
	したり、事例・根拠の複数化 や例証実験をして確かめるな ど説得性のある表現をして、 自分の考えを文章化している。	
--	---	--

(3)「構造化」

「構造化」とは、精選化を通して絞り込み重点化した「目標・内容」を、どのような順序で指導すべきか、また生徒のつまずきに対してどのようなフィードバックすればよいかなどを明確にすることである。そのため、フィードバックすべき内容を分析的に読んだ例示文章の「叙述の仕方」（構成や展開、記述等）を求める形をとっている。なお、こうした事例は本教材とした文章「五重の塔はなぜ倒れないのか」だけではなく、一般化するためには他の説得性のある分かりやすい説明的文章をもとに比較読みすべきものであり、説明的文書の学習では内容把握だけではなく、叙述に関しての指導も継続的に行っているものである。

単元名(題材名)	■単元名：「“？(はてな)”を文章にしよう！」 (光村図書2年 教科書単元名：本の世界を広げよう) ■題材名：「五重の塔はなぜ倒れないのか」		
指導目標	(1)例示の文章を分析的に読み、書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、自分の表現に活かそうとする態度を育てる。 (2)自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書く力を育てる。 (3)書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てる力を育てる。 (4)相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることに気付せ、読むことや書くことに活用する力を育てる。		
観点	国語への関心・意欲・態度	読むこと・書くこと的能力	言語についての知識・理解・技能
第1時 第2時	⑥文章を分析的に読む中で、書き手の根拠の複数化や例証実験の紹介を帰納的論理での説得性との関連からとらえよえとしている。		⑧累加、転換などの接続語の働きなどに着目し、段落構成と説得性のある表現(複数事例からの帰納的な論理での一般化)との関係について気付いている。

第3時
第8時



6 ルーブリック

評価指標（ルーブリック）を作成するための評価項目とその具体的な要素を次に挙げておく。これらは、平成16年度の国語力向上モデル事業推進校報告会の公開授業で行った説明的文章の読み比べの中から導き出された内容を一般化したものである。本時の評価の対象となる項目は「題材・話題、例の扱い方の工夫」と「文章の構成の工夫」が中心になる。

評価項目	判断基準（工夫する点）
題材・話題、例の扱い方の工夫	①読み手（聞き手）の興味が湧くように、身近な事例や話題を取り上げて説明している。 ②事例や話題は複数取り上げて、結論・主張の妥当性を増す説明している。 ③共通点や相違点を比較するために、対比させる例を挙げて説明する。（事例は同じ観点の事例の「並立」のみならず、「累加」「逆接」などを用いて多様な観点から示している） ④必要に応じてデータなどを挙げて具体的に説明して、客観性を増す説明をしている。 ⑤具体的な場面を描写するなど、わかりやすく説明している。
文（一文）の在り方の工夫	⑥常用漢字を用いた漢字仮名交じり文で書いている。 ⑦文節の関係が明確で、簡潔な文で書いている。 ⑧適切に「句点」「読点」を付けて読みやすくしている。 ⑨読み手を想定して、わかりやすい語句を用い、専門用語などを用いる場合は説明を付け加える。
文章の構成の工夫	⑩問題提起の文を最初に示すなど、【全体】から【部分】の「述べ方」をしている。 ⑪段階を追いながら具体的に表現している。（必要に応じて「ナンバリング」や「接続詞」を用いて示す。） ⑫比喩などを用いてわかりやすく説明しようとしている。 ⑬事例の羅列に終わらずに、例を挙げた意図（伝える内容・意図）を明確にして文章を述べている。 ⑭描写に加えて書き手の主観的なことば（評価語）を加えることにより、読み手に書き手の意図をよりわかりやすく伝える。
資料（本文以外のすべての部分）の工夫	⑮必要に応じて、文章を補足するデータや資料を用意している。 ⑯必用に応じて、視覚に訴える資料を用意している。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

国語科

3年

1 教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 単元名

3年 単元5 論理の展開

題材名 「説得力のある文章を書こう」

「生き物として生きる」

(光村図書 国語3)

3 単元目標

文章を分析的に読み、主張を効果的に伝えるための文章の条件を考え、説得力のある意見文を書く。

4 単元(題材)の評価目標

(1) 「生き物を生きる」を分析的に読み、書き手の論理の展開法をとらえ、自分の表現に生かそうとする態度を育てる。

(国語への関心・意欲・態度)

【評価方法：ワークシート(工夫点記述)】

(2) 自分の主張が相手に効果的に伝わるように、論理の展開を工夫し、根拠を明らかにして自分の考えを書く。

(書くことーエ)

【評価方法：作品による評価】

(3) 文章の構成や展開、説明や描写などの表現の仕方や、文体など文章の特徴に注意して読む。

(読むことーイ)

【評価方法：ペーパーテストによる評価】

(4) 各事例の関係を、接続詞、推量・断定表現などに注目して読み取り、書き手の論理の展開方法を理解する。

(言語事項：オ)

【評価方法：音読テスト及びペーパーテスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 具体化

本単元の指導内容は、「書くこと」の学習の「エ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと」である。それとともに「読むこと」の学習の「イ 書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること」も関連項目としてあげられる。例示文章「生き物として生きる」を分析的に読む中で、「効果的」「説得力ある文章」がどのようなものであるかを具体化し、「書くこと」の学習「自分の表現に役立てる」ことを図るため以下の評価規準表を作成した。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと・書くこと的能力	言語についての知識・理解・技能
<p>【読むこと】 「生き物として生きる」</p> <p>「分かりやすい表現」 「説得力のある表現」の観点をもって分析的に読む</p>	<p>①「読めない漢字」にルビをふり、「わからない言葉」をあげ、辞典で調べる。</p> <p>④「分かりやすい表現」の観点から「題名」の働きをとらえようとしている。</p> <p>⑥文章を分析的に読む中で、書き手の根拠の複数化と説得力の関係をとらえようとしている。</p> <p>⑨筆者の主張に賛成もしくは反対の立場から根拠や理由を付け足すことができる。</p>	<p>②文章を通読し、筆者の主張を簡潔にまとめることができる。</p> <p>⑤「題名」と筆者の主張との関連を説明することができる。</p> <p>⑦文章を段落ごとに主張・主張の根拠（事実）・一般的な考え・推測されることなどに分類することができる。</p> <p>⑩「分かりやすい表現」「説得力のある表現」の観点から書き手の工夫点をまとめている。</p>	<p>③漢字の読み、言葉の辞書的な意味を理解している。</p> <p>⑧「そこで」「例えば」などの接続詞や、「～だろう」や「～どうであろうか」などの推量表現の働きをもとに文章構成の理解に役立っている。</p>
<p>【書くこと】 「説得力のある文章を書こう」</p> <p>分析した説明文の工夫点を参考に「小見出し」「構成」「主張」「根拠」や「一般化」を考えて説得力のある文章を書く</p>	<p>⑪新聞や本など情報媒体に興味を持ち、図書館やインターネットを用い、目的に応じた情報を集め、整理している。</p> <p>⑭自分の主張をより説得力のあるものにするために事実を集めたり、他の人にインタビューしたりしている。</p> <p>⑯「分かりやすい表現」「説得力のある表現」の工夫点を明確にして、他者に伝える文章を書こうとしている。</p>	<p>⑫表題や目次を読み、必要な情報があるか判断したり、情報を書き写したり、切り抜いたりして情報を集める。</p> <p>⑭書く内容をメモに書き込み、「頭括式」「尾括式」「双括式」など論理の展開の見通しをつけている。</p> <p>⑰主張の根拠（事実）・一般てきな考え・推測されることなどを書き、小見出しをつけている。</p> <p>⑱集めたメモを並べ、「頭括式」「尾括式」「双括式」など論理の展開を再考し、文章化することができる。</p>	<p>⑬情報を早く読み取り、書き写すために要約したり、解説をつけるなどしている。</p> <p>⑮論理展開の方法「頭括式」「尾括式」「双括式」のそれぞれの利点を理解している。</p> <p>⑳主述の関係、修飾の関係などを意識し文章を書いたり、接続詞を用いて段落ごとの関係を明確にすることができる。</p>

(2) 精選化

本単元の指導内容は「読むこと」の学習から「書くこと」の学習へとつながっている。「読むこと」の学習においては、単元目標の「文章を分析的に読み、主張を効果的に伝えるための文章の要点を考える」という点から、文章の構成・展開・効果的な文章の条件などについて精選化を行った。また、「書くこと」の学習においては目標の「説得力のある意見文」を書くという点から、「読むこと」の学習において挙げられた「効果的な文章の条件」を「表現に役立てる」観点から精選化を行い、以下の表を作成した。

学習内容	国語への関心・意欲・態度	読むこと・書くことの能力	言語についての知識・理解・技能
<p>【読むこと】</p> <p>「生き物として生きる」</p> <p>「分かりやすい表現」</p> <p>「説得力のある表現」の観点をもって分析的に読む。</p>	<p>⑥文章を分析的に読む中で、書き手の根拠の複数化と説得性の関係をとらえようとしている。</p>	<p>⑩「分かりやすい表現」「説得力のある表現」の観点から書き手の工夫点をまとめている。</p>	<p>⑧「そこで」「例えば」などの接続詞や、「～だろう」や「～どうであろうか」などの推量表現の働きをもとに文章構成の理解に役立っている。</p>
<p>【書くこと】</p> <p>「説得力のある文章を書こう」</p> <p>分析した説明文の工夫点を参考に「小見出し」「構成」「主張」「根拠」や「一般化」を考えて説得力のある文章を書く</p>	<p>⑧「分かりやすい表現」「説得力のある表現」の工夫点を明確にして、他者に伝える文章を書こうとしている。</p>	<p>⑨集めたメモを並べ、「頭括式」「尾括式」「双括式」など論理の展開を再考し、文章化することができる。</p>	<p>⑫主述の関係、修飾の関係などを意識し文章を書いたり、接続詞を用いて段落ごとの関係を明確にすることができる。</p>

(3) 構造化

上記の指導項目を実際の授業で評価可能な順序に置き換え、また、生徒のつまづきに対してどのようにフィードバックするかを考えながら構造化を行った。「論理の展開」方法、「説得力のある文章の要点」は日常生活の会話や、簡単な文章の中でも有用であることを意識させながら指導を行いたい。

単元(題材)名		単元5 論理の展開 「生き物として生きる」「説得力のある文章を書こう」		
指導目標		<p>(1) 「生き物を生きる」を分析的に読み、書き手の論理の展開法をとらえ、自分の表現に生かそうとする態度を育てる。</p> <p>(2) 自分の主張が相手に効果的に伝わるように、論理の展開を工夫し、根拠を明らかにして自分の考えを書く。</p> <p>(3) 文章の構成や展開、説明や描写などの表現の仕方や、文体など文章の特徴に注意して読む。</p> <p>(4) 各事例の関係を、接続詞、推量・断定表現などに注目して読み取り、書き手の論理の展開方法を理解する。</p>		
観点		国語への関心・意欲・態度	読むこと・書くこと的能力	言語についての知識・理解・技能
第1時～3時	第4時～7時	⑥文章を分析的に読む中で、書き手の根拠の複数化と説得力の関係をとらえようとしている。	⑩「分かりやすい表現」 「説得力のある表現」の観点から書き手の工夫点をまとめている。	⑧「そこで」「例えば」などの接続詞や、「～だろう」や「～どうであろうか」などの推量表現の働きをもとに文章構成の理解に役立てている。
		⑧「分かりやすい表現」「説得力のある表現」の工夫点を明確にして、他者に伝える文章を書こうとしている。		⑨主述の関係、修飾の関係を意識し文章を書いたり、接続詞を用いて段落ごとの関係を明確にすることができる。
		⑨集めたメモを並べ、「頭括式」「尾括式」「双括式」など論理の展開を再考し、文章化することができる。		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

社会科

1年

1. 社会科の教科目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

地理的分野の目標

- (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を養う。
- (2) 日本や世界に地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる。
- (3) 大小さまざまな地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係しあっていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。
- (4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

2. 単元名

大阪書籍「中学社会 地理的分野」

第3章 世界の国を調べる

4. 他地域との結びつきから調べる—イタリアを例に—

3. 単元目標

- ・ イタリアに関する様々な資料を活用することで、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。
- ・ 資料からとらえた地域的特色をまとめ・発表する方法を理解させる。
- ・ 地域の規模に応じた調べ方や学び方を身に付けさせる。

4. 単元の評価目標

- (1) 地図や統計、その他の資料を用いた調査に意欲的に取り組んでいる。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

【評価方法：観察・ノート】

- (2) 様々な資料を読み取ることで、その地域的特色を多面的、多角的に考察している。
(社会的な思考・判断)
【評価方法：ノート、ペーパーテスト】
- (3) 地図や統計資料、分布図などの資料を適切に選択、活用し、それぞれの特徴を読み取ることができる。また、調べた結果についてまとめ、発表することができる。
(資料活用の技能・表現)
【評価方法：ノート、ペーパーテスト】
- (4) 国の地域的特色や概要を理解し、地理的まとめ方や発表の仕方についての知識を持つ。
(社会的事象についての知識・理解)
【評価方法：ペーパーテスト】

5、「具体化」「精選化」「構造化」

(1)「具体化」

「世界の国を調べる」という大單元では、世界の国々に対して関心を高め、資料を適切に活用して調べることで、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることが重要であると考えます。「他地域との結びつきから調べるーイタリアを例にー」の單元を指導する前段階として、すでに、一つの国の農業、工業の様子を統計資料から読み取ったり、異なる内容の主題図を重ね合わせ土地利用の様子を把握するなど、さまざまな角度から国の概要をつかむ学習（アメリカを例に）や、同じ国の中でも地域によって生活が異なる発達をした国の概要をつかむ学習（中国を例に）を終えている。したがって、とくにこの單元では、歴史、農業、工業における他地域との結びつきや、EUとの関係などを各資料から具体的に読み取り、他地域と結びついて存在するイタリアという国の概要を把握する力を養っていく。以上の点を踏まえ、評価規準を設定する。

学習内容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
調べていこう	①写真資料や雨温図の読み取りに意欲的に取り組んでいる。	②写真資料や雨温図を読み取り、日本との違いを考察している。	③衛星写真から山地や平野・海岸線の様子を、雨温図から日本との違いを、遺跡の写真や言語分布図・言語比較表から歴史的文化的な結びつきを読み取ることができる。	④写真資料や雨温図の読み取り方を理解し、イタリアの地域的特色についての知識を持つ。
産業からみた結びつき	⑤イタリアの農業や工業などについて、輸出入などの貿易の面からとらえようとしている。	⑥資料を読み取り、イタリアの産業が他の地域とどのように結びついているかを考察することができる。また、貿易をはじめとして、日本との関係を考察することができる。	⑦主題図や生産統計から農業・工業の特徴を、貿易統計から農産物・工業製品の貿易相手国や貿易品目を読み取り、日本との関係を発表することができる。	⑧国の産業からみた結びつきを調べる際にどのような資料が有効かを把握し、まとめ方についての知識を持つ。
社会や政治からみた結びつき	⑨EU という国際組織について関心を持ち、どのような役割を果たしているか意欲的に追求しようとしている。	⑩国際組織に加盟することによって起こる国内の産業や社会の変化について資料から考察し、その意義を説明できる。	⑪国際組織について調べることにより、社会的、政治的な結びつきがわかるということに気づき、資料を適切に選択、収集している。	⑫国と国の社会的・政治的な結びつきを知るためには、国際組織を調べる方法があることを理解している。
人の動きから見た結びつき	⑬特徴的な観光の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。	⑭イタリアと自分たちの住む京都を比較し、観光地としての様子を考察することができる。	⑮観光客数などの資料から、国の観光の特徴を読み取ることができる。	⑯観光の特徴を調べる際にどのような資料が適切かを把握している。
観光パンフレットにまとめる	⑰イタリアという国の地域的特色や概要を意欲的にまとめ、発表しようとしている。	⑱さまざまな視点や方法から得た情報をもとに、多面的、多角的にイタリアという国を考察することができる。	⑳国の特徴や概要をまとめ、発表することができる。	㉑まとめ、発表の仕方を理解し、その知識を持つ。

(2) 精選化

この単元では、様々な資料を活用することで、特に国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせたい。そのため、観点「社会的事象についての知識・理解」の④、「資料活用の技能・表現」における⑦、⑩など、資料の読み取り能力を養うことに重点を置く。さらには、これらの資料から多面的・多角的にイタリアという国の概要を把握し、理解した結果について、工夫を凝らしながらまとめ、発表する力も養っていく。このような考えにより、以下の精選化を行った。

学習内容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
調べていこう				④写真資料や雨温図の読み取り方を理解し、イタリアの地域的特色についての知識を持つ。
産業からみた結びつき			⑦主題図や生産統計から農業・工業の特徴を、貿易統計から農産物・工業製品の貿易相手国や貿易品目を読み取り、日本との関係を発表することができる。	
社会や政治からみた結びつき		⑩国際組織に加盟することによって起こる国内の産業や社会の変化について資料から考察し、その意義を説明できる。	⑩国際組織について調べることにより、社会的、政治的な結びつきがわかるということに気づき、資料を適切に選択、収集している。	
人の動きから見た結びつき	⑩特徴的な観光の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。			
観光パンフレットにまとめる		⑩さまざまな視点や方法から得た情報をもとに、多面的、多角的にイタリアという国を考察することができる。	⑩国の特徴や概要をまとめ、発表することができる。	

(3) 構造化

<p>単元名</p>	<p>第3章 世界の国を調べる 4. 他地域との結びつきから調べるーイタリアを例にー</p>			
<p>指導目標</p>	<p>・イタリアに関する様々な資料を活用することで、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。 ・資料からとらえた地域的特色をまとめ・発表する方法を理解させる。 ・地域の規模に応じた調べ方や学び方を身に付けさせる。</p>			
<p>観点</p>	<p>社会的事象への 関心・意欲・態度</p>	<p>社会的な思考・判断</p>	<p>資料活用の技能・表現</p>	<p>社会的事象についての 知識・理解</p>
<p>第1時</p>	<p>④写真資料や雨温図の読み取り方を理解し、イタリアの地域的特色についての知識を持つ。</p>			
<p>第2時</p>	<p>⑦主題図や生産統計から農業・工業の特徴を、貿易統計から農産物・工業製品の貿易相手国や貿易品目を読み取り、日本との関係を発表することができる。</p>			
<p>第3時</p>	<p>⑩国際組織について調べることにより、社会的、政治的な結びつきがわかるということに気づき、資料を適切に選択、収集している。</p>			
<p>第4時</p>	<p>⑩国際組織に加盟することによって起こる国内の産業や社会の変化について資料から考察し、その意義を説明できる。</p>			
<p>第5時</p>	<p>⑬特徴的な観光の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。</p>			
<p>第5時</p>	<p>⑭さまざまな視点や方法から得た情報をもとに、多面的、多角的にイタリアという国を考察することができる。</p> <p>⑮国の特徴や概要をまとめ、発表することができる。</p>			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

社会科

2年

1 教科目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 単元名

歴史的分野『第一次世界大戦と日本』

3 単元目標

- ・ 第一次世界大戦開戦前後から戦後の国際協調が進む時期の我が国の動きと世界の動きのあらましを理解させるとともに、民族運動の高まり、国際平和への努力、我が国の国民の政治的自覚の高まりに気付かせる。

4 単元(題材)の評価目標

- (1) 第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましや日本の民主主義の高まりについて、調べようとしている。

[社会的事象への関心・意欲・態度]

【評価方法:ノート】

- (2) 第一次世界大戦後の国際協調や平和に対する取り組みについて考察できる。

[社会的な思考・判断]

【評価方法:テスト】

- (3) アジアの民族運動の展開についてまとめ、発表することができる。

[資料活用の技能・表現]

【評価方法:テスト】

- (4) 第一次世界大戦前後の国際情勢や日本の関わり、日本の民主主義の高まりについて理解し、その知識を身につけている。

[社会的事象についての知識・理解]

【評価方法:テスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 具体化

この単元では、第一次世界大戦から新しい文化の形成までが小単元である。戦争については、日清戦争や日露戦争のところでも国際関係について考えたが、この第一次世界大戦がなぜ今だかつてないこのような大規模な戦争になったのか考えさせることが重要と考える。その中で、国際関係や日本との関わりを具体的にとらえさせ、日本の動きや社会の様子を理解させたいと考える。また、第一次世界大戦後の国際協調やアジアの民族運動では、平和とはどのようなことなのか人権問題と関連させたいと考える。特に、アジアでは植民地支配が強化されていく中で、人々の独立への思いと民主主義に対する意識の高まりについて考えさせ、生徒自身の考えについて発表させたい。日本でも第一次世界大戦後民主主義の高まりが政治や社会運動などに影響した事を気付かせたいと考える。

以上の事から評価基準を作成した。

学習内容	社会的事象への関心 ・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
第一次世界大戦と日本	① 第一次世界大戦前後のヨーロッパ諸国の動きについて追求しようとしている。	② 第一次世界大戦直前のヨーロッパ諸国の動きや、戦争が起った原因を考察する。	③ 第一次世界大戦によって日本の経済がどのように変化したか調べ発表する。	④ 第一次世界大戦前後のヨーロッパ諸国の動きと、日本の参戦について理解し、その知識を身につけている。
国際協調の時代	⑤ 第一次世界大戦後の欧米諸国の平和に対する動きについて追求しようとしている。	⑥ 第一次世界大戦後の国際平和の確立に向けての動きについて考察している。	⑦ 第一次世界大戦後の軍備縮小について調べ、発表することができる。	⑧ 国際連盟の誕生の経過や特色について理解している。
アジアの民族運動	⑨ 第一次世界大戦後のアジア諸国の動きについて追求しようとしている。	⑩ 日本の植民地支配に対して、中国・朝鮮の民族運動について考察している。	⑪ 民族運動の展開を調べ、人権問題についても考え発表することができる。	⑫ アジアの民族運動の展開について理解し、その知識を身につけている。
新しい生活と文化	⑬ 第一次世界大戦後の日本の社会の変化や新しい生活・文化について追求しようとしている。	⑭ 民主主義の高まりの中で、日本の社会の変化や日常生活・文化について考察している。	⑮ 教育の充実や新しい文化について調べ、発表することができる。	⑯ 第一次世界大戦後の日本の社会の変化や日常生活、文化について理解し、その特色について理解している
大正デモクラシー	⑰ 日本の民主主義の高まりについて追求しようとしている。	⑱ 政党政治の発達について考察している。	⑲ 日本のデモクラシーの高まりについてまとめ、発表することができる。	⑳ 民主主義の広がりが、政党政治の実現につながったことについて理解している。

社会運動の高まり	21 日本の社会運動の高まりについて追求しようとしている。	22 社会運動の広がりについて考察している。	23 社会運動の展開についてまとめることができる。	24 様々な社会運動が展開されたことについて理解し、その知識を身につけている。
----------	-------------------------------	------------------------	---------------------------	---

(2)精選化

欧米諸国の植民地拡大が、第一次世界大戦という人類が今までに経験したことの無い大きな戦争になり、悲惨な結果から国際協調や平和の重要性がいわれるようになった。日本も参戦し、その結果大きく日本の社会が変化した。この第一次世界大戦前後の国際社会の状況や動きから、日本の関わりをとらえることができると考える。

学習内容	社会的事象への関心 ・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能 ・表現	社会的事象についての 知識・理解
第一次世界大戦と日本				④ 第一次世界大戦前後のヨーロッパ諸国の動きと、日本の参戦について理解し、その知識を身につけている。
国際協調の時代		⑥ 第一次世界大戦後の国際平和の確立に向けての動きについて考察している。		
アジアの民族運動			⑩ 民族運動の展開を調べ、人権問題についても考え発表することができる。	
新しい生活と文化		⑭ 民主主義の高まりの中で、日本の社会の変化や日常生活・文化について考察している。		
大正デモクラシー	⑰ 日本の民主主義の高まりについて追求しようとしている。			⑳ 民主主義の広がりが、政党政治の実現につながったことについて理解している。
社会運動の高まり			23 社会運動の展開についてまとめることができる。	

(3) 構造化

ヨーロッパ諸国の植民地拡大をねらいとする政策がついに戦争となり長期にわたり戦いが繰り返され、悲惨な結果に終わったのが第一次世界大戦である。世界規模の戦争になったヨーロッパ諸国の動きや経過、悲惨な結果から平和に対する考え方がどのように生まれ広がっていったのか理解させたいと考える。

アジアの民族運動では、運動の展開だけでとらえるのではなく、人々の願いや考え方を人権問題としてもとらえさせたい。この様な世界の中で日本の関わりや動き、第一次世界大戦後の日本の社会の変化について考えさせることができればと考える。

単元名	第一次世界大戦と日本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦開戦前後から戦後の国際協調が進む時期の我が国の動きと世界の動きのあらましを理解させるとともに、民族運動の高まり、国際平和への努力、我が国の国民の政治的自覚の高まりに気付かせる。 			
観点	社会的事象への関心 ・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
第1時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">④ 第一次世界大戦前後のヨーロッパ諸国の動きと、日本の参戦について理解し、その知識を身につけている。</div>			
第2時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">⑥ 第一次世界大戦後の国際平和の確立に向けての動きについて考察している。</div>			
第3時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">⑪ 民族運動の展開を調べ、人権問題についても考え発表することができる。</div>			
第4時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">⑬ 第一次世界大戦後の日本の社会の変化や新しい生活・文化について追求しようとしている。</div>			
第5時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">⑰ 日本の民主主義の高まりについて追求しようとしている。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 200px;">⑳ 民主主義の広がりが、政党政治の実現につながったことについて理解している。</div>			
第6時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 100px;">㉓ 社会運動の展開についてまとめることができる。</div>			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

社会科

3年

1 教科目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

[公民的分野の目標]

(1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視点から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。

(2) 民主主義の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。

(3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。

(4) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

2 単元名

3年 (公民的分野) 第3編「わたしたちの生活と経済」

第2章「生産のしくみ」

(大阪書籍「中学社会 公民的分野」)

3 単元目標

現代の生産の仕組みのあらましや金融の働きについて理解させるとともに、社会における企業の役割と社会的責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連づけて考えさせる。

4 単元の評価目標

(1) 生産活動や働くことに対する関心を高め、経済活動や労働の意義について考えようとしている。

[社会的事象への関心・意欲・態度]

【評価方法：授業観察、ノート、ワークシート】

(2) 資本主義経済における競争の利点と問題点を整理し、生産の集中、金融の役割について多面的・多角的に考えるとともに、企業の社会的責任について公正な判断ができる。

[社会的な思考・判断]

【評価方法：ノート、ワークシート、ウインターテスト】

(3) 企業の経済活動や労働に関する諸問題について、資料をもとに分析・考察し、その結果をまとめ、説明できる。

[資料活用の技能・表現]

【評価方法：ノート、ワークシート、ウインターテスト】

(4) 生産のしくみのあらし、金融のはたらき、労働の役割や意義とそれらの課題について理解し、その知識を身につけている。

[社会的事象についての知識・理解]

【評価方法：ウインターテスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

本単元では、現代の生産のしくみを株式会社を例にして理解させるとともに、資本主義経済の中での公正な競争についての重要性と課題を理解させることが重要である。一方、企業と家計をつなぐ中間に金融機関があり、資金の円滑で安定した流れを導くために金融機関が重要な役割を果たしていることを理解させる。さらに、そうした中で、生徒自身が将来、働くことの意義を理解し、現在の日本社会の労働条件に関する諸問題に気づき、その解決に向けた方策を考察する力を育てたい。

【「生産のしくみ」の評価規準の具体化】

学習内容	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
第3編 わたしたちの生活と 経済 第2章 生産のしくみ (1) 生産と企業 (2) 金融と お金の価値 (3) 働く人を めぐる問題	①生産活動に必要な要素に関心を持つとともに、生産が集中している商品についての関心を通じて、独占についての問題を意欲的に考えようとしている。	②資本主義経済における自由な競争のしくみとそこでおこる生産の集中についての利点と問題点を整理して多面的・多角的に理解することができる。また、企業の社会的責任について考察することができる。	③資本主義経済の中心となる株式会社のしくみを図を用いて理解できる。また、中小企業が現代社会のなかでもつ課題などをグラフや資料を用いて考察することができる。	④生産活動の意義や生産要素について理解している。また、自由な競争の利点と課題を理解している。
	⑤金融のしくみについて、貯金金利など日常生活と関連させて、意欲的に考えようとしている。	⑥貨幣の信用と安定のために果たす日本銀行のしごとや政策について説明できる。また、為替の変動を通じた日本経済の現状と課題について整理することができる。	⑦金融機関を中心にして、企業や家計のそれぞれの関係を図を用いて理解し説明することができる。	⑧企業と家計をつなぐ金融機関が、資金を安定して円滑に循環させるために重要な働きをしていることを理解している。
	⑨働くことの意義を理解するとともに、職業や労働条件に関する問題に気づき、それらについて意欲的に考えようとしている。	⑩経済の低成長が続く中で雇用や就業の形態がどのように変わってきたかを考察できるとともに、男女共生社会の観点などから解決に向けて考察しようとしている。	⑪失業率の変化や女性・派遣労働などに関するグラフや統計を通じて、現代社会の課題を説明することができる。	⑫働くことの意義を理解するとともに、労働条件改善のための法律や労働組合の役割について理解している。

(2)「精選化」

生徒が生産活動そのものを直接、体験する機会は少ない。したがって、生産活動の結果として生み出される商品をもとに、商品を生産するためにはどのような要素が必要かの考察からはじめる。そして、現代の資本主義経済にとって、競争が重要な役割を果たしていることを確認すると同時に、その競争はあくまでも公正なものでなければならないことにも気づかせる。一方で、円滑で安定した生産を支えるためには、通貨安定のしくみが必要であることを確認する。最後に、生徒自身が将来において生産を担うという立場からみて、現代の労働状況がどのようなになっているかをグラフや資料から読み取り、その課題を解決するために、どのような知識が必要かを考察させたい。

【精選化された「生産のしくみ」の評価規準】

学習内容	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解	
第3編 わたしたちの生活と 経済 第2章 生産のしくみ (1) 生産と企業 (2) 金融と お金の価値 (3) 働く人を めぐる問題	①生産活動に必要な要素に関心を持つとともに、生産が集中している商品についての関心を通じて、独占についての問題を意欲的に考えようとしている。	②資本主義経済における自由な競争のしくみと其中でおこる生産の集中についての利点と問題点を整理して多面的・多角的に理解することができる。また、企業の社会的責任について考察することができる。	③資本主義経済の中心となる株式会社のしくみを図を用いて理解できる。また、中小企業が現代社会のなかでもつ課題などをグラフや資料を用いて考察することができる。	④生産活動の意義や生産要素について理解している。また、自由な競争の利点と課題を理解している。	
		⑥貨幣の信用と安定のために果たす日本銀行のしごとや政策について説明できる。また、為替の変動を通じた日本経済の現状と課題について整理することができる。			
		⑩経済の低成長が続く中で雇用や就業の形態がどのように変わってきたかを考察できるとともに、男女共生社会の観点などから解決に向けて考察しようとしている。	⑪失業率の変化や女性・派遣労働などに関するグラフや統計を通じて、現代社会の課題を説明することができる。		⑫働くことの意義を理解するとともに、労働条件改善のための法律や労働組合の役割について理解している。

(3)「構造化」

本単元は、消費生活の学習に続けて、生産活動から経済の学習をすすめるものである。生産の学習は、利潤追求すなわちもうけをあげるにはどうすればよいかという比較的生徒の関心が強い分野である。したがって前半の流れは企業経営者的な立場から見て生産活動が円滑にすすめられるためにはどのような条件が必要かという点にそって、具体的な生産要素から始め、通貨の安定のために必要な条件なども考えさせる。しかし、現実には、生徒達は将来、ほとんどが雇用者として就業することになり、そのための現在の労働現場の実態を考察し、不安なく就労するためにはどのような条件が必要かについても考えさせる。

【構造化された「生産のしくみ」の評価規準】

単元名	第3編 わたしたちの生活と経済 第2章 生産のしくみ			
指導目標	現代の生産の仕組みのあらましや金融のはたらきについて理解させるとともに、社会における企業の役割と社会的責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の方針と関連づけて考えさせる。			
観点	内容的な事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的な事象についての 知識・理解
<p>(1) 生産と企業 (第1～4時)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 22%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①生産活動に必要な要素に関心を持つとともに、生産が集中している商品についての関心を通じて、独占についての問題を意欲的に考えようとしている。</p> </div> <div style="width: 22%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②資本主義経済における自由な競争のしくみとその中で起こる生産の集中についての利点と問題点を整理して多面的・多角的に理解することができる。また、企業の社会的責任について考察することができる。</p> </div> <div style="width: 22%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③資本主義経済の中心となる株式会社のしくみを図を用いて理解できる。また、中小企業が現代社会のなかでも課題などをグラフや資料を用いて考察することができる。</p> </div> <div style="width: 22%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④生産活動の意義や生産要素について理解している。また、自由な競争の利点と課題を理解している。</p> </div> </div> <p>(2) 金融とお金の価値 (第5～6時)</p> <div style="width: 22%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10%;"> <p>⑥貨幣の信用と安定のために果たす日本銀行のしごとや政策について説明できる。また、為替の変動を通じた日本経済の現状と課題について整理することができる。</p> </div> <p>(3) 働く人をめぐる問題 (第7～8時)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 22%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑩経済の低成長が続く中で雇用や就業の形態がどのように変わってきたかを考察できるとともに、男女共生社会の観点などから解決に向けて考察しようとしている。</p> </div> <div style="width: 22%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑪失業率の変化や女性・派遣労働などに関するグラフや統計を通じて、現代社会の課題を説明することができる。</p> </div> <div style="width: 22%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑫働くことの意義を理解するとともに、労働条件改善のための法律や労働組合の役割について理解している。</p> </div> </div>				

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

数 学 科

1年

1 教科目標

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

2 学年目標

数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることの意義及び方程式の意味を理解するとともに、数量などの関係や法則を一般的にかつ簡潔に表現し、処理できるようにする。

3 単元名

1年 文字の式 (啓林館 未来へ広がる 数学[1])

4 単元目標

文字を使って、数量や数量の間の関係を一般的に表したり、計算法則を簡潔に表したりすることを通して、文字を用いることのよさや必要性に気づく。また、表された式を読んだり、式を計算することを通して、文字の式を利用するための基礎的な処理の方法を身につける。

5 単元(題材)の評価目標

- (1) 文字の使用に関心を持ち、数量関係を文字を使って表そうとする。文字の式の計算に進んで取り組もうとする。
「数学への関心・意欲・態度」
【評価方法：ワークシート・レポート】
- (2) 計算法則などをもとにして式の計算方法を導くことができる。数量や数量の関係を文字を用いて一般的に表すことができる。
「数学的な見方や考え方」
【評価方法：定期テスト・ワークシート】
- (3) 数量や数量の関係を、文字を用いて式や等式を表すことができる。文字の式の計算ができる。「数学的な表現・処理」 【評価方法：定期テスト・ワークシート】
- (4) 文字の式やその計算に関する用語・記号について説明することができる。式を書くときの約束が説明できる。
「数量図形などについての知識・理解」
【評価方法：定期テスト・ワークシート】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

今回、評価規準の作成にあたり、国立教育政策研究所の1年【「A 数と式」の評価規準の具体例】を参考にしているが採用されている教科書の小単元の配列・内容のまとまりに違いがあるため、実際の授業を想定したもの（小単元）に変更している。

また、数学の各観点別の間の構成・関連を以下のように理解することをもとに作成にかかった。

観点別の内容を

第1段階・・・基本的な用語や記号などを知識として備え、その内容を理解している。（知識、理解）

第2段階・・・第1段階で会得した内容を用いて一次式（文字式）の計算をしたり式の意味を読み取ったりできる。（表現・処理）

第3段階・・・第2段階で習得した技能を道具として用いて、数量関係や日常の現象を数学的に解明、説明できる。（見方や考え方）

第4段階・・・第3段階までに学んだ、事象を数理的にとらえ、見通しをもち論理的に考察できる力を使い、様々な場面の中で応用しようとする。
（関心・意欲・態度）

としてとらえ、具体化を行った。

学習 内容	数学への関心・ 意欲・態度	数学的な見方や 考え方	数学的な表現・処理	数量図形などにつ いての知識・理解
2. 文字の 式	【文字式の加法, 減法】 ①一枚 x 円のファイ ルを兄は5枚妹は3 枚買うという問題で, それぞれをまとめて 表現できることに気 づこうとする。	②文字式の計算を, 数の計算と同じよう にみることができる。	③ $-3x + 2x$ や $8x + 4 - 6x + 1$ などを例として一次 式の加減の計算がで きる。	④項, 係数, 1次 の項, 一次式の意味を 理解している。
	【文字式と数の乗法, 除法】 ⑤ $2x \times 5$, $12x \div 3$ や $3(4x + 5)$ などの一次式と数の 乗法や除法の計算に 取り組もうとする。 ⑥「不思議な計算」(教 科書 p 63)で,なぜ様 々な数で考えても結 果が3(同じ)になるの かを文字で説明しよ うとする。	⑦文字式の計算を, 数の計算と同じよう にみることができる。	⑧ $2x \times 5$, $12x \div 3$ や $3(4x + 5)$ などの一次式と数の 乗除の計算ができる。	⑨ $2x \times 5$, $12x \div 3$ や $3(4x + 5)$ などの一次式と数の 乗除の計算のしかた を理解している。
	【関係を表す式】 ⑩数量の関係を等式 に表そうとする。	⑪ $a = b + 4$ と $a - b = 4$ とは, 式の形 は違うが同じことだ ととらえることがで きる。	⑫数量の関係を, 等 式に表すことができ る。	⑬等式, 左辺, 右辺, 両辺の意味を理解し ている。

(2) 「精選化」

はじめに、2節3項【関係を表す式】は、次章「方程式」への準備・橋渡しの一面をもっており、文字式の中心になる内容は2項【文字式と数の乗法，除法】までであることと観点を段階的に捉えている関係上、以下の方針で精選化を行った。

『知識・理解』…④は、この節を学習していくにあたって、全ての生徒が正しく用語の意味を身につけておかなければ本節の学習を進めていくことが困難になると考える。

『表現・処理』…③⑧は『処理』面において『見方，考え方』につながる一次式の加減乗除ができるようになることに集約する。

『見方，考え方』…⑩は文字式の内容の中心ではないが、センテンス型の式を考える場面で数量関係を文字を用いて一般的に表せるか評価する。

『関心・意欲・態度』…⑥は上記の経験を踏まえ、論理的思考を行おうとする姿勢を評価する。

学習 内容	数学への関心・ 意欲・態度	数学的な見方や 考え方	数学的な表現・処理	数量図形などにつ いての知識・理解
2. 文字の 式	【文字式の加法, 減法】 ①	②	③ $-3x + 2x$ や $8x + 4 - 6x + 1$ などを例として一次 式の加減の計算がで きる。	④ 項, 係数, 1 次 の項, 一次式の意味を 理解している。
	【文字式と数の乗法, 除法】 ⑤ ⑥「不思議な計算」(教 科書 p 63)で,なぜ様 々な数で考えても結 果が 3(同じ)になるの かを文字で説明しよ うとする。	⑦	⑧ $2x \times 5$, $12x$ $\div 3$ や $3(4x + 5)$ などの一次式と数の 乗除の計算ができる。	⑨
	【関係を表す式】 ⑩	⑪ $a = b + 4$ と $a -$ $b = 4$ とは, 式の形 は違うが同じことだ ととらえることがで きる。	⑫	⑬

(3) 「構造化」

今回、構造化するにあつて選び出した評価規準をどのような順序で指導に置き換え授業を展開するのかについては、「具体化」で述べているように、数学の各観点別の間の構成・関連の1～4段階として捉えて、具体化・精選化とできる限り同時に考えたものである。なお、⑥については本章の最終時におこなうものとする。

単元名		1年 2. 文字の式		
単元目標		文字を使って、数量や数量の間の関係を一般的に表したり、計算法則を簡潔に表したりすることを通して、文字を用いることよさや必要性に気づく。また、表された式を読んだり、式を計算することを通して、文字の式を利用するための基礎的な処理の方法を身につける。		
観点	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な表現・処理	数量図形などに ついての知識・理解
第8 ～ 10 時			③ $-3x + 2x$ や $8x + 4 - 6x + 1$ などを例として一次式の加減の計算ができる。	④ 項、係数、1次の項、一次式の意味を理解している。
第11 ～ 13 時	⑥ 「不思議な計算」(教科書 p 63) で、なぜ様々な数で考えても結果が 3(同じ)になるのかを文字で説明しようとする。		⑤ $2x \times 5$, $12x \div 3$ や $3(4x + 5)$ などの一次式と数の乗除の計算ができる。	
第14 ～ 15 時		① $a = b + 4$ と $a - b = 4$ とは、式の形は違うが同じことだととらえることができる。		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

数 学 科

2年

1 教科目標

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理、法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

2 学年目標（第2学年）

(1) 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立二元一次方程式について理解し、それを用いる能力を養う。

(2) 基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法を理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養う。

(3) 具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。また、具体的な事象についての観察や実験を通して、確率の考え方の基礎を培う。

3 単元名

2年 4章 図形の調べ方

4 単元目標

図形の性質を調べる上で基礎となる見方・考え方や基本的性質を明らかにし、論証の意義と推論の進め方について理解する。

5 単元の評価目標

単元の指導目標に対して、単元全体の評価目標の趣旨と評価方法は、次のようなものになる。……教科書の指導書を参考にした

1) 図形の性質を調べる際の論証の意義と推論の進め方に関心をもつ。また、確かな根拠にもとずき筋道をたてて考えようとする。〈数量、図形などについての知識・理解〉

[評価方法] ……定期テスト

2) 証明することがらについて、家庭と結論を明らかにすることができる。そして、確かな根拠にもとづいて、論理的に推論することができる。〈数学的な表現・処理〉

[評価方法] ……定期テスト、図作成

3) 問題にあった図をかき、それを証明に結びつけることができる。また、合同条件を使って、簡単な図形の性質を証明することができる。〈数学的な見方や考え方〉

[評価方法] ……ワークシート、定期テスト、(課題レポート)

4) 図形の基本的な性質や証明に関する用語・記号について知っている。さらに、証明の根拠として使われることがらをあげることができる。〈数学への関心・意欲・態度〉

[評価方法] ……発表、ワークシート、(課題レポート)

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(6-1) 具体化

目標の分析や内容の分析をし評価規準を作成するためには、学習指導要領レベルの目標・内容分析から、教科書(教材)レベルの目標・内容分析をして、さらに実際の授業での子どもの学習活動の姿を思い浮かべながら、評価方法までの設定をした。すなわち、目標・内容分析という3段階(プロセス)の中で、「具体化」「精選化」「構造化」を同時進行で行うことである。

そこで、教師の指導が、目標を実現して、生徒が充実した学習活動を行うことができるためにも、また、指導内容や指導方法の反省や改善に役立てるためにも、周到かつ綿密に工夫して作成した指導計画を基にして、指導を進めることはいうまでもない。指導は、その時の指導の目標の実現を目指して行っていくわけであるから、指導が適切に行われたかどうかの評価の拠り所は、その時の指導の目標が大きなウェイトを占めることになる。したがって、指導計画では、特に指導の目標をしっかり分析して明確に設定することが重要になる。単元（章）の指導目標からはじめ、実際の授業を想定した評価目標の作成のため、観点ごとに生徒に身に付けたい力を具体的にするとともに、評価方法をも同時に考えた。

	学習内容	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などにつ いての知識・理解
1 平行 と 合同 9 H	1項. 角と平行線 平行であることや、三角形の合同を示す方法を考える。 ・対頂角の性質 ・平行線と同位角の関係 ・平行線と錯角の関係	関①「対頂角は等しい」など、直観的にわかることがらを、すじ道を立てて説明したりしようとする。	考①「対頂角は等しい」などのことがらを、帰納的な推論や類推を用いて予想することができる。	表①対頂角、同位角、錯角の大きさを求めることができる。	知①対頂角、同位角、錯角の意味と対頂角の性質、平行線の性質、平行線になる条件を理解している。
	2項. 多角形の角 ・三角形の内角の和 ・三角形の内角と外角の関係 ・角の分類と三角形の角による分類 ・多角形の内角の和、外角の和	関②五角形の内角の和、外角の和などを求めようとする。	考②三角形の内角・外角と五角形の外角の和などを演繹的に考察することができる。多角形の内角の和は帰納的に考察することができる。	表②鋭角三角形の内角や外角、五角形の内角の和・外角の和などを求めることができる。	知②鋭角三角形の内角・外角の性質、五角形などの内角・外角について理解し、それらを求める方法を理解している。
	3項. 三角形の合同 ・ぴったりと重ねあわせることができる2つの図形が、合同な図形であること ・合同な図形の性質 ・三角形の合同条件	関③2つの鋭角三角形の対応する3辺が等しい場合や、対応する3つの角が等しい鋭角三角形の場合などで、どんな場合に合同になるか考えようとする。	考③対応する3辺が等しい2つの鋭角三角形や、対応する3つの角が等しい鋭角三角形の場合で、合同かどうかを、合同条件を用いて考察することができる。	表③対応する3辺や3つの角が等しい2つの鋭角三角形の場合などについて、三角形の合同条件を用いて合同な三角形の組に分けることができる。	知③合同な鋭角三角形や四角形の性質が分かり、対応する頂点や辺および角について比べて、三角形の合同条件を理解している。
2 証明 6 H	1項. 証明とそのしくみ ・証明の意味と必要性 ・仮定と結論の意味 ・証明のしくみ ・証明の根拠となることから	関④三角形の内角の和が 180° であるの成り立つことなどを、すじ道を立てて説明しようとし、仮定から結論を導く証明のしくみに関心を持っている。	考④角の二等分線などの作図において、仮定からすでに正しいことがらを根拠にして、結論を導く証明のすじ道を考えることができる。	表④対応する3辺が等しい2つの三角形などで、合同条件をあげて、証明のすじ道にしたがって表現することができる。	知④証明の意味や、仮定、結論、証明のすじ道について理解している。
	2項. 合同条件と証明の進め方 ・合同条件を使って簡単な図形の性質を証明すること	関⑤錯視や先入観に惑わされずに、三角形の合同条件を使って、証明を進めようとするとともに、それを吟味しようとする。	考⑤視覚的なことだけに頼らず、三角形の合同条件を使って証明する手順を考え、さらに吟味することができる。	表⑤平行線間にある2つの三角形などを、合同条件を用いて証明することができる。	知⑤平行線間にある2つの三角形の合同における証明の進め方を理解している。

(6-2) 精選化

章「図形の調べ方」での、生徒の学習の実現状況をできる限りの確に評価するため、(6-1)での具

体化された評価規準より、形成的な評価とするものと、章「図形の調べ方」の評価・評定へとつながる総括的評価とするものにと振り分けてみた。

そして、生徒がこれからも数学での数量関係の学習内容を、将来にわたって、自ら学び続けられるようにするために、これらの評価規準の中から、総括的な評価規準を絞り、本校で使用している教科書を考慮して、学習活動における評価規準の精選化を策定してみた。

	学習内容	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などにつ いての 知識・理解
1 平 行 と 合 同	1項. 角と平行線 平行であることや、三角形の合同を示す方法を考える。 ・対頂角の性質 ・平行線と同位角の関係 ・平行線と錯角の関係				知①対頂角、同位角、錯角の意味と対頂角の性質、平行線の性質、平行線になる条件を理解している。
	2項. 多角形の角 ・三角形の内角の和 ・三角形の内角と外角の関係 ・角の分類と三角形の角による分類 ・多角形の内角の和、外角の和			表②三角形の内角や外角、五角形の内角の和・外角の和などを求めることができる。	
	3項. 三角形の合同 ・ぴったりと重ねあわせることができる2つの図形が、合同な図形であること ・合同な図形の性質 ・三角形の合同条件				知③合同な鋭角三角形や四角形の性質が分かり、対応する頂点や辺および角について比べて、三角形の合同条件を理解している。
2 証 明	1項. 証明とそのしくみ ・証明の意味と必要性 ・仮定と結論の意味 ・証明のしくみ ・証明の根拠となることから			表④対応する3辺が等しい2つの三角形などで、合同条件をあげて、証明のすじ道にしたがって表現することができる。	
	2項. 合同条件と証明の進め方 ・合同条件を使って簡単な図形の性質を証明すること	関⑤錯視や先入観に惑わされずに、三角形の合同条件を使って、証明を進めようとするとともに、それを吟味しようとする。	考⑤視覚的なことだけに頼らず、三角形の合同条件を使って証明する手順を考え、さらに吟味することができる。		

(6-3) 構造化

選り出された評価規準をどのような順序で指導に置き換え授業を展開するのかを考えてみた。

単元名	4章 図形の調べ方			
指導目標	図形の性質を調べる上で基礎となる見方・考え方や基本的性質を明らかにし、論証の意義と推論の進め方について理解する。			
指導 時数	数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量、図形などについての 知識・理解
第1時 ～ 第3時				<p>知① 対頂角，同位角，錯角の意味と対頂角の性質，平行線の性質，平行線になる条件を理解している。</p>
第4時 ～ 第8時				<p>表② 三角形の内角や外角，五角形の内角の和・外角の和などを求めることができる。</p>
第7時 ～ 第9時				<p>知③ 合同な鋭角三角形や四角形の性質が分かり，対応する頂点や辺および角について比べて，三角形の合同条件を理解している。</p>
第10時 ～ 第12時				<p>表④ 対応する3辺が等しい2つの三角形などで，合同条件をあげて，証明のすじ道にしたがって表現することができる。</p>
第13時 ～ 第15時	<p>関⑤ 錯視や先入観に惑わされずに，三角形の合同条件を使って，証明を進めようとするとともに，それを吟味しようとする。</p>	<p>考⑤ 視覚的なことだけに頼らず，三角形の合同条件を使って証明する手順を考え，さらに吟味することができる。</p>		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

数 学 科

3年

教科目標 : 数値、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

学年目標 : 三平方の定理について、観察、操作や実験を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しを持って論理的に考察し表現する能力を伸ばす。

単元名 : 3年 三平方の定理 (啓林館)

単元目標 : 三平方の定理を見出し、それが直角三角形において3辺の長さの関係を表したものであることを理解すると同時に、既習の知識を用いて証明可能であることを理解し、定理を利用して様々な図形の計量などに活用することができるようにする。

評価目標 :

- ① 三平方の定理とその有用性を知り、それを用いて図形の計量に意欲的に取り組もうとする。
(関心・意欲・態度)
[評価方法 ノート・ワークシート]
- ② 三平方の定理の証明を読み取り、様々な方法で表すことができ、更に定理を用いて図形の計量に利用することができる。
(表現・処理)
[評価方法 ワークシート・テスト]
- ③ 三平方の定理を帰納的に導くことができ、定理を用いて問題を簡潔に解決したり発展させたりすることができる。
(見方・考え方)
[評価方法 ワークシート・テスト]
- ④ 三平方の定理や用語。記号について説明することができる。図形の計量に関する定理や公式を体系的に説明できる。
(知識・理解)
[評価方法 テスト]

1. 具体化

この三平方の定理の単元は3年間の図形領域の中で、最後の単元である。したがって、以下の各観点別の間の構成・関連に関する考え方を踏まえた上で、3年間で学習した図形領域の知識や力を総合的に活用する場を提供し、発展的な力を培うとともに、数学そのものの持つ構造や楽しさを感じる機会を与えたい。そうした目的を実現するために具体化では、三平方の定理を様々な図形(平面、空間)で利用の場面を意識した。

【数学の各観点別の間の構成・関連に関する考え方】

第1段階・・・基本的な用語や定義、公理等を知識として備え、その内容を理解している。(知識、理解)

第2段階・・・第1段階で会得した内容を用いて数値や式、図などを計算したり、変形したりすることが出来る。(数学的処理)

第3段階・・・第2段階で習得した技能を道具として用いて、数式や図形やその他日常の現象(科学的事象)を数学的に説明、説明できる。(数学的思考)

第4段階・・・第3段階までに学んだ論理的思考力を様々な場面(社会的事象も含む)の中で応用しようとする。(数学的態度)

学習内容	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量・図形などについての知識・理解
三平方の定理	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの直角三角形について、三辺の長さの間に成り立つ関係に着目し、観察、操作や実験を通じて共通な性質を見出し、考察しようとする。 三平方の定理の意味や証明の仕方に関心を持ち、それらを調べようとする。 三平方の定理を用いると、座標平面上の2点間の距離、長方形の対角線の長さ、円錐の高さ、直方体の対角線の長さなど、直接図らなくても計算で求められることの良さに気づき、それらを求めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 直角三角形になるかどうかは三辺の長さの関係によって決定されることなど、三平方の定理の意味を考察することができる。 三平方の定理の証明の仕方を知り、考察することができる。 2点A(2,4) B(-3,-1)においてAB間の距離を求めることができる 3辺の長さが2cm, 3cm, 4cmである直方体の対角線の長さを求めることができる 母線の長さが6cm、底面の半径が2cmの円錐の高さを求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 直角三角形の三辺の長さを用いて、三平方の定理を言葉や式で表した読み取ったりすることができる。 式に表したことや、その式を変形した結果を図形の性質などに関連付けて三平方の定理の証明を読み取ったり表したりすることができる。 三平方の定理を用いて、2辺の長さが3cm, 5cmの長方形の対角線の長さを求めることができる。 三平方の定理をもとにして、直角三角形を作ることができる。 三平方の定理を用いて$\sqrt{3}$の値を数直線上にあらわすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、操作や実験を通じて三平方の定理は直角三角形の三辺の長さの関係を表したものであることを理解している。 三平方の定理は、直角三角形の三辺の長さの関係を表すものであるとともに面積の関係を表すものであることを理解している。 平面図形や空間図形の計量を行う場面や、直角を作ったりする場面に三平方の定理が用いられることを理解している。

2. 精選化

精選化にあたっては、『知識理解』については、多角的多面的な理解を敢えて要求せず、『表現・処理』の段階で、処理においてそうした見方ができるかどうかを問うこととした。また、『見方・考え方』については三平方の定理のみならず、図形領域全般にわたる知識や見方が身につけているかどうかを判断の基準におくこととした。他の観点についても観点を段階的に捉えている関係上、以下の方針で精選化を行った。

- ①『知識理解』の特に『知識』面については、その内容を理解できているかどうかをシンプルに判断するものとする。
- ②『表現処理』については『処理』面において、多面的に適用することができるかどうかを問うものとする。
- ③『見方、考え方』は、この単元を履修する以前には解決できなかったような課題の中でこの定理を利用し、解決する方法を見出さうかどうかを中心にする。
- ④『関心・意欲・態度』については図式化可能な様々な場面において図形領域における様々な知識や理解が汎用可能であることに目を向けようとするすることができるかどうかを見る

学習内容	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量・図形などについての知識・理解
三平方の定理	<ul style="list-style-type: none"> ・三平方の定理を用いると、座標平面上の2点間の距離、長方形の対角線の長さ、円錐の高さ、直方体の対角線の長さなど、直接図らなくても計算で求められることの良さに気づき、それらを求めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3辺の長さが2 cm, 3 cm, 4 cmである直方体の対角線の長さを求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・三平方の定理を用いて、2辺の長さが3 cm, 5 cmの長方形の対角線の長さを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、操作や実験を通じて三平方の定理は直角三角形の三辺の長さの関係を表したものであることを理解している。

2. 構造化

単元の 指 導 目 標	三平方の定理を見出し、それが直角三角形において3辺の長さの関係を表したものであることを理解すると同時に、既習の知識を用いて証明可能であることを理解し、定理を利用して様々な図形の計量などに活用することができるようにする。			
学習内容	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量・図形についての知識・理解
三平方 の定理				<p>・観察、操作や実験を通じて三平方の定理は直角三角形の3辺の長さの関係を表したものであることを理解している。</p>

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

数 学 科

3年

1. 教科目標

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的な活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

2. 学年目標

図形の相似や三平方の定理について、観察、操作や実験を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって理論的に考察し表現する能力を伸ばす。

3. 単元名

3年 5章. 図形と相似 (啓林館 数学3年)

4. 単元目標

図形の相似の概念を明らかにし、三角形の相似条件をもとにして図形の性質についての理解をいっそう深めるとともに、相似の考えが活用できるようにする。

5. 単元の評価目標

- (1) 三角形の相似条件などを用いて図形の性質を調べようとしたり、図形の拡大・縮小や相似について関心を持ち活用しようとする。

【関心・意欲・態度】 (評価方法：ワークシート・レポート)

- (2) 合同と相似について、類似性や相違点に着目し、三角形の相似条件や平行線と線分の比に関する性質などにもとづいて、図形の性質を考察することができる。

【数学的な見方や考え方】 (評価方法：定期テスト・ワークシート)

- (3) 三角形の相似条件などを使って、図形の性質を証明することができ、平行線と線分の比に関する性質を図形の考察や問題解決に活用する。

【表現・処理】 (評価方法：定期テスト・ワークシート)

- (4) 図形の相似に関する用語・記号について説明することができ、平行線と線分の比に関する性質について説明することができる。

【知識・理解】 (評価方法：定期テスト・ワークシート)

6. 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

小学校で「簡単な場合の比の意味」、中学1年で「5章 平面図形」、2年生で「4章 図形の調べ方」、「5章 図形の性質と証明」をすでに学習している。それらの図形の性質を整理し、論理的に体系付け、組み立てていく上で、合同と相似の概念は重要である。さらに、相似の考え方が日常の生活に結びついていることを学習の過程の中で理解させたい。

学習内容	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などについて の知識・理解
1. 相似な図形図形の拡大・縮小の意味を知り、それをもとに図形の相似の意味と相似な図形の性質を知る。	①10枚の同じ形の三角形を組み合わせ図形を作ってみることで相似な図形の性質を見つけようとする。	②P90のA～Dの4種類の図形を使って相似な概念を明らかにし、2つの相似な図形を観察して、相似な図形の性質を考えることができる。	③P93の四角形ABCDと四角形EFGHを使い2つの図形が相似であることを記号を使って表したり、相似比や対応する辺の長さを求める。	④拡大・縮小の意味を知り、相似の意味、性質、P91の三角形ABCの三角形DEFのときの相似比について理解している。
2. 三角形の相似条件 三角形の相似条件を知り簡単な場合にそれを用いることができる。	⑤三角形の相似条件に関心を持ち、それを使おうとする。	⑥相似条件を用いて、2つの三角形が相似かどうかを考察することができる。	⑦△ABCとBC:EF=1:2の線分EFを使い相似な三角形をかくことができる。また、それにより三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であるかどうか判断できる。	⑧三角形の相似条件を理解している。
3. 相似と証明 三角形の相似条件を使って、図形の性質を証明することができるようになる。	⑨三角形の相似条件を用いて図形の性質を証明しようとする。	⑩証明すべき2つの三角形を見つけ出すことができる。	⑪三角形の相似条件を用いて証明することができる。	⑫相似条件を用いた証明について理解している。
4. 縮図の利用 縮図をかいて、2地点間の距離や建物の高さを求めることができる。	⑬相似の考えを用いると、直接測定しなくても間接的に距離などを求められることに関心を持ち、縮図を利用しようとする。	⑭直接測ることのできない2地点間の距離や建物の高さを求めるのに、縮図を利用し、相似の考えを適用することができる。	⑮与えられた条件を満たす縮図の辺の長さから、実際の長さを求めることができる。	⑯実際の長さを求めるのに縮図が利用できることを理解している。
1. 平行線と線分の比 平行線と線分の比を導き、それを活用する。	⑰平行線と線分の比に関する性質に関心をもち、その性質を調べようとする。	⑱「平行線と線分の比」が「線分の比と平行線」の逆になっていることがわかる。	⑲平行線と平行線と線分の比の性質を利用して、辺の長さや比を求めることができる。	⑳平行線と線分の比に関する性質を理解している。
2. 中点連結定理 中点連結定理を導き、それを用いて図形の性質を証明することができる。	21 中点連結定理の発見や利用に意欲的に取り組もうとする。	22 中点連結定理を用いて、図形の性質を考察することができる。	23 中点連結定理を用いて、線分の位置関係や長さを求めることができる。	24 中点連結定理を理解している。

(2)「精選化」

三角形の相似条件と合同条件を比較しながら進めていくことにより、違いを理解させることができると思われる。

学習内容	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などについて の知識・理解
1. 相似な図形図形の拡大・縮小の意味を知り、それをもとに図形の相似の意味と相似な図形の性質を知る。			③P93の四角形ABCDと四角形EFGHを使い2つの図形が相似であることを記号を使って表したり、相似比や対応する辺の長さを求める。	④拡大・縮小の意味を知り、相似の意味、性質、P94の三角形ABCの三角形DEFのときの相似比について理解している。
2. 三角形の相似条件 三角形の相似条件を知り簡単な場合にそれを用いることができる。			⑦△ABCとBC:EF=1:2の線分EFを使い相似な三角形をかくことができる。また、それにより三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であるかどうか判断できる。	
3. 相似と証明 三角形の相似条件を使って、図形の性質を証明することができるようになる。		⑩証明すべき2つの三角形を見つけ出すことができる。	⑪三角形の相似条件を用いて証明することができる。	
4. 縮図の利用 縮図をかいて、2地点間の距離や建物の高さを求めることができる。	⑮相似の考えを用いると、直接測定しなくても間接的に距離などを求められることに関心を持ち、縮図を利用しようとする。	⑭直接測ることのできない2地点間の距離や建物の高さを求めるのに、縮図を利用し、相似の考えを適用することができる。		
1. 平行線と線分の比 平行線と線分の比を導き、それを活用する。			⑯平行線と平行線と線分の比の性質を利用して、辺の長さや比を求めることができる。	
2. 中点連結定理 中点連結定理を導き、それを用いて図形の性質を証明することができる。	21 中点連結定理の発見や利用に意欲的に取り組もうとする。	22 中点連結定理を用いて、図形の性質を考察することができる。		

(3)「構造化」

精選化された評価規準の構造化を行った。

単元名	3年 5章3. 図形と相似			
単元目標	三角形の相似条件などを使って、図形の性質を証明することがで、平行線と線分の比に関する性質を図形の考察や問題解決に活用する。			
指導時数	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な 表現・処理	数量、図形などについての 知識・理解
第1 ～ 4時			③P93の四角形ABCDと四角形EFGHを使い2つの図形が相似であることを記号を使って表したり、相似比や対応する辺の長さを求める。	④拡大・縮小の意味を知り、相似の意味、性質、P94の三角形ABCの三角形DEFのときの相似比について理解している。
第5 ～ 7時			⑦△ABCとBC:EF=1:2の線分EFを使い相似な三角形をかくことができる。また、それにより三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であるかどうか判断できる。	
第8 ～ 11		⑩証明すべき2つの三角形を見つけ出すことができる。	⑪三角形の相似条件を用いて証明することができる。	
第12 ～ 13時	⑬相似の考えを用いると、直接測定しなくても間接的に距離などを求められることに興味を持ち、縮図を利用しようとする。	⑭直接測ることのできない2地点間の距離や建物の高さを求めるのに、縮図を利用し、相似の考えを適用することができる。		
第14 ～ 18時				⑯平行線と平行線と線分の比の性質を利用して、辺の長さや比を求めることができる。
第19 ～ 21時	21 中点連結定理の発見や利用に意欲的に取り組もうとする。	22 中点連結定理を用いて、図形の性質を考察することができる。		

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

理 科

1年

1. 教科目標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2. 第1分野の目標

- (1) 物質やエネルギーに関する事物・現象に関する関心を高め、その中に問題を見出し意欲的に探求する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。
- (2) 物理的な事物・現象についての(省略)・・・これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (3) 化学的な事物・現象についての観察・実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身の回りの物質、化学変化と原子、分子、物質と化学反応の利用などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (4) 物質やエネルギーに関する事物・現象を調べる活動を通して、日常生活と関連付けて科学的に考える態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。

3. 単元名 中学校理科(大日本図書)

1分野上 2章 物質のすがた 1節 物質の性質

4. 単元目標

身の回りの物質に関心を持ち様々な方法で調べて、実験器具の操作や記録の仕方などの基礎を培うとともに、物質には固有の性質と共通の性質があることを見出し、それらの性質によって物質の分類ができる能力を育てる。

5. 評価目標

- (1) 身にまわりにある物質について関心を持ち、意欲的に観察・実験を行ったり、日常生活の事象と関連づけて考えようとする。 「自然事象への関心・意欲・態度」
【パフォーマンス課題】【実験プリント】
- (2) 物質の性質を調べる方法を結果を予測しながら適切に考え、その結果から物質を分類したり、区別できる。 「科学的な思考」【パフォーマンス課題】
- (3) 物質の性質を調べる観察や実験を行い、基本操作を身に付けたり、実験プリントに結果を記録し、自らの考えを書くことができる。 「観察・実験の技能・表現」
【実技テスト】【実験プリント】
- (4) 基本的な物質の調べ方、物質の密度や金属の性質などについて理解し、知識を身に付けている。 「自然事象についての知識・理解」【ペーパーテスト】

6. 「具体化」「精選化」「構造化」

中学生になって初めての化学実験を行う単元である。これからの実験の基本となる操作が数多く出てくる。その中でもガスバーナーの使い方は、使用時の安全性との関連もあり、確実に正しい使い方を身につける必要があるため、最初にこの操作を身につけることから始める。その後、加熱による変化、金属か非金属かという区別、密度という物質の基本的な性質を順に実験を通して扱っていく。実験の基本操作を身に付けたり、記録の仕方を身につけることがこの単元の目標の一つでもあるので、それぞれの実験目的をはっきりさせて安全に進められるようにしたい。また、密度は目に見えるものではないので、その概念をつくるためには日常生活で鉄は重い、綿は軽いといったイメージと結びつける必要があり、そこで質量とのちがいを認識させなければならない。最終的には未知の物質をどのようにして調べるかという課題に対して、自分が学習したことが使えるようになっていけばよいと考えた。実際の実験操作は行わなくとも、物質にあった方法（この場合は固体の物質）を選び、結果の予測ができるようになっていけばよいとした。このあと、状態変化、水溶液、気体などの学習を行うので、液体や気体の性質、その調べ方、分類、分離方法などより、物質に対する認識をもっと大きい範囲に広げていくことになる。

(1) 「具体化」

	学習内容	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象について の知識・理解
1 分野	1. 身のまわりの ものの性質を調 べよう 【実験1】「白い 粉末の性質を調べ て区別する」	①見かけの似てい る身近な物質を区 別する方法を日常 生活と関連させて 自ら考えて実験を 行う。	②物質の性質のち がいに着目して物 質を区別できる。	③ガスバーナーの 使い方が正しく身 に付けられる。加 熱によって物質を 区別する方法を身 につけている。	④物質の加熱後の 変化によって有機 物と無機物の区別 ができることを言 える。
2 章 物 質 の す が た 1	2. 金属の性質を 調べよう 【実験2】「身近 な物質が金属かど うか調べよう」	⑤金属のもつ性質 に興味を持ち、意 欲的に金属の性質 を調べようとする。	⑥金属に共通の性 質を実験結果から 指摘できる。	⑦ 身近な物質が 金属かどうか調べ られる。	⑧金属の3つの性 質をあげられる。
1 節 物 質 の 性 質	3. 物質を密度で 区別しよう 【実験3】「密度 を求めよう」	⑨密度は物質を区 別する手がかりに なることに関心を 持ち、いろいろな 物質について密度 を求め、区別しよ うとする。	⑩密度を正しく求 め、密度のちが いからいろいろな物 質を区別できる。	⑪物質の密度を 体積や質量を測定 し、計算によって 求められる。	⑫密度は一定の 体積あたりの質量 であることを言え る。密度は物質に 固有の値であるこ とを知っている。

4. 未知の物質を調べよう	⑬未知の物質を自ら考えた実験方法で調べようとする。	⑭未知の物質を調べる適切な方法を考え、結果の予測ができる。	⑮未知の物質を適切な方法で調べ、実験報告書をつくらることができる。	
---------------	---------------------------	-------------------------------	-----------------------------------	--

(2)「精選化」

	学習内容	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象について の知識・理解
分野	1. 身のまわりのものの性質を調べよう 【実験1】「白い粉末の性質を調べて区別する」	①見かけの似ている身近な物質を区別する方法を日常生活と関連させて自ら考えて実験を行う。		③ガスバーナーの使い方が正しく身に付けられる。加熱によって物質を区別する方法を身につけている。	④物質の加熱後の変化によって有機物と無機物の区別ができることを言える。
物質のすがた	2. 金属の性質を調べよう 【実験2】「身近な物質が金属かどうか調べよう」			⑦身近な物質が金属かどうか調べられる。	⑧金属の3つの性質をあげられる。
節	3. 物質を密度で区別しよう 【実験3】「密度を求めよう」			⑪物質の密度を体積や質量を測定し、計算によって求められる。	⑫密度は一定の体積あたりの質量であることを言える。密度は物質に固有の値であることを知っている。
物質の性質	4. 未知の物質を調べるには？	⑬未知の物質を自ら考えた実験方法で調べようとする。	⑭未知の物質を調べる適切な方法を考え、結果の予測ができる。	⑮未知の物質を適切な方法で調べ、実験報告書をつくらることができる。	

(3)「構造化」

単元名	1 分野上 2 章 物質のすがた 1 節 物質の性質			
単元目標	身の回りの物質に関心を持ち様々な方法で調べて、実験器具の操作や記録の仕方などの基礎を培うとともに、物質には固有の性質と共通の性質があることを見出し、それらの性質によって物質の分類ができる能力を育てる。			
観点	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
第1 ～ 3時 第4 ～ 5時	①見かけの似ている身近な物質を区別する方法を日常生活と関連させて自ら考えて実験を行う。		③ガスバーナーの使い方が正しく身に付けられる。	
第6 時			③加熱によって物質を区別する方法を身につけている。また、結果の記録の仕方を身につけられる。	④物質の加熱後の変化によって有機物と無機物の区別ができることを言える。
第7 ～ 8時			⑦身近な物質が金属かどうか調べられる。	⑧金属の3つの性質をあげられる。
第9 時	⑩物質の密度を体積や質量を測定し、計算によって求められる。			
	⑫密度は一定の体積あたりの質量であることを言える。密度は物質に固有の値であることを知っている。			
	⑬⑭⑮見かけでは何かわからない物質を推測するために、どのような観察・実験を行えばよいかを考え、結果を予測して、その実験計画書及び報告書をつくることができる。			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

理 科

1年

1 教科目標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 単元（題材）名

1分野 2章 物質のすがた 3節 水溶液（大日本図書 1分野 上）

3 単元目標（1分野の目標）

- (1) 物質やエネルギーに関する事物・現象に対する関心を高め、その中に問題を見だし意欲的に探求する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。
- (2) 省略
- (3) 化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身の回りの物質、化学変化と原子、分子、物質と化学反応の利用などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (4) 物質やエネルギーに関する事物・現象を調べる活動を通して、日常生活と関連付けて科学的に考える態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。

4 単元指導目標

水溶液では溶質が均一に分散していること、温度による溶質の水への溶けやすさの違いなどを利用して溶質を取り出すことができることを示すことができる。

5 単元の評価目標

- (1) 物質が水に溶ける現象に関心をもち、意欲的に溶けるようすを観察しようとする。
「自然事象への関心・意欲・態度」
評価方法：ワークシート、発表
- (2) 「溶ける」とは、溶質が均一に分散することであると、指摘できる。
「科学的な思考」
評価方法：ワークシート
- (3) 水溶液から溶質をとり出す実験を行い、基本操作や記録の仕方を身につける。
「観察・実験の技能・表現」
評価方法：実験レポート、ペーパーテスト

(4) 水溶液に関する用語・現象について理解できる。

「自然事象についての知識・理解」

評価方法：ワークシート、ペーパーテスト

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

水がいろいろな物質を溶かすことで、環境の浄化が行われている。自然の営みだけでなく、処理設備を整え、人工的にも環境の浄化を行っている。私たちは、自然や設備の能力以上の負担をかけないように意識しなければならない。

学習内容	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象につい ての知識・理解
1・物質が 水に溶ける ようすを調 べよう (水溶液・ 溶媒・ 溶質)	①物質が水に溶ける現象に関心を持ち、進んで観察・実験を行おうとする。	②硫酸銅や砂糖が水に溶ける様子から、物質が水に溶けるしくみが考えられる。	③観察を通して、水溶液は透明で、物質が均一に分散していることが表現できる。	④水溶液中には溶質が均一に分散していることを理解し、知識を身につけている。
2・水に溶 けている物 質を取りだ そう	⑤日常生活の環境の中で、水の役割に目を向けることができる。	⑥物質が水に溶ける量は、温度により限度があることがわかる。	⑦冷却したり水を蒸発させたりして、水溶液中の溶質を取り出すことができる。	⑧溶解度が物質によって異なることを理解している。
(溶解度・ 飽和水溶 液・結晶 再結晶)	⑨ほとんど水に溶けない物質があることに気づく。	⑩溶解度のグラフから、いろいろな場面を読み取ることができる。	⑪ろ過の基本的な操作ができる。	⑫溶解度・飽和水溶液・結晶・再結晶について説明できる。

(2)「精選化」

きまった量の水に溶ける物質の量には限度があることや、水の温度が変わると物質の溶ける量が変化することなどは、小学校で学んでいる。演示実験や写真などから、既習内容や身近な水溶液に目を向けさせ、中学校での単元目標を達成するため、肉眼で見える現象を見えない粒で考えさせていきたい。

学習内容	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象につい ての知識・理解
1・物質が 水に溶ける ようすを調 べよう (水溶液・ 溶媒・ 溶質)	①物質が水に溶け る現象に関心を持 ち、進んで観察・ 実験を行おうとす る。	②硫酸銅や砂糖が 水に溶ける様子か ら、物質が水に溶 けるしくみが考え られる。	③	④
2・水に溶 けている物 質を取りだ そう	⑤	⑥	⑦冷却したり水 を蒸発させたり して、水溶液中 の溶質を取り出 すことができる。	⑧
(溶解度・ 飽和水溶 液・結晶 再結晶)	⑨	⑩	⑪	⑫溶解度・飽和水 溶液・結晶・再 結晶について説明 できる。

(3) 構造化

大きな結晶やきれいな結晶には、生徒は感動する。はじめに、実験や観察をすることで、グラフや数字・計算に対する苦手意識を取り除き、溶解度や水溶液から結晶を取り出すことの理解を深めようとする。

単元名	1分野 2章 物質のすがた 1節 物質の性質			
指導目標	水溶液では溶質が均一に分散していること、温度による溶質の水への溶けやすさの違いなどを利用して溶質を取り出すことができることを示すことができる。			
観点	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象について の知識・理解
第1時	<p>①物質が水に溶ける現象に関心を持ち、進んで観察・実験を行おうとする。</p>		<p>②硫酸銅や砂糖が水に溶ける様子の観察を通して、物質が水に溶けるしくみが考えられる。</p>	
第3時			<p>⑦冷却したり水を蒸発させたりして、溶液中の溶質を取り出ることができる</p>	
			<p>⑩溶解度・飽和水溶液・結晶・再結晶について説明できる。</p>	

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

理 科

2年

1 教科目標

自然に対する関心を高め、目標意識を持って観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 1分野の目標

- (1) 物質やエネルギーに関する事物・現象に対する関心を高め、その中に問題を見出し意欲的に探求する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。
- (2) 物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身近な物理現象、電流とその利用、運動の規則性などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (3) 科学的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身の回りの物質、化学変化と原子、分子、物質と化学反応の利用などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (4) 物質やエネルギーに関する事物・実験を調べる活動を通して、日常生活と関連付けて科学的に考える態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。

3 単元名 (大日本図書 新版中学校理科)

2年 1分野 4章 化学変化と分子・原子 2節 化学変化と物質の質量

4 単元目標

2種類の物質を化合させる実験を通して、反応前とは異なる物質が生成することを見いだすとともに、化学変化での物質の変化を原子・分子のモデルと対応してとらえ、化学反応式で表現することができる。

5 単元の評価目標

(1) 原子・分子のモデルを用いて、化学変化を表そうとする。

[自然事象への関心・意欲・態度]

【評価方法：ワークシート】

(2) 化学変化での物質の変化を、原子・分子のモデルと対応してとらえ、化学反応式で表すことができる。

[科学的な思考]

【評価方法：ワークシート・ペーパーテスト】

(3) 物質を化合して、反応前後の物質の性質の違いを比較することができる。

[観察実験の技能・表現]

【評価方法：実験ワークシート】

(4) 質量保存の法則を説明することができる。

[自然事象についての知識・理解]

【評価方法：ワークシート・ペーパーテスト】

6 「具体化」「精選化」「構造化」
 (1) 「具体化」

学習内容	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
1. 物質が結びつく変化 A 酸素との化合	① 燃焼しているときの化学変化に関心を持ち、スチールウールを燃やしたときの変化を調べようとする。	② 燃焼により、金属が別の物質になったことを質量に変化や他の観察から指摘できる。	③ スチールウールを加熱し、反応前後の物質の性質の違いを比較することができる。	④ スチールウールの燃焼で質量が増加することを、酸素との化合と結びつけて説明できる。
B 硫黄との化合	⑤ 酸化以外の化学変化に関心を持ち、鉄と硫黄の混合物を加熱したときの変化を調べようとする。	⑥ 混合物と加熱後の物質の塩酸や磁石に対する反応の違いによって、反応後、別の物質に変化したことが指摘できる。	⑦ 鉄と硫黄を反応させ、反応前後の物質の性質の違いを比較することができる。	⑧ 化合物と混合物の違いを説明できる。
2. 化学変化の前後の質量	⑨ 化学変化の前後で質量が変化するか調べようとする。	⑩ 化学変化の前後の質量の測定結果から、化学変化の前後で物質全体の質量は変化しないことを推論できる。	⑪ 閉じた容器の中で化学変化を起こし、反応前後の質量を測定することができる。	⑫ 質量保存の法則を説明できる。
3. 化学反応式	⑬ 今までに学習した化学変化を、原子・分子のモデルで表そうとする。	⑭ 化学変化での物質の変化を原子・分子のモデルと対応してとらえ、化学反応式で表すことができる。		⑮ 化学変化を原子や分子のモデルを用い説明できる。また、化学反応式について説明できる。

(2)「精選化」

前単元で分解、この単元で化合、燃焼の化学変化を学習することで、反応前と反応後の物質が異なることが理解できる。そして、化学変化の反応前のすべての物質の質量と、反応後のすべての物質の質量が変わらないこと（質量保存の法則）から、反応前の物質の元素の数と反応後の元素の数が同じであることを導き出し、原子・分子のモデルから化学変化を考え、数の調整を行う。モデルで理解した上で、化学式を使って、化学変化を化学反応式で表すことができるようにしていく。

学習内容	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
1. 物質が結びつく変化 A 酸素との化合	①	②	③ スチールウールを加熱し、反応前後の物質の性質の違いを比較することができる。	④
B 硫黄との化合	⑤	⑥	⑦ 鉄と硫黄を反応させ、反応前後の物質の性質の違いを比較することができる。	⑧
2. 化学変化の前後の質量	⑨	⑩	⑪	⑫ 質量の法則を説明できる。
3. 化学反応式	⑬ 今までに学習した化学変化を、原子・分子のモデルで表そうとする。	⑭ 化学変化での物質の変化を原子・分子のモデルと対応してとらえ、化学反応式で表すことができる。		⑮

(3) 「構造化」

単元名	1分野 4章 化学変化と分子・原子 2節 化学変化と物質の質量			
指導目標	2種類の物質を化合させる実験を通して、反応前とは異なる物質が生成することを見いだすとともに、化学変化での物質の変化を原子・分子のモデルと対応してとらえ、化学反応式で表現することができる。			
観点	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象についての 知識・理解
1時 ～ 4時 5時 ～ 6時 7時 ～ 9時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>③ スチールウールを加熱し、反応前後の物質の性質の違いを比較することができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>⑦ 鉄と硫黄を反応させ、反応前後の物質の性質の違いを比較することができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>⑫ 質量保存の法則を説明できる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>⑬ 今までに学習した化学変化を、原子・分子のモデルで表そうとする。 ⑭ 化学変化での物質の変化を原子・分子のモデルと対応してとらえ、化学反応式で表すことができる。</p> </div>			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

理 科

3年

1 教科目標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2 第2分野の目標

- (1) 生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に対する関心を高め、その中に問題を見だし意欲的に探究する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。
- (2) 生物や生物現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導きだし表現する能力を育てるとともに、植物や動物の生活と種類、生物の細胞と生殖などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (3) 地学的な事象・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導きだし表現する能力を育てるとともに、大地の変化、天気とその変化、地球と宇宙などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。
- (4) 生物とそれを取り巻く自然の事物・現象を調べる活動を行い、自然の調べ方を身に付けるとともに、これらの活動を通して自然環境を保全し、生命を尊重する態度を育て、自然を総合的に見ることができるようにする。

3 単元名

2分野6章 地球と宇宙 2節 四季の星座と季節の変化

4 単元の指導目標

季節によって見える星座が変わることは、地球の公転による相対的な見かけの動きでとらえさせる。また、太陽の南中高度や日の出日の入りの時刻などが季節によって変化することを地球が地軸を傾けて公転していることと結びつけてとらえることができる。

5 評価目標

- (1) 天体の動きや地球の公転によって起こる自然現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとする。 [自然事象への関心・意欲・態度] 【ワークシート】
- (2) 地球の公転による太陽や季節の星座の位置を天球上に書くことができる。また、日周運動と年周運動を組み合わせて星座の見える方向とその時刻を推測し、地球の外に視点を置いた見方で説明できる。 [科学的な思考] 【ペーパーテスト】

(3) 地軸の傾きによって、太陽の南中高度が変化することを作図ができて説明でき、同時に地球の公転と関連づけて季節の違いができることを説明できる。

【技能・表現】 【ワークシート】

(4) 季節による代表的な星座を知り、太陽が天球上を西から東に移動することと関連させて、星のみえ方を知る。

【知識・理解】 【小テスト、ペーパーテスト】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

この単元で扱う内容は天体の年周運動の観察を行い、その観察記録を地球の公転と関連付けてとらえることである。

(1) 「具体化」

	学習内容	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
2 分 野 6 章 地 球 と 宇 宙 2 節 四 季 の 星 座 と 季 節 の 変 化	1. 四季の星座はなぜ移り変わるか 【実習1】 四季の星座の移り変わりを調べる	①四季の星座の変化や太陽の1年間の動きに関心を持ち、太陽が星座間を動く見かけの運動を意欲的に探究しようとする。	②地球の外から見て地球の公転とともに星座や太陽がどのように動いて見えるかを推測して、地球の公転による相対的運動であることを見つけ出す。	③四季の星座の移り変わりを地球儀などをモデルとして昼夜の空間的位置を考慮に入れて結果をまとめたり発表したりする。	④季節による代表的な星座を理解し、知識として身につけている。
	2. 季節の変化はなぜおこるのか 太陽の光のあたり方と地軸のかたむきの関係を調べてみよう	⑤季節によって太陽の南中高度や昼夜の長さ、光の強さが変化することを日常生活と関連させて、その原因を意欲的に見いだそうとする。	⑥季節による昼夜の長さや太陽の南中高度の変化は、地球の公転や地軸の傾きとの関連を見いだす。	⑦地球儀のモデルを使って電球の光がどのようにあたっているか考察し太陽光のあたり方と地球の傾きの関係から規則性を見つけて発表できる。	⑧季節による昼夜の長さや太陽の南中高度の変化は、地球の公転と地球の地軸の傾きが原因であることを理解し、知識を身につけている。

(2) 「精選化」

	学習内容	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
2 分野 6 章 地球と宇宙 2 節 四季の星座と季節の変化	1. 四季の星座はなぜ移り変わるか 【実習1】 四季の星座の移り変わりを調べる		②地球の外から見て地球の公転とともに星座や太陽がどのように動いて見えるかを推測して、地球の公転による相対的運動であることを見つけ出す。		④季節による代表的な星座を理解し、知識として身につけている
	2. 季節の変化はなぜおこるのか 太陽の光のあたり方と地軸のかたむきの関係を調べてみよう		⑥季節による昼夜の長さや太陽の南中高度の変化は、地球の公転や地軸の傾きとの関連を見いだす。		

(3) 「構造化」

単元名	2分野 6章 地球と宇宙 2節 四季の星座と季節の変化			
指導目標	季節によって見える星座が変わることは、地球の公転による相対的な見かの動きでとらえさせる。また、太陽の南中高度や日の出日の入りの時刻などが季節によって変化することを地球が地軸を傾けて公転していることと結びつけてとらえることができる。			
観点	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
第1～3時	<p>②地球の外から見て地球の公転とともに星座や太陽がどのように動いて見えるかを推測して、地球の公転による相対的運動であることを見つけ出す。</p>			<p>④季節による代表的な星座を理解し、知識として身につけている</p>
第4～5時	<p>⑥季節による昼夜の長さや太陽の南中高度の変化は、地球の公転や地軸の傾きとの関連を見いだす。</p>			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

音楽科

2年

1 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

2 学年目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽に興味・関心をもち、幅広く鑑賞する能力を育てる。

3 題材名

1年 詩や旋律からイメージを感じ取ろう ～「魔王」～ (教育芸術社 中学生の音楽 1)

4 題材の指導目標

詩と音楽が一体となった美しさを感じ取る。
音楽劇的な内容や歌唱表現の豊かさを感じ取る。

5 題材の評価目標

- (1) 登場人物の心情や情景に関心をもち、意欲的に鑑賞しようとする。
[音楽への関心・意欲・態度]
【評価方法：観察・ワークシート】
- (2) 登場人物の心情の変化や登場する場面に合わせた歌い方の違いを感じ取ることができる。
[音楽的な感受や表現の工夫]
【評価方法：ワークシート】
- (3) 登場人物の心情の変化や登場する場面に合わせた歌い方の違い、また、伴奏の効果を曲全体から聴き取ることができる。
[鑑賞の能力 ア・イ]
【評価方法：ワークシート】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この題材では、音楽劇的な内容の楽曲での鑑賞を通して、表現要素（速度や強弱など）の働きとそれによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取ることをねらいとしている。感じ取ったイメージは必ずしも作曲者の意図と同じとは限らず、生徒自身によって異なるものだが、音楽はいろいろな味わい方のできる表現があることも感じさせたいと考える。題材の観点は、「音楽への関心・意欲・態度」「音楽的な感受や表現の工夫」「鑑賞の能力」の3つである。しかし、学習内容の中でそれぞれの力を伸ばすためには、各観点が独立したのではなく、3つの観点が互いに結びつくように考えなければいけない。中でも、「音楽への関心・意欲・態度」は、学習活動の基盤であり、学習をすすめていく力となる。この力が、最終的には、教科目標にある「愛好する心情」へとつながっている。以上の点を考えたうえで評価規準表を作成した。

学習内容	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
「魔王」を鑑賞し、 詩や旋律からイメージ を感じ取る。	① 詩の内容に関心をも ち、楽曲を意欲的に鑑賞 しようとしている。	② 詩の内容を想像し、場 面の特徴を感じ取ること ができる。	③ 詩の内容を想像しな がら、場面の特徴を聴 き取り、ワークシート に記入することができる。
	④ 登場人物による声の変 化に関心を持ち、楽曲を 意欲的に鑑賞しようとし ている。	⑤ 登場人物による声の変 化を詩の内容とともに感 じ取ることができる。	⑥ 場面の内容による登 場人物の声の変化を聴 き取り、具体的にワー クシートへ記入するこ とができる。
	⑦ 詩と音楽との結びつき に関心を持ち、意欲的に 鑑賞しようとしている。	⑧ 詩と伴奏を含めた音 楽が一体となっている歌 曲の表現効果を感じ取る ことができる。	⑨ 場面による歌唱表現 の変化と伴奏の効果を 具体的な場面をとらえ て聴き取り、ワークシ ートの記入することが できる。

(2)「精選化」

この題材では、詩の内容が音楽と結びつくことによって生み出される音楽表現の豊かさを感じ取ることが大切である。教材として取り上げる「魔王」は、生徒にとって音楽劇的な内容がとてわかりやすい内容である。登場人物によって旋律の雰囲気や歌い方に違いがあること、場面によって伴奏の形が変化するなど、詩と音楽との結びつきをとらえやすい。そこから歌唱表現の豊かさを感じ取り、音楽にはいろいろな味わい方のできる表現があることを感じさせたい。その点を踏まえながら、③「鑑賞の能力」④「音楽への関心・意欲・態度」⑧「音楽的な感受や表現の工夫」の3つの評価規準を選び出すことにした。

まず、観点「鑑賞の能力」における評価規準は、具体化した評価規準③・⑥・⑨から、③「詩の内容を想像し、場面の特徴を聴き取ることができる。」を選んでいる。これは、詩と音楽との結びつきを感じ取るうえで、まず、詩の内容を生徒が想像し、イメージと音楽を合わせながら聴き取る力が必要だからである。授業の中では、詩の朗読や寸劇的な要素を取り入れながら詩の劇的な内容を十分理解させたうえで鑑賞となる。そうすることで、楽曲への関心を深め、「音楽への関心・意欲・態度」における評価規準④「登場人物による声の変化に関心を持ち、楽曲を意欲的に鑑賞しようとしている。」を関連づけながら進めることができ、より深く感じ取ろうとする態度につながるからである。

また、観点「音楽的な感受や表現の工夫」における評価規準は、⑧「詩と伴奏を含めた音楽が一体となっている歌曲の表現効果を感じ取ることができる。」とした。他の観点でついた力が総合的に見てとれる力であるからだ。詩の内容を十分理解し、場面の特徴を感じ取れていれば、おのずと伴奏が何を表現しようとしているかに関心を持って鑑賞し、伴奏を含めた音楽全体が歌曲の表現効果につながっていると理解できるようになるからである。

学習内容	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
「魔王」を鑑賞し、 詩や旋律からイメージを感じ取る。			③ 詩の内容を想像しながら、場面の特徴を聴き取り、ワークシートに記入することができる。
	④ 登場人物による声の変化に関心をもち、楽曲を意欲的に鑑賞しようとしている。		
		⑧ 詩と伴奏を含めた音楽が一体となっている歌曲の表現効果を感じ取ることができる。	

(3)「構造化」

詩と音楽が一体となった歌曲の美しさを鑑賞することによって、歌唱表現の豊かさを感じ取る力が伸びる。その力がさまざまな音楽の良さを感じ取る力につながり、ひいては自らの表現活動にも結びつく力となることを考えながら進めていきたい。

題材名	「魔王」の詩や旋律からイメージを感じ取ろう。		
指導目標	詩と音楽が一体となった美しさを感じ取る。 音楽劇的な内容や歌唱表現の豊かさを感じ取る。		
観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
第1時	<div data-bbox="1070 1340 1374 1521" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ③ 詩の内容を想像しながら、場面の特徴を聴き取り、ワークシートに記入することができる。 </div>		
第2時			
	<div data-bbox="344 1550 647 1698" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ④ 登場人物による声の変化に関心をもち、楽曲を意欲的に鑑賞しようとしている。 </div>	<div data-bbox="722 1727 1026 1875" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ⑧ 詩と伴奏を含めた音楽が一体となっている歌曲の表現効果を感じ取ることができる。 </div>	

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

音楽科

2年

1 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通じて音楽を愛好する心情を育てると共に、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

2 学年目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- (2) 楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める
- (3) 音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。

3 題材名

日本の伝統音楽に親しもう 「文楽」「歌舞伎」 (3h)

4 題材目標

和楽器の音色の美しさ、奏法の特徴、表現力の豊かさなどに関心をもつことができる。
日本の伝統音楽の魅力を味わい、我が国の音楽に親しむ心情を育てる。

5 題材 の評価目標

- (1) 「歌舞伎」や「文楽」をはじめとする我が国の伝統音楽の特徴におけるそれぞれの楽器の音色や奏法、太夫や謡の独特の発声の仕方に関心を持ち、意欲的に鑑賞することができる。

〔音楽への関心・意欲・態度〕

【評価方法：ワークシート、観察】

- (2) 日本の伝統音楽の声や楽器固有の音色の特徴を感じ取り、奏法や独特のリズムや間を感じ取る
ことができる。

〔音楽的な感受や表現の工夫〕

【評価方法：ワークシート】

- (3) 日本の伝統音楽の声や楽器固有の音色の特徴を理解し、奏法や独特のリズムや間を聴きわける
ことができる。

〔鑑賞の能力 ウ 〕

【評価方法：ワークシート、ペーパーテスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この題材の指導目標は日本の伝統音楽に親しむことである。普段の生活の中であまり耳慣れない音であり鑑賞だけでは親しみにくい分野である。そこで実際に短時間ではあるが日本の楽器に触れ、興味を持つことをねらいとして縮太鼓を使い基本的なリズム打ちを学び、実際に打ち方を体験してやることを前回の授業で導入として行った。その上で今度は本物の演奏や説明を映像で見ることにより日本の伝統音楽の世界に触れていきたい。『第1観点』では様々な和楽器について西洋の音楽にない音の世界に触れることに関心をもち、興味を持って聴けること、『第2観点』では日本の音楽特有の「間」に気づき、それぞれの和楽器の音色や響きの美しさを感じ取れること、『第4観点』では日本の伝統音楽を映像により鑑賞し、声や楽器の特徴を理解し、鑑賞できることを目標に評価規準の具体化を図り設定した。

学習内容	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
CD、映像で和楽器や謡、太夫の声を鑑賞する	①和楽器の音色の美しさ、奏法の特徴、独特の発声法や表現力の豊かさなどに関心をもち意欲的に聴いている。	②日本の伝統音楽の声や和楽器の音色、奏法の特徴を感じ取り具体的に楽器名やその響きの特徴を発表したりワークシートに記述することができる。	③日本の伝統的な音楽の声や和楽器の独特の音色の美しさや特徴を感じ聴くことができワークシートに記述することができる。
「文楽」の音声のみの鑑賞 文楽の鑑賞	④文楽の伴奏音楽の三味線と語りの組み合わせのそれぞれの音色や音楽と人形の動きに興味をもち意欲的に鑑賞することができる。		⑤文楽の音楽や舞台を見ることによって三味線や太夫の声の特徴を人形劇の人形の動きと合わせ感じ取り聞き取ることができ、ワークに記述することができる。
「長唄」の鑑賞 「歌舞伎」の鑑賞	⑥日本の伝統音楽に関わる舞台全体や江戸時代の歴史や文化に関心をもち、日本の伝統音楽に親しむを感じ、意欲的に鑑賞できる。	⑦太夫、三味線、人形の三業一体で表現する様子や長唄と演技とのかかわり、舞台装置や衣装、化粧、独特の間の取り方に気づき、感じたことやその特徴を発表したりワークシートに記入したりすることができる。	⑧日本の伝統音楽の声や楽器固有の音色の特徴を舞台を鑑賞することで理解し、奏法、独特のリズムや間を感じとり、聴き分けたことをワークシートに具体的に記述することができる。

(2) 「精選化」

この題材の学習は幅広くすべてを学ぶことは年齢的にも難しいと思う。最終的には将来、日本の伝統音楽に再び触れる機会が訪れた時にこの学習が生きてくればよいと願う。『歌舞伎』や『文楽』は学習内容が幅広く多いが今回は日本の伝統的な音楽の楽器や太夫の独特の発声、歌舞伎の謡など音の世界に重点を置いた。下表の①②では和楽器の構造や音色、音の響き、太夫や謡の発声法など映像を通じて鑑賞し、音色や響き、間の取り方を感じたこと、下表③においては西洋のリズムにはない日本独特のリズムや「間」奏法、音色感じ取り聴き取ることができワークシートに記述できること、この3つの観点に精選化を図った。

学習内容	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
CD、映像で和楽器や謡、太夫の声を鑑賞する	①和楽器の音色の美しさ、奏法の特徴、独特の発声法や表現力の豊かさなどに関心を持ち意欲的に聴いている。	②日本の伝統音楽の声や和楽器の音色、奏法の特徴を感じ取り具体的に楽器名やその響きの特徴を発表したりワークシートに記述することができる。	
文楽、歌舞伎舞台を鑑賞する			③日本の伝統音楽の声や楽器固有の音色の特徴を舞台を鑑賞することで理解し、奏法、独特のリズムや「間」を感じとり、聴き分けたことをワークシートに具体的に記述することができる。

(3) 「構造化」

歌舞伎に使われる細棹、文楽に使われる太棹の音色の違い、囃子に使われる笛の音色や大鼓、小鼓の響きの違い、間の取り方など映像で鑑賞する。又「義太夫節」をまず音声のみで鑑賞させることによって声や三味線の音色の特徴をより深く感じさせたい。その後舞台を鑑賞することによって太夫独特の発声の仕方などに関心がより深まると考えた。この題材では、日本の伝統音楽の音の部分に重きを置き、響き、リズム、日本の音楽特有のずれや間の取り方を感じたことや気がついたことなどまとめ、ワークシートに記述することができるようにする。この鑑賞を通じて、日本の音楽文化の豊かさや特徴、また自分たちの身近な郷土の音楽に親しもうとする姿勢に発展させたい。

題材名	日本の伝統音楽に親しもう 「文楽」「歌舞伎」		
指導目標	和楽器の音色の美しさ、奏法の特徴、表現力の豊かさなどに関心をもつことができる。 日本の伝統音楽の魅力を味わい、我が国の音楽に親しむ心情を育てる。		
観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	鑑賞の能力
第1時	<p>①和楽器の音色の美しさ、奏法の特徴、独特の発声法や表現力の豊かさなどに関心を持ち意欲的に聴いている。</p>	<p>② 日本の伝統音楽の声や和楽器の音色、奏法の特徴を感じ取り具体的に楽器名やその響きの特徴をワークシートに記述することができる。</p>	
第2時	<p>⑧日本の伝統音楽の声や楽器固有の音色の特徴を舞台を鑑賞することで理解し、奏法、独特のリズムや間を感じとり、聴き分けたことをワークシートに具体的に記述することができる。</p>		
第3時			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

美術科

3年

1. 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的技術を伸ばし、豊かな情操を養う。

2. 第2学年及び第3学年の学年目標

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- (2) 対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。
- (3) 自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術との関わりに関心を持ち、よさや美しさを味わう鑑賞の能力を高める。

3. 題材名

3年 「まごころが伝わる」 美術2・3下 (開隆堂出版)

4. 題材目標

A 表現(絵画)

- ・主題を発想し、スケッチなどを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、構成の仕方、材料の組み合わせなどを工夫し、心豊かな表現の構想を練ることができる。
- ・日本の独特な表現形式や構成、技法などに関心を持ち、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現することができる。

5. 題材の評価目標

- (1) 創造活動に主体的に取り組み、思いを表現して伝える喜びを味わい美術を愛好していこうとする。
[美術への関心・意欲・態度]【評価方法：ワークシート・活動の観察】
- (2) 独創的・総合的なものの見方や考え方をし、豊かな発想をし、単純化や省略、強調構成の仕方などを工夫して表現の構想を練る。
[発想や構想の能力]【評価方法：ワークシート・ペーパーテスト・作品】
- (3) 日本の独特な表現形式や構成、技法などのよさを生かしたり、新たな表現方法を研究したりして創造的な表現の幅を広げる。
[創造の技能]【評価方法：ワークシート・ペーパーテスト・作品】
- (4) 絵手紙や詩画、日本の美術のよさや美しさ、想像力の豊かさなどを味わいものの見方や感じ方を深める。

[鑑賞の能力]【評価方法：ペーパーテスト・活動観察】

6. 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 具体化

この題材の目標は、思いを色や形で伝えるということである。表現する目的を、自分の大切な人へのメッセージであるとするにより、生徒たちが自分の思いを深く見つめ、それを表現するための発想や構想にじっくり取り組むことができる題材である。

こういった題材の特長を生かして、表現方法も色紙に水彩画や水墨画の技法で描く設定にしている。選び抜いた主題を一気に描きあげる必要があるため、構想の段階で十分に練っておかなければならないからである。

学習活動を通して豊かに発想し、自分の思いを見つめ、効果的な表現のための構想を練る活動が中心をしめることになる。これがそれぞれの段階において評価すべきポイントとなる。

学習内容	美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
導入 伝えたい思いを見つめる	①絵と言葉で伝えたい思いを見つける	②贈る相手に応じた絵や言葉の内容を考えることができる。		
展開1 絵手紙・詩画の鑑賞	③絵手紙や詩画の豊かな表現に関心を持つ	④自分の表現に取り入れることができる		⑤他の絵画表現との違いや特徴をつかみ、味わうことができる
展開2 日本画の技法	⑥日本画の表現技法に関心を持つ	⑦自分の作品に取り入れることができる	⑧日本画独特の技法を自分で試み、再現することができる	⑨他の絵画表現との違いや特徴をつかみ、味わうことができる
展開3 アイデアスケッチ	⑩贈る相手への思いを深く見つめて、描くものなどを様々に工夫しようとしている	⑪贈る相手の心に響く主題を考え、空間の生かし方や表現の工夫などを含めて構想を練ることができる	⑫空間のバランスや色彩の効果など、学習したことを生かしてアイデアスケッチを描くことができる	
展開4 運筆練習	⑬水墨画などの描法に関心を持ち、線や色彩の表情を楽しみながら描いてみる可以尝试	⑭運筆の練習から自分の作品に生かせるものを見つけることができる	⑮白描法・鈎勒法・没骨法を試み、線や色彩などを自在に調節できる	⑯水墨画の様々な描法から立体感や明暗などを感じ取ることができる

展開5 制作	⑰これまでに学んだ表現方法などから自分なりの表現を見つけ、丁寧に制作している	⑱様々な表現を試みた上で、自分の作品に最もよい表現を選択し、工夫して表現することができる	⑲配色や空間のバランス、線や彩色の表情を生かして描くことができる	
まとめ 落款・鑑賞 ・振り返り	⑳完成した自分の作品に愛着を持ち、心を込めて贈ることができる			21友達の作品に込めた思いや表現のよさを感じ取ることができる

(2) 精選化

「具体化」でも述べたとおり、この題材において最も中心となるのは、発想・構想の活動である。これは、題材の全体を通して発想する視点を変えたり構想を練り直したりするためのきっかけを多く用意し、自分の思いを深く見つめて表現させたいためである。

従って、それぞれの段階において評価の中心となるのもこれらの活動となる。

表現の主題を発想し、表現方法や構成を練って制作する、と言う一通りの活動の道筋ではない、繰り返しの発想・構想が行われるための評価とする。

学習内容	美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
導入 伝えたい思いを見つめる				
展開1 絵手紙・詩画の鑑賞				
展開2 日本画の技法			⑧日本画独特の技法を自分で試み、再現することができる	⑨他の絵画表現との違いや特徴をつかみ、味わうことができる
展開3 アイデアスケッチ	⑩贈る相手への思いを深く見つめて、描くものなどを様々に工夫しようとしている	⑪贈る相手の心に響く主題を考え、空間の生かし方や表現の工夫などを含めて構想を練ることができる		

展開4 運筆練習				⑩水墨画の様々な描法から立体感や明暗などを感じ取ることができる
展開5 制作	⑪これまでに学んだ表現方法などから自分なりの表現を見つけ、丁寧に制作している	⑫様々な表現を試みた上で、自分の作品に最もよい表現を選択し、工夫して表現することができる	⑬配色や空間のバランス、線や彩色の表情を生かして描くことができる	
まとめ 落款・鑑賞・振り返り	⑭完成した自分の作品に愛着を持ち、心を込めて贈ることができる			

(3) 構造化

この題材では、鑑賞して得たことを発想・構想へ、表現してみても得たことを発想・構想へ生かすというのが主な活動の流れとなる。従って、特に表現の活動においては表現と発想が同時進行、または、相関的に繰り返されることとなり、それによって伝えたい思いを深め、さらに独自の表現へと構想を練るための意欲につながるのである。

題材名	まごころが伝わる			
指導目標	独創的な発想や日本独特の表現方法を生かしながら、心を込めて自分の思いを表現し、伝わる喜びを味わう事で、美術を愛好する心情を深める。			
観点	美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第1～2時			⑧日本画独特の表現を自分で試み再現することができる	⑨他の絵画表現との違いや特徴をつかみ味わうことができる
第3時				
第4～5時	⑩贈る相手への思いを深く見つめて、描くものなどを様々な工夫しようとしている	⑪贈る相手の心に響く主題を考え空間の生かし方や表現の工夫などを含めて構想を練ることができる		

第6 ～ 7 時				⑯水墨画の様々な描法から立体感や明暗などを感じ取ることができる
第8 時	⑰これまでに学んだ表現方法などから自分なりの表現を見つけ、丁寧に制作している	⑱様々な表現を試みた上で、自分の作品に最もよい表現を選択し、工夫して表現することができる	⑲配色や空間のバランス、線や彩色の表情を生かして描くことができる	
第9 時	⑳完成した自分の作品に愛着を持ち、心を込めて贈ることができる			

7. ルーブリック

ここでは、各観点から中心となる以下の評価についてのルーブリックを記載する。

観点1 美術への関心・意欲・態度

⑳完成した自分の作品に愛着を持ち、心を込めて贈ることができる

- A：自分の作品を振り返り、相手に伝えたい思い、主題を選んだ理由、表現の工夫とそれについての的確な自己評価を記述することができる。また、作品を贈ったときの相手の反応や感想から自分の表現についての効果を振り返り、美術表現によるコミュニケーションの楽しさや心を伝える喜びを実感している。
- B：自分の作品について、相手に伝えたい思いと主題を選んだ理由、表現意図に応じた工夫を記述することができる。また、作品を贈ったときの相手の反応や感想から自分の表現についての効果などを振り返ることができる。
- C：自分の作品について、相手に伝えたい思いと主題を選んだ理由を記述することができる。また、作品を贈ったときの相手の反応や感想を記述することができる。
- D：自分の作品について、相手に伝えたい思い、または主題を選んだ理由を記述することができる。

活動の観察による形成的な評価の積み重ねとワークシートの記述による評価を総合する。

観点II 発想・構想の能力

⑩贈る相手の心に響く主題を考え、空間の生かし方や表現の工夫などを含めて構想を練ることができる

- A：いくつかの主題や視点からよいものを選び、アイデアスケッチをしながら空間の演出や省略、強調などを効果的に活用し、独自の工夫を重ねて、印象的な表現の構想を練ることができる。
- B：いくつかの主題や視点からよいものを選び、アイデアスケッチをしながら空間の演出や省略、強調などを試み表現を工夫することができる。
- C：いくつかの主題、または視点などをアイデアスケッチに描いて試み、よくしようと工夫することができる。
- D：相手の好みや自分との関係に応じた主題を選び、アイデアスケッチを描くことができる。

アイデアスケッチとワークシートの評価を基にして、完成作品、活動の観察の評価を加えて判断する。

観点III 創造的な技能

⑨配色や空間のバランス、線や彩色の表情を生かして描くことができる

- A：配色や空間の生かし方のバランスに優れ、作品全体の調子に工夫を凝らしている。また、線の勢いやなめらかさ、にじみやぼかしなどの筆致を効果的に表現に生かすことができる
- B：配色と空間の両方についてバランスに工夫がみられる。また、線の勢いやなめらかさ、にじみやぼかしなどの筆致を効果的に表現に生かすことができる。
- C：配色を工夫し、線の勢いやなめらかさ、またはにじみやぼかしの、どちらかを意図して描くことができる。
- D：配色、または、線の表情を工夫して描くことができる。

完成作品の評価に運筆練習の形成的評価を加えて判断する。

観点IV 鑑賞の能力

⑨他の絵画表現との違いや特徴をつかみ、味わうことができる

- A：日本画の特徴をいくつか上げ、他の絵画表現と比較する中で、日本画の世界観や精神性に考えを深めることができる。
- B：日本画の特徴をいくつか上げ、他の絵画表現と比較することができる。
- C：日本画の特徴をいくつかあげることができる。
- D：日本画の特徴を一つあげることができる。

ワークシート・ペーパーテストの評価による。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

保健体育科

2年

1 教科目標

心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践能力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 体育分野の目標

- (1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。
- (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。
- (3) 運動における競争や共同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守りお互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。

- 3 単元(題材名) : 領域 陸上競技
内容 走り幅跳び
第2学年 男子

4 陸上競技の目標

自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や競技の仕方を工夫し、技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようにする。

5 陸上競技(走り幅跳び)の評価目標

- (1) 走り幅跳びの特性を理解し、楽しさや喜びを味わい、競争や記録への挑戦に対して全力で活動し、意欲的に運動している。
【運動への関心・意欲・態度】
【評価方法: 活動観察、学習カード】
- (2) 自己の能力を理解し、より向上させるために、適切な目標と目標達成のための課題を設定できるとともに、問題解決のための効果的な練習の仕方を工夫することができる。
【運動についての思考・判断】
【評価方法: 活動観察、学習カード】
- (3) 自己の技能に応じた踏切と助走、着地の技術を身につけ、競技したり、記録を高めたりできる。
【運動の技能】
【評価方法: 活動観察、実技テスト】
- (4) 走り幅跳びの特性、技能構造、合理的な練習の仕方を理解するとともに、競技や審判の方法を理解し、知識を身につける。
【運動についての知識・理解】
【評価方法: 知識テスト、学習カード】

6 陸上競技(走り幅跳び)評価規準の具体化

走り幅跳びでは、助走のスピードと踏切が大切であることを理解し活動することによって記録が伸び楽しさや喜びを味わうことができる。また自己の課題の解決に目を向け練習の仕方を工夫する必要がある。そうした学習活動を通して、考える力を身につけ走り幅跳びについて必要な知識を身につけると考え、評価規準を具体的に設定した。

学習内容	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
走り幅跳び	①走り幅跳びの特性を理解し自己の記録や技能の向上を目標に活動し、楽しさを味わうことができる。	②自己の能力に適した目標記録や課題を設定することができる。 ⑥目標記録の向上	③タ、タンのリズムで踏み切ることができる。 ⑦8歩での踏切の加速がスムーズにでき	④走り幅跳びの特性を理解し、走り幅跳びに必要な技術の知識を身につける。 ⑧自己の能力に応じ

⑤仲間と協力しながら練習や競技を行うことができる。 ⑨準備運動など自分の体調に配慮し競技場の安全を確かめ取り組むことができる。	や課題解決に向けて効果的な練習の仕方を考えることができる。	る。 ⑩全助走で足を合わせ踏み切ることができる ⑫両足で着地できる	た課題設定の仕方や練習の仕方が理解できる。 ⑪競技や記録の測定の仕方、ルールや審判の仕方を理解できる。
--	-------------------------------	---	--

7 精選化

学習内容	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
走り幅跳び	①走り幅跳びの特性を理解し自己の記録や技能の向上を目標に活動し、楽しさを味わうことができる。	⑥目標記録の向上や課題解決に向けて効果的な練習の仕方を考えることができる。	③タ、タンのリズムで踏み切ることができる。 ⑦8歩での踏切の加速がスムーズにできる。 ⑩全助走で足を合わせ踏み切ることができる	④走り幅跳びの特性を理解し、走り幅跳びに必要な技術の知識を身につける。 ⑪競技や記録の測定の仕方、ルールや審判の仕方を理解できる。

8 構造化

観点	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
第1時 ～ 第3時 第4時			③④走り幅跳びの特性を理解し、タ、タンのリズムで踏み切ることができる	
～	①⑥⑦⑩8歩での踏切の加速や全助走での踏切をするための効果的な練習の仕方を考え活動することができる。			
第6時 第7時 ～ 第8時				①⑪自己の記録や技能の向上を目標に楽しく競技することができる。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

保健体育科

3年

- 1 教科目標：「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」
- 2 体育分野の目標：
 - 1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。
 - 2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。
 - 3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。

- 3 単元(題材)名 3年生 男子 「 武 道 」 領域 「 柔 道 」
(ワンダフルスポーツ：新学社)

4 「柔道」の目標

柔道を通して自分の能力に適した技を習得するために適切な目標を設定し、その達成に向けた課題を見つけてそれを自分の問題とし、その問題解決にあたる練習の仕方や試合の仕方を工夫することができる態度を育てる。

本質的な問い：柔道をさらに楽しむにはどうしたらいいか。

永続的な理解：柔道をさらに楽しむには、次のことができるとよい。

- ①礼儀作法が正しくできて、相手を尊重する態度をとることができる。
- ②相手に対して禁じ技を用いないなど安全に心がけて試合や練習ができたり、活動場所(設備・用具)の安全に気をつけることができる。
- ③柔道の技能向上のため自分にあった目標を設定し、その達成に向けた活動ができる。
- ④仲間とともに協力して活動する。

「武道(柔道)」の評価目標

- (1) 自ら柔道をさらに楽しもうとし、技能向上のために工夫と努力をしようとする。
【運動への関心・意欲・態度】
【評価方法：パフォーマンス課題】…ルーブリック参照
- (2) 学習カードに、実現可能な目標と、その達成に向けて次時の学習活動での具体的課題を設定できる。
【運動についての思考・判断】
【評価方法：学習カード】
- (3) 柔道の特性に応じた技能を身につけ、連絡変化や連続技を意識し、練習や試合ができる
【運動の技能】
【評価方法：パフォーマンス課題】…ルーブリック参照
- (4) 自分や相手の課題にあった練習や試合の仕方、練習計画のたて方を知っている。
【運動についての知識・理解】
【評価方法：ペーパーテスト】

4 目標・内容分析

(1) 具体化

「柔道」を通して、第3学年の「運動への関心・意欲・態度」の評価規準として、自ら柔道をさらに楽しもうとし、技能向上のためにおこなう工夫と努力をみるために①⑥⑧を設定した。

「運動についての思考・判断」では、自己の技能を把握して、数時間後の自分の姿を想定した目標を設定する。そして、その実現に向けて毎時間、次時の課題を具体的に設定できる力をつけるために②を、学習活動での練習の工夫する力を見るために⑦の評価規準を設定した。「運動の技能」では、新たな技能習得のために集中して全力を出し切ることができるということで③を、連絡変化や連続技を意識して、試合や練習ができる。ということで⑤を設定した。「運動についての知識・理解」では、柔道の特性が理解できたかをみるため、④⑨を設定した。

「武道(柔道)」の評価規準の具体例

学習項目	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
柔道 礼儀作法 固め技 投げ技	①自ら柔道をさらに楽しもうとし、技能向上のために、自分にあった連絡変化や連続技の習得に、工夫と努力をして運動に取り組もうとする。 ⑥礼儀作法や学習の約束(準備・準備運動・後片づけ・整理運動・マナー等)を守り、自分たちで協力しながら教え合ったり、練習しようとする。 ⑧事故防止に対し、用具の安全を確かめたり、自分の行動に気を配ろうとする。	②学習カードに、実現可能な目標を設定することができ、その達成に向けて、次の学習活動の具体的な課題が設定できる。 ⑦自己の技能の把握ができ、学習活動で「かかり練習」「約束練習」を効果的に使うことができる。	③新しく取り組む技に集中して全力でできる。 ⑤連絡変化や連続技を意識し、練習や試合ができる。	④自分や相手の課題を知り、連絡変化や連続技の練習計画のたて方や体重差のある試合のハンドルの設定の仕方などを知っている。 ⑨柔道の礼儀作法、審判の方法、試合の進め方を知っている。

(2) 精選化

評価規準の具体例で、運動への関心・意欲・態度に上がった3項目いずれも大事であるが3年では特に①を重点的にみる。この項目を直接評価するのではなく、他の3つの観点の項目の評価を通して評価する。②④⑤は、①につなげるための評価規準として選んだ。

「武道(柔道)」の評価規準の精選化

学習項目	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
柔道 礼儀作法 固め技 投げ技	①自ら柔道をさらに楽しもうとし、技能向上のために、自分にあった連絡変化や連続技の習得に、工夫と努力をして運動に取り組もうとする。	②学習カードに、実現可能な目標を設定することができ、その達成に向けて、次の学習活動の具体的な課題が設定できる。	⑤連絡変化や連続技を意識し、練習や試合ができる。	④自分や相手の課題を知り、連絡変化や連続技の練習計画のたて方や体重差のある試合のハンドルの設定の仕方などを知っている。

4. 構造化

単元予定12時間の中を、「はじめ」1～3時間と「なか」4～10時間と「まとめ」の11～12時間目というように分け、各段階での学習のポイントをあげると以下ようになる。なお、運動への関心・意欲・態度の項目は、運動についての思考・判断や運動の技能や運動についての知識・理解の項目を通して最終的に総括評価する。

単元の目標		柔道を通して自分の能力に適した技を習得するために適切な目標を設定し、その達成に向けた課題を見つけてそれを自分の問題とし、その問題解決にあたる練習の仕方や試合の仕方を工夫することができる態度を育てる。			
観点 時間	運動への 関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解	
	1 3 4 5 10 11 12	①自ら柔道をさらに楽しもうとし、自分の技能向上のために、工夫と努力をして運動に取り組もうとする。 ②学習カードに、実現可能な目標を設定することができ、その達成に向けて、次の学習活動の具体的な課題が設定できる。		⑤連絡変化や連続技を意識し、練習や試合ができる。	④自分や相手の課題にあった練習や試合の仕方、練習計画のたて方を知っている。

ルーブリック

	<p>①自ら柔道をさらに楽しもうとし、自分の技能向上のために、工夫と努力をして運動に取り組もうとする。</p> <p>②学習カードに、実現可能な目標を設定することができ、その達成に向けて、次の学習活動の具体的な課題が設定できる。</p>
A	常に礼儀作法を意識して相手を尊重することができ、活動場所や仲間の安全に十分注意を払いながら、すすんで仲間と協力しあえて練習や試合ができる。さらに、自分や仲間の技能向上をめざした工夫・努力・声かけなどの活動ができる。
B	礼儀作法を意識して相手を尊重することができ、活動場所や仲間の安全に注意を払いながら、仲間と協力しあえて練習や試合ができる。さらに、自分や仲間の技能向上をめざした工夫・努力などの活動ができる。
C	礼儀作法を意識して相手を尊重することが不十分であったり、活動場所や仲間の安全に注意を払うことが不十分である。自分や仲間の技能向上をめざした工夫・努力などの活動が不十分である。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

保健体育科

3年

1 教科目標

「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」

2 体育分野の目標

(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。

(2) 各種の運動を適切に行なうことによって、自己の体の変化に気づき体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。

(3) 運動における競争や共同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動を刷ることができる態度を育てる。

3 単元(題材)名

3年生 女子 「球技」領域 「バスケットボール」 (ワンダフルスポーツ 新学社)

4 「バスケットボール」の目標

(1) バスケットボールの特性を理解し、楽しさや喜びを味わいながら自分の技能を生かすことができるようにする。

(2) チームの一員として自分の役割を果たしているか意識させ、チームの課題や自分の技能の課題の設定ができるようにする。

(3) 設定した問題解決のために効果的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫し、チームに適した作戦が立てられるようにする。

「球技(バスケットボール)」の評価目標

(1) バスケットボールに関心をもち、楽しさや喜びを味わい、チームにおける自分の役割を果たし、互いに協力して練習やゲームをしようとする。

【運動への関心・意欲・態度】

【評価方法】：個人カード・グループノート

(2) チームの課題や自分の技能の課題の設定ができるとともに、問題解決のために効果的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫し、チームに適した作戦を立てられる。

【運動についての思考・判断】

【評価方法】：個人カード・ペーパーテスト

(3) バasketボールの特性に応じた個人や集団の技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。

【運動の技能】

【評価方法】：パフォーマンステスト

(4) Basketballの特性や学び方、技術の構造、合理的な練習の仕方を理解するとともに、競技や審判の方法を理解し、知識を身につける。

【運動についての知識・理解】

【評価方法】：個人カード・ペーパーテスト

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1)「具体化」

Basketballは大きく分けて、Ⅰ技能の習得（個人的な技能、集団的な技能）。Ⅱゲームの作戦（相手チームに対応した攻防）。Ⅲ競技の運営と審判の方法。の三つの柱に重点を置いて活動している。Basketballの特性を理解し、楽しさや喜びを味わいながら自分の技能を生かしているか、チームの一員として自分の役割を果たしているか、を意識させ、チームの課題や自分の技能の課題の設定ができるとともに、問題解決のために効果的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫し、チームに適した作戦を立てられるようにしたい。これらの学習活動を通して、Basketballに必要な知識と技能を身につけるだけでなく、考える力・仲間との協力を目標に入れ、個人での技能や思考と集団での技能や思考とに分け、評価規準表を作成した。

学習項目	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
Basketball	①ルールや作戦に応じて勝敗を競い合う、楽しさや喜びを味わおうとする。	②今持っている自分（自分のチーム）や相手（相手のチーム）の技能の程度などを的確に把握し、それに応じた作戦を立てている。	③今持っている技能を発揮してゲームを行うことができる。	④特性や学習の進め方、集団的な技術や個人的な技術の構造、合理的な練習の仕方、練習の立て方を知っている。
	⑤チームにおける自己の役割を自覚して責任を果たしたり教え会ったりして互いに協力しながら進んで練習やゲームをしようとする。	⑥ゲームを通してチームや自分の課題を明らかにし、その課題の解決の仕方を工夫している。	⑦チームや自分の能力に適した課題の練習やゲームを通して集団的スキルや個人スキルを高めることができる。	⑧個々の技能をいかしたチームの作り方を理解することができる。
	⑨ルールを守り、審判の判定や指示に従い、勝敗の結果を受け入れようとする。	⑩ゲームの結果から、チームや自分の新たな課題を明らかにし、技能の向上に伴う新たな練習の仕方を工夫したり、作戦を立てたりする。	⑪相手チームに対応した作戦でゲームができる。	⑫競技の運営やルール、審判の方法を知っている。

⑬施設・設備の安全や用具の管理をする、危険なプレーをしないで練習やゲームをするなど、健康・安全に留意しようとする。			
---	--	--	--

(2)「精選化」

今回は第3学年ということでⅡに対して意識をさせ、ゲームの中で出てきた個人としての課題、チームとしての課題について分析し、改善点を把握し、解決に向けて効果的な練習の仕方や作戦を立て、チームとして個々が適切なポジションで、役割が発揮できる工夫ができているか、相手に合わせた作戦が立てられたか、に重点を置き取り組ませたいので⑤⑩⑪を選出している。Ⅱを充実させるためには、Ⅰが大切であることにも気付かせたいと考え③を選出。また、ゲームを通して、教え合い、励まし合いながら活動する大切さを理解し、審判の仕方を身につけ、ゲームを公正・正確に進行できる力も必要と考え⑨⑫を選出した。

学習項目	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
バスケットボール			③今持っている技能を発揮してゲームを行うことができる。	
		⑥ゲームを通してチームや自分の課題を明らかにし、その課題の解決の仕方を工夫している。		
	⑨ルールを守り、審判の判定や指示に従い、勝敗の結果を受け入れようとする。	⑩ゲームの結果から、チームや自分の新たな課題を明らかにし、技能の向上に伴う新たな練習の仕方を工夫したり、作戦を立てたりする。	⑪相手チームに対応した作戦でゲームができる。	⑫競技の運営やルール、審判の方法を知っている。

(3)「構造化」

第3学年での目標がⅡゲームの作戦（相手チームに対応した攻防）なので、個人技能よりも集団としての技能・作戦に重点を置いた流れになる。チーム作り、役割、集団としての技能の活動を通して見えてきた課題について〈話し合い→実践→反省〉取り組ませるとともに、基本的技能の大切さも再認識させ、取り組ませたい。

単元名	3年生 女子 「球技」領域 「バスケットボール」			
指導目標	<p>(1) バスケットボールの特性を理解し、楽しさや喜びを味わいながら自分の技能を生かすことができるようにする。</p> <p>(2) チームの一員として自分の役割を果たしているか意識させ、チームの課題や自分の技能の課題の設定ができるようにする。</p> <p>(3) 設定した問題解決のために効果的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫し、チームに適した作戦が立てられるようにする。</p>			
観点	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
① ↓ ④	<p>③今持っている技能を発揮してゲームを行うことができる。</p> <p>⑥ゲームを通してチームや自分の課題を明らかにし、その課題の解決の仕方を工夫している。</p>			
⑤ ↓ ⑧	<p>⑩ゲームの結果から、チームや自分の新たな課題を明らかにし、技能の向上に伴う新たな練習の仕方を工夫したり、作戦を立てたりする。</p> <p>⑪相手チームに対応した作戦でゲームができる。</p>			
⑨ ↓ ⑫	<p>⑨ルールを守り、審判の判定や指示に従い、勝敗の結果を受け入れようとする。</p> <p>⑫競技の運営やルール、審判の方法を知っている。</p>			

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

技術・家庭科

2年

1 教科目標

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

技術分野の目標

実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。

2 単元（題材）名

2年〔「A 技術とものづくり」 「(4) 機器のしくみと保守点検 ア」〕

東京書籍 新しい技術・家庭 技術分野

3 単元（題材）目標

生活や産業の中で技術が果たしている役割や工具・工作機械の使用方法及びエネルギーの変換、作物の栽培などの実践的・体験的な学習活動を通して、習得した知識と技術を生活に生かす態度と能力を育成する。

4 単元（題材）の評価目標

- (1) 製作に使用する機器の仕組みに関心を持ち、目的や条件に応じて、機器を適切に活用しようとしている。

〔生活や技術への関心・意欲・態度〕

【評価方法： 授業中の発表・学習プリント】

- (2) 製作する際に、機器の使い方を工夫している。

〔生活を工夫し創造する能力〕

【評価方法： 授業中の発表・学習プリント】

- (3) 機器の保守と事故防止ができる。

〔生活の技能〕

【評価方法： 机間巡視及び作品】

- (4) 基礎的な機器の仕組みや、保守及び、事故防止に関する知識を身に付け、機器の用途や性能と仕組みとの関係を理解している。

〔生活や技術についての知識・理解〕

【評価方法： 学習プリント・ペーパーテスト】

5. 「具体化」「精選化」「構造化」

(1)〔具体化〕

我々の生活の中で欠かせないエネルギーの一つに、電気エネルギーがある。現代社会に置いて、様々な場面で電気エネルギーを利用している。今夏の、クレーン船による首都圏の大停電を見ても解るように、電気がストップすると、交通機関や通信機器などに、大きな影響を及ぼしている。

本単元（題材）の「技術とものづくり」では、生活の中での電気機器を中心に、その仕組みや利用の仕方、また、安全に利用するために知っておかなければならないことなどに焦点を当てて学習する。また、知ることによって、電気機器を安全に、便利に利用することにより、生活をより豊かになることに気づかせ、限りある資源を大切に扱うことも理解させたい。よって評価規準を具体的に設定する。

学習内容	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
「A 技術とものづくり（４）」 「機器のしくみ と保守点検」	①機器を使って、 正確なものづくりを安全に行う ために、機器の しくみを知ろう としている。			②電気回路は、電源、 導線、負荷、の部分 でできていることが わかり、説明できる。
	③製作に使用する 機器について調 べようとしている。		④図記号を使って、 回路図を正確にか くことができる。	⑤実体配線図を見て、 図記号がかける。
				⑥定格電流、定格電 圧、許容電流につ いて理解し、説明す ることができる。
	⑦機器のしくみを 生かし適切に活 用するととも に、保守や事故 防止に努めよう としている。		⑧回路の安全装置と して接地やヒュー ズなどの簡単な部 品交換ができる。	⑨製作に使用する機 器の保守と事故防 止に関する知識を 身に付けている。

(2)〔精選化〕

技術分野で電気を学習する最大の目標は、いかに電気を安全に利用するかである。わたしたちの生活の中に、あまりにも身近にありすぎて、電気のありがたみを忘れがちである。しかし、一旦停電となると、大混乱を起こし、生活に支障をきたすことになる。また、取り扱いを間違えると大事故にもつながることも覚えておかなければならない。よって、電気を安全に利用するには、そのしくみと正しい取り扱い方を知る必要がある。よって、次のように評価規準の精選化を計った。

学習内容	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
「A 技術とものづくり(4)」 「機器のしくみと保守点検」	① 機器を使って、正確なものづくりを安全に行うために、機器のしくみを知ろうとしている。			② 電気回路は、電源、導線、負荷、の部分でできていることがわかり、説明できる。
			④ 図記号を使って、回路図を正確にかくことができる。	
				⑥ 定格電流、定格電圧、許容電流について理解し、説明することができる。
	⑦ 機器のしくみを生かし適切に活用するとともに、保守や事故防止に努めようとしている。			

〔構造化〕

電気機器を学習するために、まずしくみを知らなければならない。そのために①、②の部分进行学习。そしてそのしくみを理解するために、図記号を使って回路図を表すことを知り、④を完成させ、電流の流れを理解すると共に⑥の定格を理解する。その後⑦へ進み、最大の目標である、電気を安全に利用する知識を身に付ける。

単元名	「A 技術とものづくり(4)」「機器のしくみと保守点検」			
指導目標	生活や産業の中で技術が果たしている役割や工具・工作機械の使用方法及びエネルギーの変換、作物の栽培などの実践的・体験的な学習活動を通して、習得した知識と技術を生活に生かす態度と能力を育成する。			
観点	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
1 時 3 時 第 4 時 6 時	①機器を使って、 正確なものづくりを安全に行うために、 機器のしくみを知ろうとしている。		④図記号を使って、 回路図を正確にかくことができる。	②電気回路は、電源、 導線、負荷、の部分でできていることが わかり、説明できる。 ⑥定格電流、定格電圧、 許容電流について理解し、説明 することができる。
	⑦機器のしくみを生かし適切に 活用するとともに、保守や事故防止に 努めようとしている。			

6 ループリック

- 1 機器のしくみについて、特徴を考えることができる。
- 2 機器のしくみについて、特徴を考え、説明することができる。
- 3 機器のしくみについて、特徴を理解し、また、図記号で回路図を表すことができる。
- 4 機器のしくみや安全な使い方を理解し、回路図で表すことができ、保守、安全について説明できる。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

技術・家庭科

3年

1 教科目標

生活に必要な知識や技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、すすんで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

2 家庭分野目標

実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

3 題材名

3年 社会・家族と幼児のかかわり ～幼児と遊ぼう～
(B (1) (2) ア イ *一部 (3) ア イ との関連を図る
東京書籍 新しい技術・家庭 家庭分野

4 題材の目標

自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて考える。

幼児の遊び道具の製作を通して、幼児の遊びの意義について考える。

幼児の心身の発達の特徴について知り、子どもの育つ環境としての家族の役割について考える。

5 題材の 評価目標

(1) 幼児の遊びや遊び道具、遊びと発達の関わりについて考えようとしている。

幼児の成長を支える家族の役割について考えようとしている。

〔生活や技術への関心・意欲・態度〕

【評価方法： 幼児の遊び発表会 保育だより】

(2) 自分が作ったおもちゃや絵本をつかって幼児の心身の発達につながる遊びを工夫し、創造できる。

〔生活を工夫し創造する 能力〕

【評価方法： 幼児の遊び発表会 企画書】

(3) 幼児の遊び道具の製作が出来る。

〔生活の技能〕

【評価方法： 幼児の遊び発表会 作品】

(4) 幼児の心身の発達の特徴を理解するとともに、幼児の遊びと発達の関わりがわかる。

〔生活や技術に関する知識・理解〕

【評価方法： 企画書 保育だより ペーパーテスト】

6 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 具体化

内容「B家族と家庭生活」B(1)・(2)「幼児の発達と家族」において、まず自分の幼い頃を思い出し自分の成長と家族・家庭生活の関わりについて振り返ることで保育への関心を引き出し、自分の成長は、家族や周りの人々に支えられていたことを理解させたい。次に自分で幼児の発達を助けるおもちゃ、紙芝居や絵本を製作し、保育士になったつもりで幼児の遊びを企画したり、幼児になりきって遊んだりする実践的な学習活動を取り入れた。その体験を通して、幼児にとっての遊びが幼児の心身の発達を助けるものであることに気づかせたい。その学習のまとめとして保育だよりを書かせることで、幼児が育つ環境としての家族・家庭生活の役割についてより深く考えさせたい。そのことがこの題材の最終の目標であると考えている。保育だよりの作成では、この時期に適切で十分遊びを体験できる環境が重要であることに気づき、そのために自分が出来ることを考えられるようにB(3)とも関連を図って指導したい。

学習内容	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり	①自分の成長と家族の関わりについてエピソードがいえる。			②自分の成長は、家族や周りの人々に支えられていたことを理解する。
幼児の発達と遊び	③幼児の遊びと発達の関わりについて考えようとしている。		④幼児の心身の発達に役立つおもちゃや絵本などを作ることができる。	⑤幼児にとっての遊びの意義について考える
幼児の遊ばせ方を考えよう。保育士を体験してみよう。	⑥自分が作ってきたおもちゃや絵本・紙芝居でできる遊びの発表に楽しく取り組んでいる。遊びが幼児の発達を助けるものであることに気付く。	⑦自分が作ったおもちゃや絵本・紙芝居をつかって幼児の心身の発達につながる遊びを工夫し、創造できる。	⑧幼児を楽しく遊ばせることができる。	⑨ 幼児の遊びと発達の関わりについて考える。
保育便りを書こう。	⑩ 幼児の遊びが幼児の発達を助けるものであることに気づき、幼児がのびのびと育つように、遊び場の確保など幼児を取り巻く環境をよりよくしようと考えている	⑪幼児が育つ環境としての家族・家庭生活のあり方を工夫し、自分の考えをまとめている。		⑫幼児の遊びが心身の発達を助けることを理解し、幼児の成長を支えるために家族や周りの人々が愛情深く見守り信頼関係を作ることが大切であることがわかる。

(2) 精選化

まず自分の成長が家族・家庭生活に、支えられてきたことを理解することが基礎となると考え②を選んだ。生徒が保育士体験の授業から、気付くことは多いと思えるが、幼児の発達を支える家族や周りの人々の役割についての考えを深めていくことが題材の最終の目標であるので、それに沿って評価基準の精選を計った。最終の目標につなげるために、小子化で地域の縦割り集団がなくなったり、ゲームなどの一人遊びで育つなどの理由で、自分自身の遊び体験が少ないために幼児の遊びについての理解が乏しい現代の生徒に見につけさせたい力として⑦⑧を選んだ。

学習内容	生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
自分の幼い頃 を思い出そう。	①			②自分の成長は、家 族や周りの人々に支 えられてきたことを 理解する。
幼児の発達 と遊び			④	⑤
幼児の遊ば せ方を考え よう。 保育士を体 験してみよ う。 保育便りを 書こう。	⑥。	⑦自分が作ったおも ちゃや絵本をつかっ て幼児の心身の発達 につながる遊びを工 夫し、創造できる。	⑧ 幼児を楽しく遊 ばせることができ る。	⑨
	⑩幼児の遊びが幼児 の発達を助けるもの であることに気付き、 また幼児がのびのび と育つように、遊び 場の確保など幼児を 取り巻く環境をより よくしようと考 えている	⑪ 幼児が育つ環境 としての家族・家庭 生活のあり方を工夫 し、自分の考えをま とめている。		⑫

(3) 構造化

幼児の発達を支える幼児が育つ環境としての家族や家庭生活の役割について考え、幼児が育つ環境をよりよくしていこうと考えるようになることがこの題材の最終の目標である。その目標達成のために、まず自分の成長が家族や周りの人々に支えられてきたことを理解させる。次に保育士体験の実践的な学習を通して、遊びを工夫して創造できる力や、幼児を楽しく遊ばせる技能を身につけさせる。

題材名	社会・家族と幼児のかかわり ～幼児と遊ぼう～			
題材の目標	自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて考える。 幼児の遊び道具の製作を通して、幼児の遊びの意義について考える。 幼児の心身の発達の特徴について知り、子どもの育つ環境としての家族の役割について考える。			
学習内容	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
自分の幼い頃を 思い出そう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自分の成長が家族や周りの人々に支えられてきたことを理解する。 (知識・理解) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自分が作ったおもちゃや絵本・紙芝居を使って幼児の心身の発達につながる遊びを工夫し、幼児を楽しく遊ばせることができる。(工夫・創造、技能) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 遊びが幼児の発達を助けるものであることに気づき、幼児が育つ環境としての家族・家庭生活を工夫して、よりよくしようと考えている。(関心・意欲・態度、工夫・創造) </div>			
幼児の発達と遊び 幼児の遊ばせ方を考えよう。保育士を体験してみよう。				
保育便りを書こう。				

ルーブリック

		家族・家庭生活の役割	幼児との関わり	遊びと発達についての気づき
A	5	幼児が育つ環境としての家族・家庭生活の役割について具体的にまとめている。自分が社会の一員として出来ることを考え具体的に書いている。	保育士体験に楽しく積極的に参加し、幼児の目線にたって自分の話し方や視線を十分に工夫して、幼児とかかわろうとしている。	をわかりやすく例を多くあげて自分の言葉で表現できている。年齢に応じた遊び方を説明できている。
	4	幼児が育つ環境としての家族・家庭生活の役割について具体的にまとめている。	保育士体験に楽しく参加し、幼児の目線にたって自分の話し方や視線を工夫して、幼児とかかわろうとしている。	遊びが幼児の発達を助けるものであることを例をあげてわかりやす自分の言葉で表現できている。
B	3	幼児と家族・家庭生活の役割についてまとめている。	保育士体験に楽しく参加できている。	遊びが幼児を発達させることが書けている。
C	2	幼児と家族・家庭生活の役割についてまとめられていない。	保育士体験への参加が消極的である。	遊びについての説明が十分にできていない。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英 語 科

1年

1. 教科目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

2. 単元名

1年 Unit 3 Lesson 6 楽しいキャンプ (教育出版)

3. 単元目標

助動詞 (can) を理解し、疑問文や否定文を含めて、話したり、書いたりできる。

アウトドアを話題の中心にして、日頃の日常生活のなかから、それを話することができる。

4. 単元 (題材) の評価目標

(1) 助動詞(can)を理解した上でアウトドアを中心に自分ができることを紹介できる。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

[評価方法：観察・発表]

(2) 自分たちができる行動(動作)を学習した can を使って書いたり、話したりできる。

[表現の能力]

[評価方法：ノート・作品提出]

(3) アウトドア(野外レクリエーション)について話したり、書いたりして内容を理解できる。

[理解の能力]

[評価方法：観察・聞き取りテスト]

(4) can (助動詞) の文を習得する。

[言語や文化についての知識・理解]

[評価方法：定期テスト]

5. 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 具体化

1つ助動詞 (can) を使った表現を理解し、疑問文や否定文を含めてそれを使えるようになる。言うまでもなく、一般動詞の現在形(3人称単数形を含む)ならびに過去形を理解していることが前提である。もう1つは現在、世間でもブームとなっているアウトドア (野外リクリレーション) についての話題がこの単元で取り上げられており、セカンドターム初期に生徒各自に夏休みの思い出をテーマに過去形の英文を使って表現させたところ、極めて多人数の生徒のご家族がアウトドアを楽しんでおられることがわかった。この話題は生徒たちに興味・関心をもたせやすく、can を使った文の習得にも好影響をもたらすと思われる。この話題をもとに助動詞(can)を「話す」「書く」の2本柱で習得させたい。

学習内容	コミュニケーション への 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
助動詞 (can)	1.アウトドア (野外リクリレーション) を話題にした英文を積極的に聞こうとしている。		2.アウトドア (野外リクリレーション) を話題にした英文をきいておおよそ理解できる。	3.助動詞 (can) を使った英文をいくつか理解した上で、その話の内容がだいたい聞き取れる。
	4.アウトドア (野外リクリレーション) を話題に自分自身の表現で間違いをおそれずに積極的に述べようとしている。	5.アウトドア (野外リクリレーション) を話題にして話を英語で述べることができる。		6.助動詞(can)を使った英文を理解して、簡単な文を用いていくつか話すことができる。
	7.アウトドア (野外リクリレーション) を話題にした英文を読みとろうとしている。	8.アウトドア (野外リクリレーション) を話題にした英文の内容を理解して、正しい発音やイントネーションで読むことができる。	9.アウトドア (野外リクリレーション) を話題にした英文の内容をおおよそ読み取れる。	10.助動詞 (can) を使った英文の内容を理解しながら読むことができる。
	11.アウトドア (野外リクリレーション) を話題に英文を積極的に書こうとしている。	12.自分たちが日常することができている内容について、かの英文を書くことができる。		13.助動詞(can)を使った英文で自分たちが日常できる事柄について、いくつかを書いてまとめる知識がある。

(2)「精選化」

(1)の具体化でもふれたようにこの Unit のポイントは助動詞 (can) の文構造を習得すると同時に、アウトドア (野外リクリレーション) を中心に日常生活の話題に触れ、親しみ、自然を愛する心を養うことだと考える。

まず、助動詞(can)を習得するという点で Unit 1 Lesson 3 で取り組んだ一般動詞の現在形、Unit 2 Lesson 5 一般動詞の現在形 (3人称単数)、Unit 4 Lesson 8, Lesson 9 一般動詞の過去形の構造を簡単に復習し、その後、助動詞に挑戦する。この項目は be 動詞や一般動詞の違いに比べて文構造が容易に理解しやすいため和やかな雰囲気を進めていきたい。

さらに、その内容をふまえて、最初にアウトドア (野外リクリレーション) について簡単に英語を使って触れたいが、生徒自身にも発表の場をもたせたいので 5、その原稿に必要な 12, 13を、さらには教科書の内容を理解し、読み取っていくための 9 は最低限必要と判断した。

学習内容	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
助動詞 (can)		5.アウトドア (野外リクリレーション) を話題にして話を英語で述べることができる。		
			9.アウトドア (野外リクリレーション) を話題にした英文の内容をおおよそ読み取れる。	
		12.自分たちが日常することができる内容について、かの英文を書くことができる。		13.助動詞(can)を使った英文で自分たちが日常できる事柄について、いくつかを書いてまとめる知識がある。

(3) 構造化

今 現在ブームになっているアウトドア（野外リクリレーション）の話題を盛り込み、自然に親しみ、自然をあいする心をそだてながら、助動詞(can)の文構造を学んでいくという過程のもとに進めていきたい。また、まとめとしてノート・作品提出や定期テストにより自分自身の表現ができることによって、生徒各自の理解度を観察していきたい。

単元名	Unit 3 Lesson 6 楽しいキャンプ			
指導目標	助動詞 (can) を理解し、疑問文や否定文を含めて、話したり、書いたりできる。 アウトドアを話題の中心にして、日ごろの日常生活のなかから、それを話すことができる。			
観点	コミュニケーション への関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化について知識・理解
第1時 ～ 第5時	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">9. アウトドア（野外リクリレーション）を話題にした英文の内容をおおよそ読み取れる。</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> 12. 自分たちが日常することができる内容について、いくつかの英文を書くことができる。 (書く) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> 13. 助動詞(can)を使った英文で自分たちが日常できる事柄について、いくつかを書いてまとめる知識がある。 (知識) </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> 5. アウトドア（野外リクリレーション）を話題にして話を英語で述べる ことができる。 (話す) </div> </div> </div>			
第6時 ～ 第8時				

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英 語 科

1年

1. 教科目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

2. 単元名

1年 Lesson 8 それぞれの冬休み (教育出版 ONE WORLD)

3. 単元目標

過去の情報を正しく聞き取ることができる。

過去形を用いた文の形、意味、用法を理解し、夏休みの思い出を相手に伝えるように正しく話したり書いたりできる。

4. 単元の評価目標

(1) 夏休みの思い出について、相手に正確に伝えるように工夫し、積極的に話したり書いたりしようとする。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

【評価方法：夏休みの思い出スピーチ、スピーチ原稿、ペーパーテスト】

(2) 夏休みの思い出について、作文を書くことができ、みんなの前で落ち着いて発表できる。

[表現の能力]

【評価方法：夏休みの思い出スピーチ、スピーチ原稿、ペーパーテスト】

(3) 過去の事柄や夏休みの思い出について読まれた文を聞いて、その内容を理解できる。

[理解の能力]

【評価方法：聞き取りテスト】

(4) 過去形の使い方を理解し、用いることができる。

[言語や文化についての知識・理解]

【評価方法：ペーパーテスト】

5. 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この単元の指導目標は、過去形の用法を理解することである。日本語でも英語と同様に、過去の事柄について述べる時、動詞の形が変化するので、用法を理解することはそれほど難しくないと考える。ただ、生徒は現在形動詞の語彙がまだまだ少ない段階なので、自分の夏休みの思い出を発表するという活動を中心に、動詞の現在形と過去形を正しく使い分け、自分が過去行ったことを伝えることができ、ほかの人の過去の事柄の内容を理解できるようにすることを目標にしたいと考え、以下のような評価規準表を作成した。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
過去形の用法	①友達の夏休みの思い出について、たとえ分からない部分があっても、わかろうと努力しながら、積極的に聞き取ろうとする。		②友達の夏休みの思い出や過去の事柄を聞いて、正しく理解できる。	③現在形と過去形の発音の違いなど語句や文を聞き分ける知識を身につけている。
	④夏休みの思い出について、聞き手に正確に伝わるよう工夫していねいに話そうとする。	⑤夏休みの思い出について、聞き手に正確に伝えることができる。		⑥現在形と過去形の語句や文の使い分けがわかる。
	⑦友達の夏休みの思い出について書かれた文を、理解できないところがあっても推測して読み取ろうとする。	⑧夏休みの思い出について書かれた文を、正しい強制・イントネーション・区切りで読むことができる。	⑨夏休みの思い出や過去の事柄について書かれた文の内容を読み取ることができる。	⑩現在形と過去形の発音の違いなど、語句や文を正しく発音する知識を身につけている。
	⑪夏休みの思い出について間違いを恐れずに積極的に書こうとする。	⑫夏休みの思い出について、読み手に正確に伝えることができる。		⑬現在形と過去形の語句や文の使い分けが分かる。

(2)「精選化」

ここで目指しているのは、過去のことについて、きちんとまとめて相手に正しく伝わるように書いたり話したりできるようになることである。そのためには、過去形の形、意味、用法を理解して、正しく書いたり話したりできるようになることが必要である。そのために、過去形についての正しい知識・理解を基本においた。

次に、過去の事柄について内容をうまく整理するためには、ある程度見本となる文章を実際に聞くことを通して、文の組み立てを習う必要があると考え、②の評価規準を選び出した。

そして、「夏休みの思い出を相手に伝わるように正しく話したり書いたりできる。」という目標に向け、評価規準の⑪にあげる力は大きな助けになると考える。相手の理解度を深めるためには、表現方法だけでなく表現量を豊かすることが大切である。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
過去形の用法			②友達の夏休みの思い出や過去の事柄を聞いて、正しく理解できる。	
		⑤夏休みの思い出について、聞き手に正確に伝えることができる。		⑥現在形と過去形の語句や文の使い分けがわかる。
				⑩現在形と過去形の発音の違いなど、語句や文を正しく発音する知識を身につけて
	⑪夏休みの思い出について間違いを恐れずに積極的に書こうとする。	⑫夏休みの思い出について、読み手に正確に伝えることができる。		⑬現在形と過去形の語句や文の使い分けが分かる。

(3)「構造化」

自己表現の力が伸びることがこの単元を終えての目標なので、授業の大きな流れは評価規準の精選化の段階で考えたことがそのまま実際の流れとなる。ただ、過去形を用いた文に触れ、慣れていく段階として、生徒の抵抗感が少ない「聞く活動」を多く取り入れる。

具体的には、過去形について学習する、過去形を用いた文を聞き取る、聞き取った文構成をベースに、自分の夏休みの思い出について作文し、発表する、という流れになる。

単元名	Unit 8 それぞれの冬休み			
指導目標	過去の情報を正しく聞き取ることができる。 過去形を用いた文の形、意味、用法を理解し、夏休みの思い出を相手に伝わるように正しく話したり書いたりできる。			
観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
第1時 ～ 第4時				<p>⑥⑭現在形と過去形の語句や文の使い分けがわかる。</p> <p>⑩現在形と過去形の発音の違いなど、語句や文を正しく発音する知識を身につけている。</p>
第5時 ～ 第8時	<p>①友達の夏休みの思い出や過去の事柄を聞いて、正しく理解できる。</p>			
	<p>⑦夏休みの思い出について間違いを恐れずに積極的に書こうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)</p> <p>⑧夏休みの思い出について、読み手に正確に伝えることができる。(表現の能力)</p>			
	<p>④夏休みの思い出について、聞き手に正確に伝えることができる。(表現の能力)</p>			

6. ルーブリック

⑦夏休みの思い出について間違ふことを恐れずに積極的に書こうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

3	自分の夏休みの思い出について、学習した文法や語句を工夫して用いて、まとまりのある内容の文章を十分な文章量で分かりやすく書こうとしている。
2	自分の夏休みの思い出について、教科書本文や見本文にならって、一定の内容量のまとまりのある文章を書こうとしている。
1	自分の夏休みの思い出について、1～2文しか書こうとしない。

⑧夏休みの思い出について、読み手に正確に伝えることができる。(表現の能力)

3	自分の夏休みの思い出について、学習した文法や語句を工夫して用いて、まとまりのある内容を正確に書くことができる。
2	自分の夏休みの思い出について、教科書本文や見本文にならって、まとまりのある内容を書くことができる。
1	自分の夏休みの思い出について、1～2文しか書けない。

④夏休みの思い出について、聞き手に正確に伝えることができる。(表現の能力)

3	自分の夏休みの思い出について、身振りを交えながらまとまりのある内容を正確に話すことができる。
2	自分の夏休みの思い出について、落ち着いた態度でまとまりのある内容を話すことができる。
1	自分の夏休みの思い出について、1～2文程度の内容しかスムーズに話せない。

①友達の夏休みの思い出や過去の事柄を聞いて、正しく理解できる。

3	友達の夏休みの思い出や過去の事柄を聞いて、ほぼ正しく理解できる。
2	友達の夏休みの思い出や過去の事柄を聞いて、多少間違えながらも大まかに理解できる。
1	友達の夏休みの思い出や過去の事柄を聞いて、話の大枠をとらえることが難しい。

⑤⑨現在形と過去形の語句や文の使い分けがわかる。⑥現在形と過去形の発音の違いなど、語句や文を正しく発音する知識を身につけている。

3	現在形と区別して過去形の語句や文を正しく組み立てられ、正しく発音することができる。
2	現在形と区別して過去形の語句や文をほぼ正しく組み立てられ、多少間違えながらも発音することができる。
1	現在形と過去形を区別せず、文を組み立て、発音する。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英 語 科

2年

1. 教科目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

2. 単元名

2年 Unit 7 My Favorite Movie (東京書籍 New Horizon)

3. 単元目標

比較級・最上級を理解して、正しく運用できるようになり、ある事柄について比較表現を使って表されたQ&Aの活動に積極的に参加したり、共通の話題について自分のものの見方を述べ合ったりすることができる。

4. 単元の評価目標

(1) 学習した比較級・最上級を使って、Q&Aの問題を作ったり、ほかの生徒の問題に答えたりしようとする。また、あることに関する自分の考えを述べようとする。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

【評価方法：Q&Aの発表】

(2) 学習した比較級・最上級を使って、Q&Aの問題を作ったり、ほかの生徒の問題に答えたりすることができる。また、あることに関する自分の考えを述べることができる。

[表現の能力]

【評価方法：Q&Aの発表、発表原稿、Answer sheet】

(3) Q&Aの問題に答えたり、比較の表現が使われている長文の意味を正しく理解できる。

[理解の能力]

【評価方法：Answer sheet、聞き取りテスト、ペーパーテスト】

(4) 比較級・最上級の正しい形と、使い方を知る。

[言語や文化についての知識・理解]

【評価方法：ペーパーテスト】

5. 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この単元の指導目標は、比較の表現（最上級・比較級・同等比較）の用法を理解することである。生徒たちにとって、比較するという行為、および、会話は、非常に日常的なことからであるので、即、生活の中で使うことができるという点で、なじみやすい、理解しやすい文法的材料であると思われる。ゆえに、学習した表現を使って、Q&Aを作ったり、問題を出し合い、答える活動を競ったり、あるいは、ある事柄に関する自分の見方を、表現したりすることを楽しむ活動に発展させることが可能であるといえよう。

教科書に取り上げられている教材は、映画に関するもので、そこを切り口に、生徒の興味を引き、いろいろな自分の見方を表現しようとする意欲を引き出すために、以下の評価規準表を作成した。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
比較の用法	①Q&A や、提示された事柄に対する見方を述べるのを、積極的に聞き取ろうとする。		②Q&A や、提示された事柄に対する見方を聞いて、その内容が理解できる。	③比較表現を含む文を理解して、相手の述べようとする内容を聞き取れる。
	④Q&A や、提示された事柄に対する見方について、間違いを恐れずに積極的に話そうとする。 ・提示された事柄についての相手の見方に、関心を持って質問しようとする。	⑤提示された事柄について、比較を使って、英語で話すことができる。 ・提示された事柄について、比較を使って、英語で質問することができる。 ・提示された事柄についての質問に、英語で答えることができる。		⑥比較表現を理解して、ある事柄について、英語で正しく述べられる。 ・比較表現を理解して、ある事柄について、英語で正しく質問したり、答えたりできる。
	⑦ある事柄についての比較を含んだやや長文を、積極的に読み取ろうとする。	⑧ある事柄についての比較を含んだやや長文を、正しい発音、イントネーションで読むことができる。	⑨ある事柄についての比較を含んだやや長文の内容を、読んで理解できる。	⑩ある事柄についての比較表現を使った文を、理解できる。
	⑪Q&A や、提示された事柄、さらには自分で考えた事柄に対する見方について、間違いを恐れずに積極的に書こうとする。	⑫Q&A や、提示された事柄、さらには自分で考えた事柄に対する見方について、英語で書くことができる。		⑬比較表現を理解して、Q&A や、提示された事柄に対する見方について、英語で書くことができる。

(2)「精選化」

ここで目指しているのは、ある事柄について、Q&A の活動に積極的に参加したり、共通の話題についての自分のものの見方を述べ合って、お互いに対する理解を深めようとする姿である。

そのためには、まず、比較の各表現を理解して、正しく運用できるようになることが必要である。こ

れを踏まえて、まず、比較表現を使って、なるべく多くの例を短い文で表すことにより、使い方に慣れることが必要と考え、⑬を選んでる。次に、より多くの語彙を使って、自分の考えた文を書く力が、Q&A や意見交換には必要と考えるので、⑪⑫を同一の力と考え、選んだ。

さらに、Q&A を積極的に取り組んだり、意見交換をするということは、話題に対する興味もさることながら、相手への共感、理解が不可欠と考えるので、①④⑤をまとめて捉えていきたいと考える。

最後に、力を総括する意味で、自分たちが作ってきたいろいろな語彙、表現を含んだ長文を理解できることを、まとめとしたいので、⑨を選んだ。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
比較の用法	①Q&A や、提示された事柄に対する見方を述べるのを、積極的に聞き取ろうとする。			
	④Q&A や、いろいろな事柄に対する見方について、間違いを恐れずに積極的に話そうとする。 ・いろいろな事柄についての相手の見方に、関心を持って質問しようとする。	⑤いろいろな事柄について、比較を使って、英語で話すことができる。 ・いろいろな事柄について、比較を使って、英語で質問することができる。 ・いろいろな事柄についての質問に、英語で答えることができる。		
			⑨ある事柄についての比較を含んだやや長文の内容を、読んで理解できる。	
	⑪Q&A や、提示された事柄、さらには自分で考えた事柄に対する見方について、間違いを恐れずに積極的に書こうとする。	⑫Q&A や、提示された事柄、さらには自分で考えた事柄に対する見方について、英語で書くことができる。		⑬比較表現を理解して、Q&A や、提示された事柄に対する見方について、英語で書くことができる。

(3)「構造化」

「精選化」での考察がそのまま授業の流れになる。つまり、比較表現を学習する、比較表現を使って短い文を書く、それを組み合わせて Q&A を考えて発表したり、答えたり、また自分の意見を相手に伝えたりする、教科書の長文を読み取る、ということになる。

単元名	Unit 7My Favorite Movie			
指導目標	比較級・最上級の文の意味、用法を理解し、表現したり、まとまった文を理解することができる。			
観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
第1時 ～ 第4時	<p>①Q&A や、提示された事柄、さらには自分で考えた事柄に対する見方について、間違いを恐れずに積極的に書こうとする。</p> <p>②Q&A や、提示された事柄、さらには自分で考えた事柄に対する見方について、英語で書くことができる。</p>		<p>③比較表現を理解して、Q&A や、提示された事柄に対する見方について、英語で書くことができる。</p>	
第5時 ～ 第10時	<p>④Q&A や、いろいろな事柄に対する見方について、間違いを恐れずに積極的に話そうとする。</p> <p>・いろいろな事柄についての相手の見方に、関心を持って質問しようとする。「話す」(関心・意欲・態度)</p> <p>⑤いろいろな事柄について、比較を使って、英語で話すことができる。</p> <p>・いろいろな事柄について、比較を使って、英語で質問することができる。</p> <p>・いろいろな事柄についての質問に、英語で答えることができる。「話す」(表現の能力)</p>			
第11時 ～ 第13時			<p>⑥ある事柄についての比較を含んだやや長文の内容を、読んで理解できる。</p>	

6. ルーブリック

<p>④Q&A や、いろいろな事柄に対する見方について、間違いを恐れずに積極的に話そうとする。 ・いろいろな事柄についての相手の見方に、関心を持って質問しようとする。 「話す」(関心・意欲・態度)</p>		
<p>⑤いろいろな事柄について、比較を使って、英語で話すことができる。 ・いろいろな事柄について、比較を使って、英語で質問することができる。 ・いろいろな事柄についての質問に、英語で答えることができる。 「話す」(表現の能力)</p>		
A	4	自分で考えた事柄について、比較と、今までに習った表現を使って、自然な調子で5文以上の問題を出し、出てきた答えに対して、適切に答えることができる。また、ある事柄について、自分の見方を、比較や、今までに習った表現を使って、5文以上の英文で自然な調子で述べることができる。
B	3	自分で考えた事柄について、比較を使って一問につき3文以上の問題を出し、出てきた答えに対して、適切に答えることができる。また、ある事柄について、自分の見方を、比較を使って、3文以上の英文で正しく述べるができる。
C	2	自分で考えた事柄について、比較を使って一問につき1文以上の問題を出し、出てきた答えに対して、Yes、Noで答えることができる。また、ある事柄について、自分の見方を、比較を使って、1文以上の英文で正しく述べることができる。
	1	自分で考えた事柄について、比較を使って一問につき1文の問題を出し、出てきた答えに対して、Yes、Noで答えることができる。また、ある事柄について、自分の見方を、比較を使って、1文の英文で述べるができる。語順のみを問題とし、キーワードから、問題が類推できればよしとする。

<p>①Q&A や、提示された事柄に対する見方を述べるのを、積極的に聞き取ろうとする。 「聞く」(関心・意欲・態度)</p>		
A	3	Answer sheet に、正しい文で答えている。
B	2	Answer sheet に、Yes、Noで答えている。
C	1	答えていない。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英語科

3年

1・教科目標：外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション力の基礎を養う。

2・単元名：3年 Unit5 Cell Phone- For or Against (東京書籍 NEW HORIZON)

3・単元目標：①分詞の形容詞的用法、間接疑問文を用いた文の形・意味を理解し、表現できる
②身近になりつつある携帯電話を話題にして、自分の言葉で賛成・反対意見を述べることができる。
③中学生が制約を受けやすい事項について、自分なりの意見を英文にして表現できる。

4・単元の評価目標

(1)学習した文法事項を使って、自分の意見を伝えようとする。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

【評価方法：スピーチ】

(2)制約を受けやすい事項についての意見を、学習した事項を使いながら発表できる。

[表現の能力]

【評価方法：スピーチ】

(3)人の発表を聞いてその内容を理解する。

[理解の能力]

【評価方法：聞き取りテスト、ペーパーテスト】

(4)身の回りにある英語に現在・過去分詞が形容詞的に使われていることを理解する。
疑問詞を含む文が文中の1節となったときの語順や時制を理解する。

[言語や文化についての知識・理解]

【評価方法：ペーパーテスト】

5・「具体化」「精選化」「構造化」

(1)「具体化」

この単元の指導目標は、分詞の形容詞的用法と間接疑問文の表現を理解し、表現することである。生徒たちが好む食物によく過去分詞が使われており、身近な分詞として紹介することからなじませたい。また、進行形や受動態を学習する中で分詞の持つ意味についてはおぼろげながら理解できているので、導入はしやすいと思われる。これらの表現を実際に使って、コミュニケーション活動に広がりを持たせるのが重要である。

題材は身近な持ち物でありながら大人から制約を受けやすい携帯電話で、中学生なりの意見を持っていると思われるので、まずその意見を英語で表現することから始め、身の回りの事項から賛成、反対意見を述べられ、発表できるように発展させたい。

単元目標から以下の評価規準表を作成した。

学習内容	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
現在分詞 過去分詞 間接疑問	①相手の意見をしっかりと聞き取ろうとしている。		②相手の述べる内容を聞いて、理解できる。	③分詞の形容詞的用法、間接疑問を理解して、相手の述べる内容を聞き取れる。
	④携帯電話についての賛成・反対意見を積極的に述べようとしている。	⑤携帯電話についての賛成・反対意見を英語で述べることができる。		⑥分詞の形容詞的用法、間接疑問を理解して、正しく述べられる。
	⑦自分の身の回りで制約を受けやすい事項についての賛成・反対意見を積極的に書こうとしている。	⑧自分の身の回りで制約を受けやすい事項についての賛成・反対意見を英語で書くことができる。		⑨分詞の形容詞的用法、間接疑問を理解して、正しく書くことができる。

(2)「精選化」

目標を実現させるために、用法を正しく理解して英文を作成することが必要になるので⑨を選んだ。

発表ができるようになるために、①④⑧を選んだ。

他社の発表を聞き取れるているかを判断するために、②を選んだ。

学習内容	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
現在分詞 過去分詞 間接疑問	①相手の意見をしっかりと聞き取ろうとしている。		②相手の述べる内容を聞いて、理解できる。	
	④携帯電話についての賛成・反対意見を積極的に述べようとしている。			
		⑧自分の身の回りで制約を受けやすい事項についての賛成・反対意見を英語で書くことができる。		⑨分詞の形容詞的用法、間接疑問を理解して、正しく書くことができる。

(3)「構造化」

授業の流れは教科書の本文内容を読み取った上で、以下の形で進める。

単元名	Unit5 Cell Phone- For or Against			
指導目標	分詞の形容詞的用法、間接疑問文を用いた文の形・意味を理解し、表現できる 身近になりつつある携帯電話を話題にして、自分の言葉で賛成・反対意見を述べることができる。 中学生が制約を受けやすい事項について、自分なりの意見を英文にして表現できる。			
学習内容	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
have to will must	<pre> graph LR A["①相手の意見をしっかりと聞き取ろうとしている。 ④携帯電話についての賛成・反対意見を積極的に述べようとしている。 ⑧自分の身の回りで制約を受けやすい事項についての賛成・反対意見を英語で書くことができる。"] B["②相手の述べる内容を聞いて、理解できる。"] C["⑨分詞の形容詞的用法、間接疑問を理解して、正しく書くことができる。"] A --> B B --> C </pre> <p>⑨分詞の形容詞的用法、間接疑問を理解して、正しく書くことができる。</p> <p>②相手の述べる内容を聞いて、理解できる。</p> <p>①相手の意見をしっかりと聞き取ろうとしている。 ④携帯電話についての賛成・反対意見を積極的に述べようとしている。 ⑧自分の身の回りで制約を受けやすい事項についての賛成・反対意見を英語で書くことができる。</p>			

6・ループリック

⑧自分の身の回りで制約を受けやすい事項についての賛成・反対意見を英語で書くことができる。		
A	4	中学生が制約を受けやすい事項について、自分の意見を理由とともにくわしく、わかりやすく述べるができる。その理由が中学生全体にあてはまるものであること。
B	3	中学生が制約を受けやすい事項について、自分の意見を理由とともにくわしく、わかりやすく述べるができる。
C	2	中学生が制約を受けやすい事項について、自分の意見を理由とともに述べる。
	1	中学生が制約を受けやすい事項について、自分の意見を述べる。

⑨許可・禁止の用法、未来の助動詞の用法を理解して、正しく書くことができる。		
A	4	中学生が制約を受けやすい事項について、自分の意見を学習した用法を使って書き、その理由を整合性をもって書こうとしている。
B	3	中学生が制約を受けやすい事項について、自分の意見を学習した用法を使って書き、わかりやすく理由が説明できる。
C	2	中学生が制約を受けやすい事項について、自分の意見を学習した用法を使って書くことができる。
	1	中学生が制約を受けやすい事項について、自分の意見を学習した用法を使って書くことができない。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

英語科

3年

1 教科目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

2 単元名

3年 Unit 6 20th Century Greats (東京書籍 NEW HORIZON)

3 単元目標

接触節、関係代名詞などの後置修飾の文構造を理解し、それを使って表現できる。
偉人と呼ばれる人の業績をまとめることを通して、自分の生き方について考える機会にできる。

4 単元(題材)の評価目標

(1) 偉人と呼ばれる人について、調べた内容や感想などについて、学習した表現を使って、積極的に表現しようとする。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]
【評価方法：ビデオメッセージ】

(2) 偉人と呼ばれる人について、学習した文型を使って、調べた内容や感想を英語で表現できる。

[表現の能力]
【評価方法：ビデオメッセージ】

(3) 偉人と呼ばれる人について聞いたり、読んだりしてその内容を理解できる。

[理解の能力]
【評価方法：聞きとりテスト、ペーパーテスト】

(4) 接触節、関係代名詞などの後置修飾の文構造を理解し、用法を知る。

[言語や文化についての知識・理解]
【評価方法：ペーパーテスト】

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1) 「具体化」

この単元の指導目標の一つは、接触節、関係代名詞などの後置修飾について学び、理解することである。もう一つは、中学校卒業を間近に控えたこの時期に、時代に名を残した人たちの業績について調べたことを英語でまとめることで英語の力を確認すること、そして、そうした人たちの業績や生き方、考え方などを知ることを通してこれからの自分の将来の生き方について考えるきっかけとすることも大切と思い、以下のような評価規準表を作成した。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
接触節 関係代名詞	①偉人について話されている内容を積極的に聞き取ろうとする。		②偉人について話されている内容を聞いてそれが理解できる。	③接触節、関係代名詞などの後置修飾の意味と用法を理解して、それを使って基本的な文が作れる。
	④自分で調べた偉人について、間違いを恐れずに積極的に述べようとしている。	⑤自分で調べた偉人について、学習した表現を使って、まとめて英語で述べることができる。		
	⑥偉人について書かれた読み物などを積極的に読みとろうとしている。	⑦偉人について書かれた読み物を内容を考えながら、正しい発音、適したイントネーションで読むことができる。	⑧偉人について書かれた読み物の内容を正しく読みとれる。	
	⑨自分で調べた偉人について学習した表現を使って、間違いを恐れずに積極的に書こうとしている。	⑩自分で調べた偉人について、学習した表現を使って、まとまった英文を書くことができる。		

(2) 「精選化」

このUNITでは生徒にとって英語学習の中で最もわかりにくいものの一つにあげられている、後置修飾を学習する。日本語も怪しい上に日本語にはない語順、文の型なので、生徒はますます混乱をきたすところである。しかし、この関係代名詞などの表現方法が理解できるとより内容の深いものが読み取れるようになるし、自分の表現できる範囲も広がるので、英語の学習に対する興味も増すことが期待できる。そういうことを考えて、評価規準の③、⑧を選び出している。

また、内容的には20世紀の偉人について学習するのであるが、それを通して自分の将来について考えることもこの時期大切なのではないかと思う。それを英語でまとめるわけだが、内容的にやや複雑なものになるはずなので、学習した接触節や関係代名詞を使う場面も自然に多くなると思い、⑨、⑩の評価規準を選び出している。

学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
接触節 関係代名詞				③接触節、関係代名詞などの後置修飾の意味と用法を理解して、それを使って基本的な文が作れる。
			⑧偉人について書かれた読み物の内容を正しく読みとれる。	
	⑨自分で調べた偉人について学習した表現を使って、間違いを恐れずに積極的に書こうとしている。	⑩自分で調べた偉人について、学習した表現を使って、まとまった英文を書くことができる。		

(3) 「構造化」

(2)の「精選化」で述べたように、接触節、関係代名詞は生徒にとって特に混乱をきたすところなので、丁寧に学習をして自分で文が作れるところまでじっくりと取り組みたい。そして、教科書の本文を読み取ることで、関係代名詞などをどのように使うのかを実感させたい。また、最終的には自分の将来について考えをまとめて書くという課題に取り組ませることで、3年間の英語学習のまとめの一つにしていきたい。

単元名	Unit 6 20th Century Greats			
指導目標	接触節、関係代名詞などの後置修飾のかたちを理解し、それを使って表現できる。時代の名を残した偉人たちの業績をまとめることを通して、自分の生き方について考える機会とする。			
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
第1時 ～ 第4時			⑧偉人について書かれた読み物の内容を正しく読みとれる。	③接触節、関係代名詞などの後置修飾の意味と用法を理解して、それを使って基本的な文が作れる。
第5時 ～ 第8時	⑨自分で調べた偉人について学習した表現を使って、間違いを恐れずに積極的に書こうとしている。「書く」(コミュニケーションへの関心・意欲・態度) ⑩自分で調べた偉人について、学習した表現を使って、まとまった英文を書くことができる。「書く」(表現の能力)			

6 ルーブリック

⑨自分で調べた偉人について学習した表現を使って、間違いを恐れずに積極的に書こうとしている。		
⑩自分で調べた偉人について、学習した表現を使って、まとまった英文を書くことができる。		
A	4	自分の観じたこと、考えたことなどを、理由や例をあげ、自分のことと関連づけながら伝えようとしている。 かなり長い英文が、少しの間違いはあるものの、ほぼ正確に書けている。また、自分の考えを伝えるための適切な表現を用いている。
B	3	自分の感じたこと、考えたことなどをはっきりと伝えようとしている。 それぞれの文は短いが、適切な表現を用い、語順などが正確に書けている。
C	2	調べた事実はわかるが、自分の考えが、あまり伝えられていない。 単純な文は書けているが、少し複雑になると適切な表現が用いられておらず、語順などに正確さを欠く。
	1	調べた事実も内容が乏しく、自分の考えが伝わってこない。 全体的に語順が不正確で、適切な表現が用いられていない。大文字、小文字、符号なども不正確な部分が少なからず見られる。

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析

育成学級（音楽）

1 教科目標

- ①様々な歌に興味を持ち、しっかりと声を出して、音楽に合わせて歌うことができる。
- ②音楽に合わせて、楽器を演奏することや身体を動かすことが楽しめる。
- ③様々な音楽を鑑賞し、それぞれの曲の美しさや楽しさを感じることができる。

2 単元名 歌・身体的表現

3 単元目標

歌をうたうことや、クラシック曲などに合わせて身体的表現をすることを通して、音楽に親しむことができる。

4 単元(題材)の評価目標

- (1) 歌・クラシック・和楽器曲の旋律の楽しさや美しさに触れ、リズムに合わせて身体的表現ができる。 [評価方法：授業中の観察]
- (2) 指導者の動きを模倣した身体的表現ができるようになれば、自分がリーダーになり、仲間とともに身体的表現ができる [評価方法：授業中の観察]

5 「具体化」「精選化」「構造化」

(1)具体化

この単元の目標は、歌をうたうことや、クラシック曲などに合わせて身体的表現をすることを通して、音楽に親しむことができることである。今年度の育成学級の生徒たちは、人前で何か活動をする、発表することに照れやはずかしさが前面に出てしまい、素直に自己表現をすることが苦手である。しかし、興味のあることや、楽しそうなことには積極的に取り組むことができる。リズムの特徴を感じ取って身体を動かす、扱いやすい小打楽器リズムをとって音を出してみる、指導者や仲間と一緒に歌う楽しさを感じることで、音楽への興味関心を開け、愛好する心が育っていけば、自己表現をすることにも積極性が出てくるのではないかと思い、以下のような評価規準表を作成した。

学習内容	いろいろな音楽を 楽しく聴く	斉唱・合唱	動作・身体表現
歌・身体的表現	①指導者が選んだCD・ビデオや指導者の演奏を楽しく聴くことができる。	②CD・ビデオや指導者の演奏により、親しみを持たれた歌曲を歌うことができる。	③旋律の楽しさや美しさに触れ、リズムに合わせて身体的表現ができる。

	④指導者が選んだCD・ビデオや指導者の演奏の中から、自分の好きな曲を選んで聴くことができる。	⑤指導者が選んだCD・ビデオや指導者の演奏の中から、自分の歌いたい曲を選んで歌うことができる。	
	⑥いろいろな曲を、自分から聴こうとする。	⑦いろいろな曲の中から、自分の歌いたい曲を選んで歌うことができる。	

(2)精選化

育成学級の生徒たちの実態としては、素直に自己表現をすることが苦手で、授業に対して受け身になりがちである。目標としては、⑥・⑦であるが、まず④・⑤について受け身の姿勢から、少しずつ能動的な姿勢を身につけてほしい。それが③の目標につながっていくと思うので、⑥・⑦の評価規準を選んだ。

学習内容	いろいろな音楽を楽しく聴く	斉唱・合唱	動作・身体表現
歌・身体的表現			③旋律の楽しさや美しさに触れ、リズムに合わせて身体的表現ができる。

	④指導者が選んだCD・ビデオや指導者の演奏の中から、自分の好きな曲を選んで聴くことができる。	⑤指導者が選んだCD・ビデオや指導者の演奏の中から、自分の歌いたい曲を選んで歌うことができる。	

平成17年度・18年度・19年度 文部科学省指定「学力向上拠点形成事業」
平成16年度・17年度・18年度 京都市教育委員会指定
みやこ 学校創生事業“みやこステップアップ・スクール”
「指導と評価の一体化」

研究主題 教育評価を活かしたカリキュラム・マネジメント

「評価規準」づくりに向けての目標・内容分析事例集

発行日 平成18年11月21日

編集発行 京都市立衣笠中学校

TEL (075) 461-2222

FAX (075) 461-2223

印刷 橋本印刷

TEL (075) 311-7803

FAX (075) 311-4873